

第二編 産業經濟

第一章 産業の動向

第一節 最近の移り変わり

この一〇年の産業の移り変わりを記述するとき、バブルとその崩壊を抜きにすることはできない。

大都市を中心に、地価が際限を知らぬかのように高騰し、株価も同様の状態で、平成景気に日本全体が沸きかえっていた。しかし、国の取った投機的土地売買の抑制などとともに地価が鎮静化し、文字どおりバブルがはじけると、都市のマンションや建売住宅の価格が急落し、株価も下落した。

バブル景気のときは、この山間僻地においては、特に自覚はなかったが、バブルがはじけてからの長びく不景気は、直接・間接にその影響を感じずにはおれない。

本村に直接関係するものを挙げても、木材に続き牛肉の輸入自由化により、価格の低迷が長期化し、今日の状況を招いている。

特に、その影響が著しい林業においては、長期化する木材価格の低迷が、育林への意欲の減退を招き、除・間伐や枝打ちの遅れ、加えて林業従事者の高齢化、後継者不足が危機的状況下にあり、林業の担い手の確保・育成が急務となっている。

また、農業での重大事は、何といってもガット・ウルグアイ・ラウンド（新多角的貿易交渉）農業交渉の實質的な合意によるコメのミニマム・アクセス機会（最低輸入量）の受け入れの決定がなされたことであろう。これにより、聖域とまでいわれたコメが、段階的に量を増やして輸入されることとなったものの、関税化は、二〇〇〇年まで実施されないこととなった。また、農林水産省は、平成四年六月「新しい食料、農業、農村政策の方向」（新農業政策）を発表して、今後の農政の指針を出したが、日本のコメを中心として、これからが将来の日本の農業にとって、非常に重大な局面をむかえたといえるのではなからうか。

このような農林業を取り巻く、非常に厳しい状況下にあっても、美川村においては、農林業を抜きにして村の産業振興はあり得ないとの認識に立ち、劣悪な土地条件

のもと、国・県のあらゆる補助や援助を受け、また、村単独事業でも産業振興施策を実施したので、以下において、その主なものを記述することとする。

第二節 農林業の概況

一 土地利用の状況

美川村の総面積は、従来、一万三五〇二ヘクタールとされていたが、国土地理院の「全国道府県市区町村別面積調」により、その面積測定法や測定精度の向上により面積値が改訂され、現在一万三四三八ヘクタールとなり、六四ヘクタール狭くなったことになる。一九九〇年（平成二年）の農林業センサスでみると、そのうち、耕地面積は、四五八ヘクタール（耕地率三・四パーセント）で、一〇年前に比べ五八ヘクタール減少した、

しかし、耕地の利用率については、一二六・二パーセントで、過去の推移からみてもまずまずとみてよいと思われる。耕地の田畑別内訳をみると、田が一八九ヘクタールで二二ヘクタールの減、畑は、二六九ヘクタールで三

六ヘクタールの減と大幅な減少である。畑の内訳では、樹園地が半減しているのに対し、普通畑は、三八ヘクタールの増となっている。

これを見ると、主として水田転作等により田が普通畑として使用され、樹園地から林地へと移行したことが窺える。また、耕作放棄地も、最近目立って増えて来ている。

作物別の作付延べ面積の表をみると、水田転作等により水稲が減少しているほか、葉タバコ、三椏などの工芸作物や桑（養蚕）の激減が目立つが、一方では、夏秋野菜が増加しているのは特記すべき事柄であろう。

一方、林野面積は、一万二一八六ヘクタール（林野率九〇・五パーセント）と二五八ヘクタール増加しており、このことから、耕地から林地への転用が進んだことが窺える。

第2編 産業経済

年度別経営状況調

区 別 \ 年 度	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年
水 田	211ha	202ha	189ha
畑	305	292	269
計	516	494	458
農 家 戸 数	787戸	665戸	569戸
一 戸 当 耕 地 面 積	0.7ha	0.7ha	0.8ha
耕 耘 機 (牽 引 型 を 含 む)	631台	640台	677台
動 力 噴 霧 機	} 445台	450台	239台
動 力 撒 粉 機			
田 植 機	69	75	178
刈 取 機	183	200	316
米 乾 燥 機	68	75	126
自 脱 型 コ ン バ イ ン	26	35	78

「農業センサス」

耕 地 面 積

(単位 ha)

年 次	田	畑 計	普通畑	樹園地	合 計
昭和 35年	252	505	—	—	757
40	267	498	307	191	765
45	270	462	299	163	732
50	213	305	140	165	518
55	211	305	144	161	516
60	202	292	186	106	494
平成 2年	189	269	182	87	458

年次別農業統計

作物名	昭和55年		昭和60年		平成2年	
	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量
麦	0 ha	0 t	1 ha	2 t	1 ha	1 t
甘藷	3	43	3	48	3	47
馬鈴薯	17	197	17	298	7	120
とうもろこし	26	130	3	90	34	153
大豆	25	27	24	38	22	24
小豆	12	12	10	10	16	14
大豆根	33	1,140	33	1,290	36	788
かりん	2	29	2	36	2	40
かぼち	2	34	2	36	2	36
トマト	1	80	1	53	2	88
ピーマン	—	—	1	24	5	175
キャベツ	5	133	6	170	7	145
はくさい	2	40	2	40	2	50
ホウレン草	6	58	4	27	2	12
さやいんげん	—	—	1	6	3	18
果樹	39	66	31	89	19	17
肉用牛	—	280	—	261	45戸	145

果樹は主に梅、栗である（農業統計はすべて農家の申告に基づく）。

60年（ ）及び2年とうもろこしは、未成熟。2年果樹は、梅を含まず。

二 就業人口の動態

世界情勢や日本の経済が激動したこの一〇年間に、農村の産業構造にも少なからぬ変動があったことを別表は示している。人口減少に加え、急速な高齢化により、就業人口の減少は、総人口の減少率二四パーセントに対し、三三パーセントと大幅な減少となっている。

構成比をみると、一〇年間で第一次産業が減少し、第二次・第三次が増え、均衡化している。

農業をみると、実に六〇パーセントの激減で、構成比でも四〇パーセントから二四パーセントへ急落している。一方、林業の従事者は、若干増加しているのが特筆される。

また、建設業も一〇年で約一〇〇人の減少となっている。

第2編 産業経済

産業別就業人口

(単位 人)

年 別		昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年
総 数		2,085	1,863	1,408
第一次産業	農 林 業 漁 業	834 109 1	657 137 1	342 115 2
	計	944	795	459
第二次産業	鉱 業 建 設 製 造	1 388 182	1 357 196	— 289 193
	計	571	554	482
第三次産業	卸 売 業 金 融 業 運 輸 業 サ ー ビス	165 63 253 83	136 64 239 73	142 59 186 80
	小 売 業 保 険 業 通 信 業			
	業 務			
	計	564	512	467

国勢調査による。(55年は6人の分類不能がある。)

農家戸数の推移

(単位 戸)

区 分		昭和 35年	40	45	50	55	60	平成 2年
総 農 家 数		1,215	1,066	964	796	787	665	569
専 兼 別	専 業	79	130	134	98	119	154	122
	第一種兼業	722	544	369	222	160	108	126
	第二種兼業	414	392	461	476	508	403	321
経 営 耕 地 規 模 別	例外規定	3	29	—	—	—	—	—
	0.3ha未満	299	268	322	262	322	254	215
	0.3~0.5	296	266	225	201	159	165	134
	0.5~1.0	425	368	289	243	214	167	161
	1.0~1.5	147	115	104	76	67	60	46
	1.5~2.0	36	17	21	13	20	14	8
	2.0ha以上	9	3	3	1	5	5	5

第二章 農 業

第一節 作目別動向

一 米

村内の平成五年産水稲作付面積は一三六ヘクタールで、昭和五九年に比べて一九ヘクタール（約二パーセント）の減少となっている。また、政府買入価格については、六〇年以降徐々に値下がりし、平成五年買入価格では、比較して六〇キロあたり二四四八円の値下げとなった。

平成五年、水稲の作柄は戦後最低という記録的な不作となった。このことが引金となり、七年余り繰り広げられてきた「ガット・ウルグアイラウンド」農業交渉が平成五年末に合意に達し、ミニマムアクセス（最低輸入量）の受け入れにより、農家経済及び農村をとりまく情勢に大きな影響をもたらした。

また、米の一部市場開放と国内産の米不足により、消費者の間では、米の緊急輸入による混乱、外国産米に対するさまざまな不安も手伝って「平成の米騒動」ともいわれた。

前にも述べたように、本村における水稲作付面積は、年年減少傾向にあり、収穫量においても、面積に比例し減少している。これは、農業者の高齢化による耕地利用の低下、低収田への植林など、米以外の作物に転換されてきているためである。

こうした中で、平成五年度からスタートした水田営農活性化対策は、水稲作と転作を通じた生産性の高い営農の確立、更には、農家の担い手が減少していくなか、二世紀を展望した担い手の育成を図るなど、主要な基幹作物である水稲の安定的な供給体制を確立することが急務となっている。また、今後は外国産米に対する理解を深め、地域農業のあり方を考えていかなければならない。

第2編 産業経済

水稻の作付面積と収穫量

年次	美川村			愛媛県		
	作付面積	10a当たり 収穫量	収穫量	作付面積	10a当たり 収穫量	収穫量
昭和35年	222ha	339kg	750 t	42,100ha	396kg	166,600 t
40	242	368	891	39,700	412	163,600
45	221	398	880	33,000	406	134,000
50	187	392	733	29,900	455	136,000
55	160	306	490	25,600	386	98,800
59	155	447	694	24,200	490	118,600
60	155	438	679	24,300	486	118,100
61	152	436	664	23,900	472	112,800
62	149	418	623	22,000	464	102,100
63	145	433	629	21,500	479	103,000
平成元年	143	428	613	21,200	469	99,400
2	138	423	584	20,900	420	87,800
3	145	426	618	20,500	438	89,800
4	135	425	574	20,800	485	100,900
5	136	343	466	21,200	408	86,500

「農作物調査」の結果による。

米の政府買入価格

(60kg玄米)

年度	政 府 買 入 価 格	
	一 等	三 等
昭和50年	15,616円	13,002円
55	17,736	16,416
60	18,714	17,394
61	18,712	17,392
62	17,600	16,280
63	16,772	15,452
平成元年	16,774.62	15,454.62
2	16,534	15,214
3	16,428	15,108
4	16,430	15,110
5	16,266	14,946

昭和53年以後は等級改訂による新等級（1等は旧の1～3等、3等は旧の5等）である。

価格は、包装（紙袋）代を加えた金額である。

転作等実績書

事業名 項目		水田利用再編対策			水田農業確立対策（前期対策）		
		昭和59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	平成元年度
目標面積 ha		34.60	33.20	34.60	45.10	45.10	45.10
実績面積 ha		34.80	35.39	36.38	45.90	45.92	46.39
達成率 %		100	106	105	101	102	103
内 訳	特例作物ha	7.63	8.98	7.28	16.36	18.05	16.66
	永年性作物 ha	1.68	1.44	1.28	1.82	2.08	2.88
	一般作物ha	18.02	17.98	18.39	16.69	15.72	15.28
	実績算入ha	4.03	5.70	9.02	10.62	11.56	12.76
	他用途利用 米ha 〃 (kg)	3.44 (13,770)	1.29 (5,070)	0.41 (1,620)	0.41 (1,620)	0.41 (1,620)	0.41 (1,620)
事業名 項目		水田農業確立対策（後期対策）			水田営農活性化対策		
		平成2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
目標面積 ha		48.8	48.8	46.8	50.2	50.1	
実績面積 ha		49.5	52.2	49.7	51.0	50.1	
達成率 %		101	107	106	102	100	
内 訳	特例作物ha	16.8	17.1	19.5	18.5	16.8	
	永年性作物 ha	2.5	5.5	3.1	3.2	3.2	
	一般作物ha	13.3	11.4	8.1	6.4	6.0	
	実績算入ha	14.4	15.7	16.5	20.4	24.1	
	他用途利用 米ha 〃 (kg)	2.5 (10,050)	2.5 (10,050)	2.5 (10,050)	2.5 (10,050)		

注) 平成6年度は、当初計画の数字とする。

特例作物の面積のうちに、自己保全管理田を含む。

第2編 産業経済

農作物作付延べ面積

(単位 ha)

作物名	昭和35年	40	45	50	55	60	平成2年
稲	241	263	228	188	160	155	138
麦類	172	56	33	2	0	1	1
いも類	79	76	36	22	20	20	10
雑穀	181	114	53	7	10	15	14
豆類	65	70	57	45	43	42	41
果樹	2	14	39	37	39	32	30
野菜	28	38	63	72	102	98	110
工芸農作物	543	218	160	125	78	99	55
桑	3	55	82	62	49	24	12
飼(肥)料作物	6	5	7	—	141	148	164
その他作物	—	—	—	—	—	—	3
計	1,320	909	758	560	642	634	578
耕地面積	757	765	732	518	516	494	458
耕地利用率	174.4	118.8	103.6	108.1	124.4	128.3	126.2

その他作物は、花き・花木・種苗等

二 葉たばこ

国の行政改革に伴い、日本たばこ産業株式会社が発足し、国際競争時代を迎え、葉たばこの価格については、たばこ事業法に基づき、日本たばこ産業株式会社が葉たばこ審議会に諮り、その意見を尊重して、耕作者と契約を締結することになった。このころから外国産との競争が激しくなり、価格においても低迷を続け、村の耕作者の減少が急激に進み、わずか一〇年間で六人(八〇パーセント減)の生産者となり、葉たばこ生産組合組織の維持も難しくなってきた。また、現在の生産者も高齢化がすすみ、長期の見通しが厳しいのが現状である。

葉たばこ耕作実績

年次	農家数	作付面積	収穫量	販売金額	kg当たり り単価	10a当たり	
						収穫量	販売単価
昭和50年	戸 47	a 2,779.0	kg 75,725.0	円 96,255,590	円 1,271	kg 264	円 346,368
55	39	2,393.0	53,052.5	95,483,120	1,800	222	399,010
60	30	1,929.5	43,075.0	75,030,463	1,742	223	388,860
61	28	1,910.5	46,943.0	80,654,730	1,718	246	422,166
62	23	1,648.6	41,104.5	67,265,950	1,636	249	408,019
63	23	1,700.6	35,520.5	61,581,000	1,734	209	362,113
平成元年	12	1,011.7	21,375.5	40,402,350	1,890	211	399,351
2	11	906.0	21,599.5	39,462,555	1,827	238	435,569
3	10	814.0	19,613.0	35,365,195	1,803	241	434,462
4	6	400.0	11,784.5	22,789,310	1,934	295	569,733
5	6	368.0	8,336.5	16,401,080	1,967	227	445,682

三 養 蚕

養蚕は、昭和四五年ごろをピークとして、山間産業としての位置づけをされていたが、繭価の低迷と高齢化による生産戸数の減少が続ぎ、昭和六〇年には昭和四五年のピーク時から七五パーセント減少し、昭和六〇年から現在までに八一パーセントの減少となり、現在一〇戸の生産戸数となっている。

一方、桑園面積は、過去一〇年で四五パーセントの減少となっているのに対して、掃立量は八八パーセントの減少となっており、養蚕技術は進歩したが、桑園が老朽化して量的に飼育できなくなっているのも現状である。また、養蚕の活性化を図るため、平成五年度、六年度の二か年、県事業の養蚕女性グループ育成事業を実施し、西古味地区の桑園の改植と、グループの組織強化を図る事業（事業実施主体、久万農協）を行った。

今後の養蚕経営は、県蚕糸組合が廃止され、農協へ吸収される状況にあり、繭価格等の高値がない限り経営として成り立たないのではなからうか。

第2編 産業経済

養蚕実績

年次	農家数	桑園面積	掃立卵量	収繭量	1戸当たり 掃立量	箱当たり 収繭量
昭和45年	206戸	82ha	1,371箱	42 t	6.7箱	30.3kg
50	133	52	858	28	6.5	31.0
55	80	49	565	18	7.1	32.5
58	62	22	463	16	7.5	33.9
59	56	22	430	16	7.7	36.8
60	52	20	339	13	6.5	38.1
61	44	18	294	11	6.7	36.2
62	36	17	216	7	6.0	34.3
63	30	13	166	6	5.5	37.1
平成元年	26	12	129	4	5.0	34.0
2	20	12	104	4	5.2	35.2
3	17	11	93	3	5.5	35.9
4	12	11	73	3	6.1	40.1
5	10	11	40	2	4.0	39.3

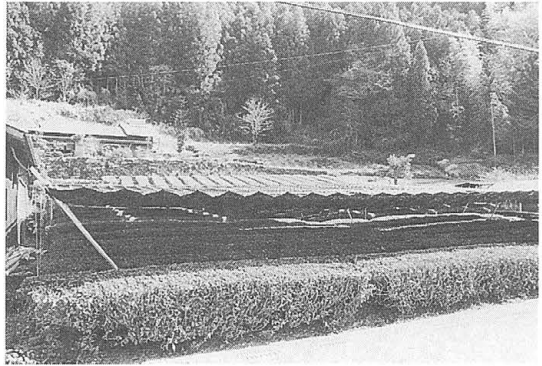
茶の作付面積及び生産数量

年次	作付面積	生産数量	10a当たり 収量
昭和50年	35 ha	140 t	400 kg
55	35	168	480
60	35	90	257
平成2年	20	67	335
5	19	48	253

四 茶

過疎化と高齢化に伴い、昭和五五年に一六八トンの生産を上げてから生産量は減少し、現在、年間生産量四八トンまで下がった。しかし、生産量の減少の内には自家消費が増加していることも考慮する必要がある。

一方、平成五年度から、村が施設農業育成事業を実施し、茶生産においても、霜除けの施設補助を行い、品質の向上を図っている。



茶 防霜施設

五野 菜

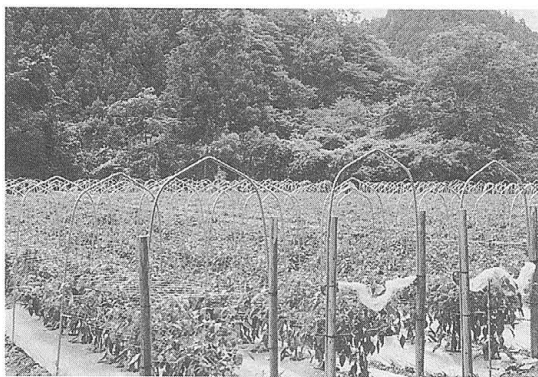
キャベツ 県が推奨する「一村一品運動」の特産銘柄として注目を受けていた夏秋レタスは、六〇年より本格栽培が始まったが、栽培二年目ごろより鉄分過多による土壤障害（赤心）等の発生が始まり、本村には適しない



二箆地区 キャベツ畑

こととなり、生産は打ち切られ、同じころ作付されていた夏秋キャベツへと栽培が変わっていった。

昭和六三年には、キャベツ生産農家一九戸、二・七ヘクタール、生産量一〇〇トンを平成元年ごろまで続けていたが、高齢化に伴い生産者数は減少し、平成五年度には栽培面積二・一六ヘクタール、八名の生産者となった。また、平成四年度には、地元からの要請により、効



ピーマン雨よけ施設

用促進型農業改善構造事業で、二箇地区へ鉄骨ストレー
ト葺き、一二九平方メートルの野菜集出荷施設を建築
し、労働の省力化を図った。

ピーマン 夏秋ピーマンについては、高齢化に伴う新
規作目で、久万農協が取り組み、平成二年八月^①ピーマ
ンとして国の産地指定を受けた。

本村においても、平成三年度、野菜花き銘柄産地育成

対策事業により、栽培面積一・二ヘクタール、受益者二
九戸を栽培品種「京波」を対象として、事業費約一五〇
〇万円(補助内訳、県六分の二、村六分の一、農協六分の三)
を投入し実施した。夏秋ピーマンの雨よけハウスのリー
スによる栽培を確立したことにより、平成五年度には、
販売高一億円突破記念大会を農村環境改善センターにお
いて開催した。また、平成五年度から、村が施設農業育
成事業を実施し、雨よけハウス、灌水設備、防風施設等
の補助を行い、農業の振興を図っている。

だいこん 大根の生産については、大谷地区に集中し
ており、生産者は減少傾向にある。しかし、個選・個人
出荷ではあるものの、生産組織は確立されており、生食
用夏秋大根としての産地化が形成されている。

平成三年ごろより、消費者の需要が白首大根から青首
大根へと変わってきたことにより、生産される大根も全
て青首大根となってきた。現在、生産農家一四戸、一六
ヘクタール程度の作付が行われており、出荷先も、高知
市場から松山市場へと変わりつつある。また、当地域も
高齢化が進み、軽量作物のピーマンやトルコギキョウへ
の取り組みも始まった。



大谷地区 大根畑

平成四年度より、新しい愛媛農業確立運動の重点地区としてとりあげ、農業改良普及所・農協等の指導を受けながら、大根の品種選定、先進栽培技術等の確立を目指している。

トマト 昭和六〇年頃までは、五〜六戸の農家が栽培を行っていたが、単価的に安く、ほとんどの農家が他の作物に切り替えた。しかし、昭和六二年ごろより品種等



トマト雨よけハウス栽培

(桃太郎)の改良により、生産農家も三戸に増え、パイプハウスやAPハウスによる、専門的なトマト生産農家が育ってきた。

平成三年八月には、美川の夏秋トマトも国の指定産地に含まれ、生産者も意欲に燃えた。その甲斐あって、久万農協全体の販売高も一〇億円を突破し、⊗トマトの産地を不動のものとした。



トルコギキョウ

本村の生産農家は、現在三戸、栽培面積は五一アールで経営が行われており、平成五年度から実施している施設農業育成対策事業の活用を行い、今後、栽培農家の戸数が増えることを望みたい。

花き 花きは、これまで何度か有志による栽培が試みられ、スカシユリ、グラジオラス、宿根カスミソウ等、ある程度の生産も行われたが、産地化までには至ら

なかった。

村、農業改良普及所、農協が中心となって、軽量作目である花き（トルコギキョウ）を選定し、平成五年四月に二〇歳代一人、四〇歳代二人、六〇歳代一人（うち女性が二人）の四名で、美川トルコギキョウ産地化研究会を発足し、二〇歳代の栄代卓二さんが一年の栽培経験を生かしてリーダー役を務め、栽培が始まった。

栽培面積はハウス二〇アールで、品種は白地に紫の「あすかの波」、ピンクの縁取りの「あすかの粧」の二品種で行った。しかし、定植時期からの異常気象で、日照不足と台風の影響を受け、結果は思わしくなかったが、総本数の約半数、三万本の切花の出荷を行った。

平成六年は、三名で約二〇アールの作付を行う計画であるが、今後、農業振興を図っていくうえにおいて、若者、高齢者、女性向けの作目としての期待は大きい。

六 四国カルスト大川嶺牧場

大川嶺牧場は、四国カルスト地区国営草地開発事業に

より開発されたもので、乳用、肉用牛の夏季放牧による公共育成牧場として経営されている。

地域畜産振興と広域共同利用を図るこの事業は、昭和四一年度から四四年度に調査計画し、四五年度に全体実施計画、四六年度に事業着工総事業費三二億五〇〇〇万円をかけ、五四年度に、一三五ヘクタールの牧場が完成したものである。

(一) 最近の大川嶺牧場の現状

本牧場は、四国カルスト高原の北端に位置し、標高九〇〇〜一五〇〇メートルにあり、晴れた日には瀬戸内海が、また、霊峰石鎚山を始め、四国連山が一望できる。

この大川嶺一帯には、三葉ツツジが群生し、五月には、放牧牛と、ツツジの花、新緑が映えて素晴らしい景観を呈する。

牧場に隣接して、スキー場、キャンプ場、村営の宿泊施設白銀荘等があり、四季を通じて、大自然が満喫できることから、畜産振興が主目的ではあるが、近年観光牧場としても機能しつつある。

(二) 一〇年間の牧場事業の概要

1 事業名

平成四年度公共牧場機能強化事業（ふれあい牧場）

2

事業量及び事業費

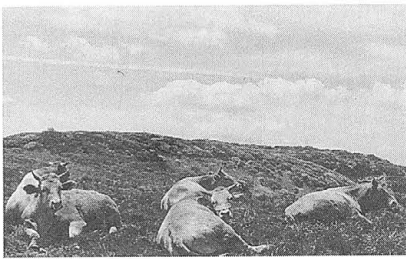
イ 草地整備改良

一〇ヘクタール 一一六七一〇〇〇円

ロ 運搬車（二トン車）

一台 一三三二二〇〇〇円

ハ 環境保全施設整備



自然と共生する放牧牛



大川嶺牧場

第2編 産業経済

桜植樹他

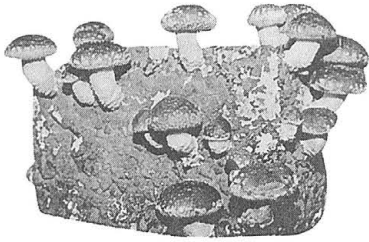
二八九九〇〇〇円

(三) 放牧事業の概要

大川嶺牧場事業の推移

業の推移	大川嶺牧場乾燥事採草面積	大川嶺牧年度	業の推移年			大川嶺牧年度	場放牧事延頭数	大川嶺牧放牧頭数	年
			延頭数	放牧頭数	放牧期間				
二五ha	四八トン	昭和六〇年度	二〇、三一六頭	一四一頭	四月二九日～ 一〇月一七日 一七二日間	平成四年度	二九、五四五頭	一九〇頭	昭和六〇年度
生産量	四六トン	昭和六一年度	二二、〇一六頭	一五一頭	五月一日～ 一〇月二六日 一七〇日間	平成五年度	二〇、三〇〇頭	一五四頭	昭和六一年度
生産量	五七トン	昭和六二年度					二二、六一六頭	一六六頭	昭和六二年度
生産量	三七トン	昭和六三年度					一九、一五三頭	一三六頭	昭和六三年度
生産量	二〇トン	平成元年度					三一、五六三頭	二二八頭	平成元年度
生産量	一四トン	平成二年度					二四、五八一頭	一八二頭	平成二年度
中止		平成三年度					二五、三八三頭	一八一頭	平成三年度

菌床しいたけ 菌床しいたけの特長は、菌床は原木に比べて小型かつ軽量であるため、労働力が軽減されること・栽培の省力化が図れること・作業の機械化が容易であること・生産に必要な土地の面積が少なくてすむこと・環境を制御することにより計画生産が可能であることなどの利点がある。



菌床しいたけ

これらに着目した村内有志が、平成四年より六戸の農家が共同で、郡内で使われていた菌床ブロック製造機械

を譲り受け、有枝に簡易施設を作り、年間二万六〇〇ブロックの製造を行い、各農家が栽培用パイプハウスを整備し、生しいたけ生産を始めた。

平成五年には一三・二トンの生産を行ったが、一ブロック当たり三・四バック

の収量であり、今後、技術が確立されれば、平均収量の七〜八バックは生産できるものと期待されている。

最近、先進地の徳島や島根といった地域で、菌床しいたけ栽培を積極的に導入する産地が増えており、早期の技術確立が望まれる。

第二節 農業振興事業

一 農地造成等補助事業

本事業は、美川村の農業者等が、二一世紀の農業を展望し、農地造成圃場整備等を行う事業に要する経費に対し、村長が認定する額に対し、村単独補助金を交付するものである。また、この事業は、昭和六二年度から施行され、利用した農業者は、現在までで二名であり、今後これらの事業を有効に活用し、集約型施設や労働の省力化等が進むことを期待し、一層の推進を図りたい。

(補助額)

農地造成(畑を造成する場合)補助対象事業費の一〇分の六以内。

農地造成等補助事業実施状況

年度	種 目	整備面積	事業費	作付種類
昭和63	農地造成 畑 625㎡, 山林 7,283㎡ 田 1,883㎡	9,791㎡	588千円	キャベツ栽培
平成元	農地造成 山林 4,000㎡	4,000㎡	456千円	キャベツ栽培

水田及び畑の圃場整備は、補助対象事業費の一〇分の六以内。



農地造成地でのキャベツ栽培（二箇地区）

二 施設農業育成事業

本村の基幹作物である米の土地利用型作物は、近年の過疎化と高齢化により、規模拡大が困難となった。また、一世を風靡した葉たばこや養蚕は、円高による輸入製品の増加に伴い、価格の低迷が続き、経営維持が難し

くなり激減した。これらが要因となり、農家の生産意欲は低迷を続けている。この状態を脱却するための土地集約（労働集約）型の施設農業に転換し、その生産拡大と品質向上を行い、農家所得の向上を図ろうとするものである。

① 事業内容

新規又は増設による施設農業生産に要する経費を助成する。

② 対象事業

対象事業費三〇万円以上五〇〇万円以下

- 一 トマト（ビニールハウス、灌水・防風及び防除資材）
 - 二 ピーマン（育苗ハウス、簡易ハウス、灌水・防風及び防除資材）
 - 三 茶（防霜施設）
 - 四 花き（鉄骨及びパイプハウス、暖房機、冷蔵庫、灌水・防風及び防除資材）
 - 五 菌床しいたけ（パイプハウス、被覆施設、棚資材、暖房機、冷蔵庫、水槽、防風資材）
- ③ 補助率
- 三〇万円から三〇〇万円の事業は、事業費の六〇％以内、三〇〇万—一〇〇〇円から五〇〇万円の事業は、事業費の七〇％以内。

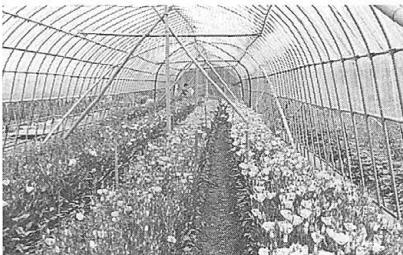
平成5年度施設農業育成事業実施実績

種 目	戸数	事 業 費	村 補 助 金	自 己 負 担
ト マ ト	3 戸	1,426,177円	854,000円	572,177円
ピ ー マ ン	2 戸	1,854,324	1,111,000	743,324
菌床しいたけ	5 戸	5,611,379	3,681,000	1,930,379
花 き	2 戸	5,997,585	4,098,000	1,899,585
茶	1 戸	1,352,596	811,000	541,596
合 計		16,242,596	10,555,000	5,687,061

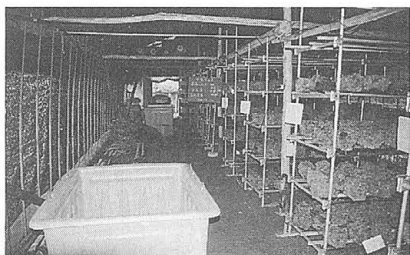
④ 事業主体

ただし、整備後五年間以上使用するものとする。

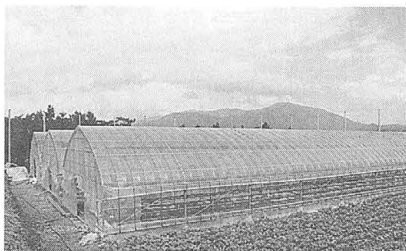
事業主体は農業協同組合とし、事業実施主体は施設農業を経営する農家とする。



トルコギキョウ栽培風景



ハウス内の菌床ブロック



花き栽培用鉄骨ハウス



菌床しいたけパイプハウス

- 農業委員会は、その区域内の次に掲げる事項を処理する。
- (1) 農地法その他の法令により、その権限に属させた農地、採草放牧地、又は、新炭林の利用関係の調整及び自作農の創設維持に関する事項、並びに農業経営基盤強化促進法及び特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律により、その権限に属させた事項
 - (2) 土地改良法その他の法令により、その権限に属させた農地等の交換分合及びこれに附随する事項
 - (3) 前各号のほか、法令によりその権限に属させた事項
- 農業委員会は、その区域内の次に掲げる事項に関する事務を行うことができる。
- (1) 農地等の利用関係についてのあつせん、及び争議

第三節 農業委員会

一 農業委員会の仕事

の防止に関する事項

- (2) 農地等の交換分合のあっせん、その他農地事情の改善に関する事項

- (3) 農業及び農村に関する振興計画の樹立、及び実施の推進に関する事項

- (4) 農業技術の改良、農作物の病虫害の防除、その他農業生産の増進、農業経営の合理化、及び農民生活の改善に関する事項

- (5) 農業生産、農業経営及び農民生活に関する調査及び研究

- (6) 農業及び農民に関する事項についてのけいもう及び宣伝

○ 農業委員会は、前二項に規定する事務を行うほか、その区域内の農業及び農民に関する事項について、意見を公表し、他の行政庁に建議し、又は、その諮問に応じて答申することができる。

○ 前二項の規定は、同項に掲げる事項に関する市町村長、その他の市町村の執行機関の法令の規定に基づく権限の行使を妨げない。

二 新農政の展開

農水省、農業農村の新たな構造政策スタート

- (1) 平成四年六月「新しい食料、農業・農村政策の方向」(いわゆる「新政策」)を公表

新政策の特長

- ① 農業・農村の多面的機能の評価

- ② 食糧自給率の低下に歯止めをかけ、その維持向上を打ち出したこと。

- ③ 育成すべき経営体像を示すと共に、はじめて「経営体の育成」を農政の目標に掲げたこと。

このための諸施策の集中化と農業構造政策の強化。

- ④ 農村地域(とりわけ中山間など条件的不利地域)を対象とした地域政策の確立

- ⑤ 環境に配慮した農業の確立

- ⑥ この方向に沿った、農業制度・施策の見直しと再構築

- (2) 望ましい農業経営体像の展望

第2編 産業経済

① 職業として選択し得る魅力とやりがいのある農業経営

② 他産業に匹敵する労働時間(年間一八〇〇〜二〇〇〇時間)

③ 生涯所得(三〇年間、二億〜二億五〇〇〇万) 一〇年後の個別経営体三五〜四〇万戸(例えば土地利用型で一〇〜二〇ヘクタール)

組織経営体四〜五万戸(一集落〜数集落相当)

(3) 新政策二法案の制定

新政策の具体化の第一弾として、平成五年六月「農業経営基盤法」と「特定農山村法」が制定された。

特に「農業経営基盤強化促進法」(農用地利用増進法の改正)は、農業経営の育成・確立に焦点を当て、これまででの農地対策を中心とした構造政策から、経営対策と農地対策を結びつけた、新たな構造政策の推進が図られた。

年度別農業委員名簿

昭和57〜59	昭和60〜62	昭和63〜平成2	平成3〜5
渡辺正	川崎清隆	鶴居勇夫	坪内勲
丹波松清	丹波松清	丹波松清	正岡剛

職員名簿

片岡慶雄	片岡慶雄	正岡剛	水本一美
高橋岩雄	石元勲	水本一美	岡田昌廣
大西秀男	片岡勇美	石元勲	片岡元春
久保田輝昭	松崎久寿良	土居岩雄	高橋廣衛
伊藤光義	大黒眞雄	片岡勇美	大柳安盛
井上義秋	小椋光嘉	藤本幸三郎	竹本康寿
尾上保男	尾上保男	片岡又雄	河川正光
吉見春吉	西田義雄	福原市義	天野直治
高木秀雄	高木秀雄	河川正光	天野輝雄
大野清一	大野清一	小倉杉野	坂口鶴男
天野登	天野登	山下喬	小椋英一
		木下久敬	木下久敬

職名	氏名	職歴
事務局長	篠原 擴	昭和五五年四月〜昭和五七年三月
農地主事	遠山 豊	〃 五七年四月〜〃 五八年三月
〃	西森 強	〃 五八年四月〜〃 六〇年八月
事務局長	堀尾 忍	〃 六〇年九月〜平成 二年三月
農地主事	高橋 裕	平成 二年四月〜〃 三年六月
事務局長	小椋 清隆	〃 三年七月〜 至現在

農地の移動状況

農地等の所有権移転処理状況（農地法第3条関係）

（単位 a）

区分 年度	自作農地											
	農地											
	有償						無償					
	田		畑		計		田		畑		計	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
59～63	75	125,802	60	114,796	135	240,598	35	167,082	14	115,215	49	282,297
元～5	83	167,082	73	115,215	156	282,297	34	194,998	19	128,663	53	323,661
合計	158	292,884	133	230,011	291	522,895	69	362,080	33	243,878	102	605,958

農地の転用状況（農地法第4条関係）

地目等 年度	山林		宅地		雑種地	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積
59～63	16	38,771	4	1,105	2	1,435
元～5	81	213,906	10	11,299	1	316
計	97	252,677	14	12,404	3	1,751

所有権移転を伴う転用状況（農地法第5条関係）

地目等 年度	山林		宅地		雑種地	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積
59～63			2	396		
元～5			16	5,370	2	1,832
計			18	5,766	2	1,832

第四節 農民生産条件整備事業

一 土地改良事業

現代の土地改良事業は、戦後の食糧不足に対処する食糧増産対策から進められ、昭和三〇年代に入ると、高度成長の段階へと移行し始めることとなり、農政も食糧の確保から、農業の総合的な生産性の向上への模策が始まった。

その後、初めて農林白書が公表され、そのなかで、日本農業の五つの赤信号として、農業所得の低さ、食糧供給力の低さ、国際競争力の弱さ、兼業化の進行、農業就業構造の劣弱化が指摘されている。

このような状況のなかで、農業基本法が制定され、その施策を具体化するため、構造改善事業、新農業構造改善事業が相次いで実施され、一方かんがい排水事業、農道整備事業をはじめとする単独の事業も急速な進展をみるのである。

また、昭和四八年には、全く新しい農村総合整備事業

が登場し、積極的に事業推進がなされている。このように、それぞれの時代の要請に応じながら、常に農業振興の先達となって歩み続けるのがこの事業である。以下、美川村における土地改良事業について、各事業ごとに実施状況を詳述する。

団体営土地改良事業 美川村においては、昭和三六年度から実施されてきたが、一部かんがい排水事業の実施以外は主に農道整備事業である。しかし、今後とも積極的な推進が望まれる。

県単独土地改良事業 国庫補助の対象とならない小規模な土地改良事業を対象として、昭和二七年に創設され、かんがい排水事業及び農道整備事業が実施されてきたが、昭和四六年度から農道舗装事業が追加され、国庫補助事業を補完して、本村の農業基盤整備促進の一翼を担っている事業である。

二 農村総合整備モデル事業

この事業は、農業の生産基盤整備、集落の環境整備及び環境施設整備と、大きな三つの柱からなっており、そ

それぞれに農業の近代化を図り、都市に比べて立ち遅れている農村の生活環境の整備を推進することにより、生産性の高い農業の育成と高福祉農村を建設し、農業及び農村の健全な発展を図ろうとするものである。

本村も、昭和五四年度を初年度として着手し、積極的に推進しているが、事業完了までにはまだまだ長期にわたるため、その成果に期待がもたれている。

三 山村振興農林漁業対策事業

第三期山村振興農林漁業対策事業 本誌では、昭和五九年から平成四年までの事業について掲載する。

新山村振興農林漁業対策事業 昭和四一年に第一期、昭和四九年に第二期、更に、昭和五五年からの第三期山村振興農林漁業対策事業により四半世紀にわたり、一〇六億円を超える山村振興対策計画を策定し、交通通信体系・産業の生産基盤・経営近代化施設・文教施設・生活環境・観光施設などの整備及び国土保全を図ってきた。

第一期から第三期にかけて、国土保全事業から道路整備へと山村振興の重点が移行し、生産基盤（農林道を除

新山村振興農林漁業対策事業

(単位 千円)

実施年度	工 種	事 業 量	総事業費	事業費内訳		請 負 業 者
				国庫補助金	村 費	
平成5	美川村山村振興 対策推進事業	活性化ビジョンの策定地	5,000	2,500	2,500	ふるさと情報センター 日本計画機構
6	美川村生活環境 整備事業	鉄骨コンクリート 680㎡ 1棟	120,000	56,640	63,360	計 画

く)整備の占める割合は、三期を通して最も低く、道路交通網の整備を克服するために投資のほとんどが費やされ、直接的な生産基盤の整備に充てる新規余裕がとれなかったとみられる。

本村特有の複雑な地勢の中で、孤立分散している集落を、縦横に結ぶ道路の整備が、振興施策においては何よりも基本であった。

平成四年度に認定を受けた「新山村振興計画」は、第三期山村振興対策事業までの実績と、本村の振興計画をふまえて、総合的整備計画の方向を示している。

それは、今後とも主として、農林道を含む道路交通

網を整備していくとともに、産業の経営近代化施設・環境施策・文教施策・観光施策・国土保全施策等のソフト的な事業を重視することにより、本村の振興を図り、ハード面では、若者の定住、所得の向上を重点目標に、農林業、観光産業を中心とする総合産業の育成及び生活環境の整備を図り、安定した若者等の雇用の場を確保する地域産業を振興し、魅力ある地域づくりを進めることを目的としている。

四 農業農村活性化農業構造改善事業

本事業は、平成二年度から開始され、農業・農村の活性化に必要な、推進事業並びに土地基盤・近代化施設・環境施設等の整備事業を、地域の実情に応じて総合的に実施する事業であり、平成三年度には、久万農協美川支所へ農産物処理加工施設を整備し、味噌・醤油の製造と漬物加工を行い、今日の健康食品の需要に際している。

また、平成四年度には二箇地区へ野菜出荷施設を建築し、夏秋キャベツ生産を基本とした、農業の活性化と労働の省力化を図った。

第三期山村振興農林漁業対策事業

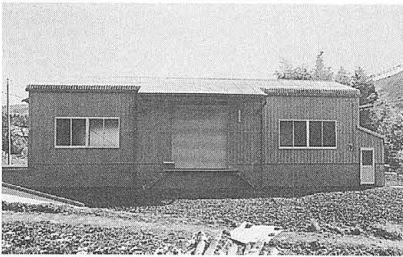
実施年度	工 種	地区名	事業主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						国庫補助金	村 費	地元負担金	
昭和59	農 道	沢渡中	美川村	L = 463 m W = 3.5 m	58,000,000	40,600,000	15,121,000	2,279,000	西 山 広 元
60	農 道	東 川	〃	L = 236 m W = 3.5 m (内橋梁 19 m)	44,000,000	30,800,000	10,120,000	3,080,000	高 岡 稔
61	山村広場施設整備事業	〃	〃	広 場 整 備 10,000㎡	30,144,000	15,072,000	15,072,000		中 岡 隆
62	〃	〃	〃	継 続	51,281,000				中 岡 隆
〃	〃	〃	〃	トイレ・更衣室 40㎡	4,498,000	30,616,000	30,617,000		中 田 喜士雄
〃	〃	〃	〃	フェンス他 H = 2.0 m L = 246.2 m	5,454,000				高 岡 稔
〃	〃	〃	〃	フェンス H = 7.0 m L = 262.6 m	8,303,000		8,303,000		高 岡 稔
〃	村単独事業 県単コミュニティー事業	〃	〃	小広場フェンス H = 4.0 m L = 108 m	4,220,000	県補助 2,035,000	2,185,000		中 岡 隆
〃	〃 村 単 独 業 事	〃	〃	給 水 工 事	1,400,000		1,400,000		三豫電気水道 越 智 鶴 一
〃	〃 村 単 独 業 事	〃	〃	ゲ ー ト 工 事	360,000		360,000		山 本 実 男
〃	〃	〃	〃	碑及び植栽工	330,000		330,000		高 岡 稔
平成元	林 道	上黒岩線	〃	L = 397.4 m W = 4.0 m	23,874,000	16,711,000	5,970,000	1,193,000	西 山 公 彦
〃	〃	日野浦打石線	〃	L = 344.5 m W = 3.0 m	11,260,000	7,882,000	2,815,000	563,000	高 山 猛
	合 計				243,124,000	143,716,000	92,293,000	7,115,000	

第2編 産業経済

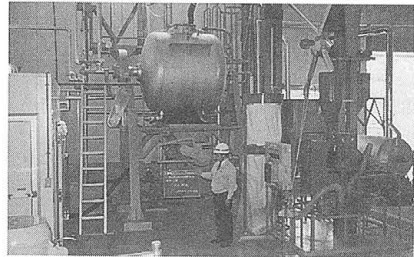
農業農村活性化農業構造改善事業

(単位 千円)

実施年度	工種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国庫補助金	村費	地元負担金	
H3	農産物加工調製施設	東川	久万農協	加工場棟 1棟 360.87㎡	108,900	54,350	10,870	43,480	・二神組 ・藤原醸造産業 ・榑崎産業
4	農産物集出荷施設	二笠	美川村	数計スレート葺き 1棟 129㎡	10,000	5,000	4,035	965	山本(実)工務店



二笠農産物集出荷施設



久万農協 農産物処理加工施設

五 耕地地すべり対策事業

本村の地すべりは、三波川帯及び秩父帯に位置し、地すべりが発生しやすく、一般に破砕帯地すべりと呼ばれるものである。

昭和三年に地すべり等防止法が制定され、この法律にもとづいて、一地区が危険地として国の指定を受け、順次対策工事が実施されている。

更に、七地区が概成をしたが、そのうち一地区が再び地すべりの危険が生じたので、二期工事として実施されている。

六 農地・農業用施設災害復旧事業

この事業制度は、大正一二年に発生した関東大震災の農地災害に対して、助成が行われたことに始まる。

前編で述べたように、昭和二七年に暫定法が制定され、これ以後、毎年発生する災害に本法が適用されている。また、昭和三六年には、激甚災害に対処するための

特別の財政援助に関する法律（激甚法）が制定され、著しい災害が発生した場合の応急措置及び災害復旧が、迅速かつ適切に行われるようにするとともに、被災地方公共団体などの経費負担の軽減を図るよう定められたものである。

本村においても、毎年のように災害に見舞われることが多く、そのつど、二次災害の防止と被災箇所への復旧を行っている。

七 農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

この事業は、農林漁業用の揮発油税を財源とし、これの身替わりの措置の一環として、農業の振興を図るべき地域において、農業生産の近代化及び農業生産物の流通の合理化等を図り、あわせて、農村地域における生産環境及び生活環境の改善に資することを目的として実施する事業で、農免農道と略称されている。

本村における実施地区数は三地区を数え、そのうち置俵地区は既に完了し、現在、日野浦地区及び沢渡地区が、県営事業により実施されている。

八 県営仕出過疎農道整備事業

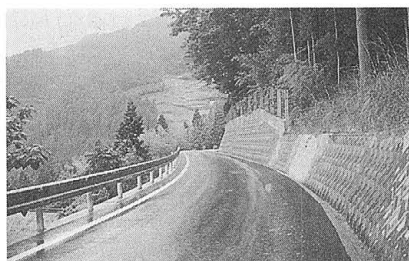
地域住民多年の悲願であった本事業は、昭和五〇年度に着工し、この間、国の財政事情等、極めて厳しい状況の中で、実に一四年の長きにわたり、関係各位の御協力と御理解を得て、全線の完成をみたものである。

これを記念して、起点付近に記念碑を建立し、関係者多数が出席して竣工式が盛大に開催された。この農道によって、地域の農業振興の発展に果す役割は測り知れないものがあり、また、村の大動脈として地域の発展に大きく寄与するものである。

工事概要

- 一 施行年度 昭和五〇年度～昭和六三年度
- 一 総事業費 七億九九〇万円
- 一 総延長 三四三九メートル
- 一 幅員 五・〇メートル

第2編 産業経済



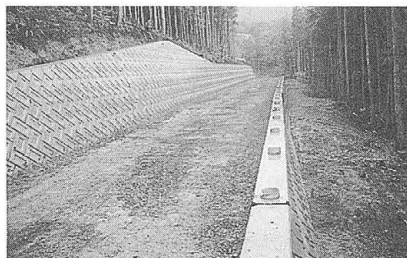
団体営農道 沢渡線



団体営農道 大谷線



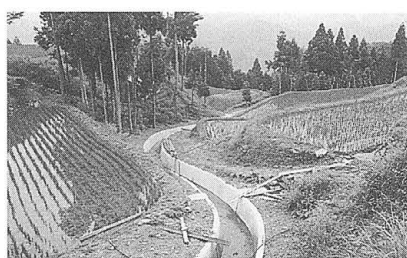
モデル事業 下土居線



モデル事業 赤土線



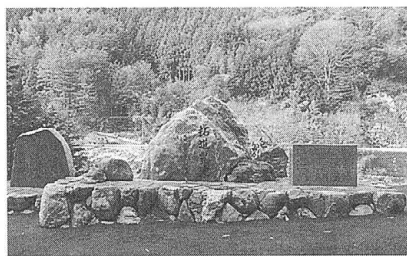
農免農道 日野浦線



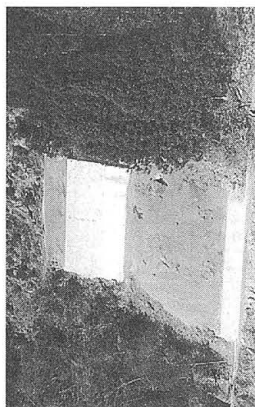
地すべり対策事業 ヤナギソ2期地区



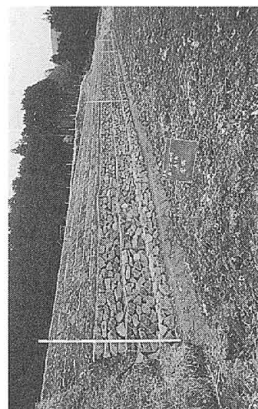
過疎基幹農道 仕出線



仕出線 記念碑



黒藤川水路災害復旧工事



成ノ池畔災害復旧工事

九 土地改良区

美川村の土地改良区は、東古味土地改良区を最後に、
 全て所期の目的を達成し、存続の必要がなくなったため
 解散された。

団体営土地改良事業

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
59	農 道	大 谷 (国債)	美川村	W= L= 4.0 210 m	25,250,000 ^円	15,125,000 ^円	8,989,000 ^円	1,136,000 ^円	伊 豫 建 設 ㈱ 代 平 柳 幸 次 郎
〃	〃	大 谷	〃	W= L= 4.0 199	25,250,000	15,125,000	8,989,000	1,136,000	〃
〃	〃	大谷2期	〃	W= L= 4.0 353	50,500,000	30,250,000	17,978,000	2,272,000	〃
〃	〃	下 組	〃	W= L= 3.5 430	50,500,000	30,250,000	17,954,000	2,269,000	(有) 中 岡 組 代 中 岡 隆
				W= 3.5					高 岡 建 設 (有)

"	"	野地	"	L = 272.2	30,300,000	18,150,000	10,787,000	1,363,000	代高岡稔
60	"	大谷	"	W = 4.0 L = 455	54,540,000	32,670,000	19,416,000	2,454,000	伊豫建設(株) 代平柳幸次郎
"	"	大谷2期	"	W = 4.0 L = 244	40,400,000	24,200,000	14,382,000	1,818,000	伊豫建設(株) 代平柳幸次郎
"	"	下組	"	W = 3.5 L = 224	30,300,000	18,150,000	10,787,000	1,363,000	(有)中岡組 代中岡隆
"	"	野地	"	W = 3.5 L = 262	39,390,000	23,595,000	14,023,000	1,772,000	高岡建設(有) 代高岡稔
61	"	野地 (国債)	"	W = 3.5 L = 320	30,300,000	18,150,000	10,787,000	1,363,000	"
"	"	野地	"	W = 3.5 L = 429	30,300,000	18,150,000	10,787,000	1,363,000	"
"	農道舗装	大谷	"	W = 4.0 L = 1,981	37,875,000	22,687,500	14,051,500	1,136,000	金代電建設(株) 代西山正志
"	"	大谷2期	"	W = 4.0 L = 1,199	20,503,000	12,281,500	7,606,500	615,000	金代電建設(株) 代西山正志
"	"	下組	"	W = 3.5 L = 1,002	16,059,000	9,619,500	5,958,500	481,000	協和道路 代東進
62	農道	野地	"	W = 3.5 L = 331.7	37,370,000	22,385,000	13,304,000	1,681,000	高岡建設(有) 代高岡稔
"	"	沢渡	"	W = 4.0 L = 137.7	20,200,000	12,100,000	7,191,000	909,000	(株)美川建設 代西山公彦
"	農道舗装	野地	"	W = 3.5 L = 321	5,050,000	3,025,000	1,874,000	151,000	協和道路(株) 代東進
63	"	"	"	W = 3.5	20,200,000	12,100,000	7,494,000	606,000	"

				L = 1,276					
〃	農道	沢渡 (国債)	〃	W = 4.0 L = 50.6	23,230,000	13,915,000	8,270,000	1,045,000	(株)美川建設 代 西山公彦
〃	〃	沢渡	〃	W = 4.0 L = 219.3	37,973,980	22,745,990	13,519,990	1,708,000	〃
元	〃	沢渡	〃	W = 4.0 L = 171.2	51,914,000	31,097,000	18,481,000	2,336,000	〃
2	〃	沢渡	〃	W = 4.0 L = 241.9	60,600,000	36,300,000	22,179,000	2,121,000	〃
3	〃	沢渡	〃	W = 4.0 L = 262.3	60,600,000	36,300,000	22,179,000	2,121,000	〃
〃	軽微改良	仕出	〃	橋梁塗装 A = 769㎡ 安全施設 L = 32	8,080,000	4,840,000	3,240,000	0	(株)青木塗装 代 青木正 (株)美川建設 代 西山公彦
4	農道	沢渡	〃	W = 4.0 L = 274.3	80,800,000	48,400,000	29,572,000	2,828,000	(株)美川建設 代 西山公彦
5	〃	〃	〃	W = 4.0 L = 203.9	80,800,000	48,400,000	29,976,000	2,424,000	(株)美川建設 代 西山公彦
	合計				968,284,980	580,011,490	349,775,490	38,471,000	

県単独土地改良事業

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						県補助金	村 費	地元負担金	
59	農道舗装	内 分	美川村	W = 3.5 m L = 129	円 3,650,000	円 1,460,000	円 2,081,000	円 109,000	金電建設(株) 代 西山正志

〃	農道整備	宮 成	〃	W = 3.5 L = 100	23,040,000	11,520,000	10,599,000	921,000	天 野 建 設 天 野 輝 雄
〃	〃	ス ゲ ゾ	〃	W = 3.5 L = 185	5,500,000	2,750,000	2,365,000	385,000	伊 豫 建 設 (株) 伊 代 平 柳 幸 次 郎
〃	水路改修	古 味	〃	L = 112 コンクリート (600×400)	2,800,000	1,120,000	1,260,000	420,000	高 岡 建 設 (株) 代 高 岡 稔
〃	〃	沢 渡	〃	L = 181 トラフ (360B)	2,500,000	1,000,000	1,125,000	375,000	(株) 美 川 建 設 西 山 広 元
	小 計				37,490,000	17,850,000	17,430,000	2,210,000	
60	農道整備	宮 成	〃	W = 3.5 L = 100	14,960,000	7,480,000	6,882,000	598,000	天 野 建 設 天 野 輝 雄
〃	〃	ス ゲ ゾ	〃	W = 3.5 L = 249	6,000,000	3,000,000	2,580,000	420,000	伊 豫 建 設 (株) 伊 代 平 柳 幸 次 郎
〃	農道舗装	高 ツ ヤ	〃	W = 3.5 L = 170	5,000,000	2,000,000	2,650,000	350,000	金 電 建 設 (株) 代 西 山 正 志
〃	水路改修	石 本	〃	L = 250 ベンチフリューム	1,500,000	600,000	675,000	225,000	西 岡 建 設 西 岡 広 明
	小 計				27,460,000	13,080,000	12,787,000	1,593,000	
61	農道舗装	高 ツ ヤ	〃	W = 3.5 L = 451.5	9,800,000	3,920,000	5,195,000	685,000	金 電 建 設 (株) 代 西 山 正 志
〃	〃	ス ゲ ゾ	〃	W = 3.5 L = 385	5,000,000	2,000,000	2,650,000	350,000	金 電 建 設 (株) 代 西 山 正 志
〃	〃	東 谷	〃	W = 3.5 L = 457	7,800,000	3,120,000	4,252,000	428,000	〃

〃	水路改修	黒藤川	〃	L = 115	3,000,000	1,200,000	1,350,000	450,000	アマノ建設(株) 代 天野輝雄
〃	〃	沢渡	〃	L = 120	2,000,000	800,000	900,000	300,000	(株)美川建設 西川広元
	小計				27,600,000	11,040,000	14,347,000	2,213,000	
62	農道整備	藤社	〃	W = 3.0 L = 113	8,800,000	4,400,000	4,048,000	352,000	伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎
〃	〃	惣津山	〃	W = 3.0 L = 137	10,400,000	5,200,000	4,784,000	416,000	〃
〃	農道舗装	宮成	〃	W = 3.0 L = 290	4,300,000	1,720,000	2,451,000	129,000	金亀建設(株) 代 西山正志
〃	〃	大谷中	〃	W = 3.5 L = 80	1,800,000	720,000	1,026,000	54,000	〃
〃	〃	ミヤマ	〃	W = 3.0 L = 523	11,000,000	4,400,000	6,270,000	330,000	〃
〃	水路改修	沢渡	〃	L = 103	1,800,000	720,000	864,000	216,000	(株)美川建設 代 西山公彦
〃	〃	黒藤川	〃	L = 139.4	3,900,000	1,560,000	1,872,000	468,000	アマノ建設(株) 代 天野輝雄
〃	〃	藤社	〃	L = 339	3,000,000	1,200,000	1,440,000	360,000	伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎
〃	農村集落環境 基盤整備	成	〃	W = 3.0 L = 65.6	19,500,000	9,750,000	8,970,000	780,000	伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎
	小計				64,500,000	29,670,000	31,725,000	3,105,000	

63	農村集落環境基盤整備	成	美川村	W = 3.0 L = 88.6	16,500,000	8,250,000	7,590,000	660,000	伊豫建設(株) 平柳幸次郎
〃	農道整備	惣津山	〃	W = 3.0 L = 48	7,000,000	3,500,000	3,220,000	280,000	〃
〃	〃	室崎	〃	W = 4.0 L = 35.1	8,000,000	4,000,000	3,680,000	320,000	(有)高山建設 高山
〃	農道舗装	高山	〃	W = 3.5 L = 218.8	5,000,000	2,000,000	2,850,000	150,000	協和道路(株) 代東
	小計				36,500,000	17,750,000	17,340,000	1,410,000	
元	農道整備	惣津山	〃	W = 3.0 L = 38.8	7,000,000	3,500,000	3,220,000	280,000	伊豫建設(株) 平柳幸次郎
〃	農道舗装	高山	〃	W = 3.5 L = 229.1	4,000,000	1,600,000	2,280,000	120,000	協和道路(株) 代東
〃	〃	大川中	〃	W = 3.5 L = 137	2,000,000	800,000	1,140,000	60,000	金亀建設(株) 代西山正志
〃	〃	井出口	〃	W = 3.0 L = 207.2	4,500,000	1,800,000	2,565,000	135,000	協和道路(株) 代東
〃	〃	沢渡上	〃	W = 3.0 L = 388	5,000,000	2,000,000	2,850,000	150,000	〃
	小計				22,500,000	9,700,000	12,055,000	745,000	
2	農道整備	室崎	〃	W = 4.0 L = 77.8	4,000,000	2,000,000	1,880,000	120,000	(有)高山建設 高山
〃	農道舗装	〃	〃	W = 4.0 L = 106.8	1,500,000	600,000	855,000	45,000	〃

〃	〃	沢渡上	〃	W = 3.0 L = 212.5	3,000,000	1,200,000	1,710,000	90,000	協和道路(株) 代東進
〃	〃	高山	〃	W = 3.5 L = 160.5	3,000,000	1,200,000	1,710,000	90,000	〃
〃	水路改修	中黒岩	〃	L = 588.5	5,500,000	2,200,000	2,750,000	550,000	(株)美川建設 代西山公彦
〃	〃	久保田	〃	L = 278	4,000,000	1,600,000	2,000,000	400,000	高岡建設(有) 代高岡稔
	小計				21,000,000	8,800,000	10,905,000	1,295,000	
3	農道舗装	大谷中	〃	W = 3.0 L = 87	3,200,000	1,600,000	1,504,000	96,000	金亀建設(株) 代西山正志
〃	〃	沢渡上	〃	W = 3.0 L = 68	4,600,000	2,300,000	2,162,000	138,000	協和道路(株) 代東進
〃	〃	上ダバ	〃	W = 3.5 L = 195.5	2,500,000	1,250,000	1,175,000	75,000	金亀建設(株) 代西山正志
〃	〃	下の谷	〃	W = 3.0 L = 132.5	3,000,000	1,500,000	1,410,000	90,000	協和道路(株) 代東進
〃	〃	本組上	〃	W = 3.0 L = 68	2,000,000	1,000,000	940,000	60,000	金亀建設(株) 代西山正志
〃	水路改修	久保田	〃	L = 155.7	3,000,000	1,200,000	1,500,000	300,000	高岡建設(有) 代高岡稔
〃	〃	木地	〃	L = 184.9	2,000,000	800,000	1,000,000	200,000	(有)高山建設 代高山猛
〃	稲作小規模	室崎	〃	水路 L = 58.8 道路 L = 50	7,908,000	3,750,000	3,800,000	358,000	〃

〃	水路改修	久保田	〃	L = 169.1	1,900,000	760,000	1,007,000	133,000	高岡建設(株) 高岡 稔
〃	〃	木地	〃	L = 319.2	2,030,000	812,000	1,076,000	142,000	(株)高山建設 代 高山 猛
〃	〃	上河原	〃	L = 203.7	3,500,000	1,400,000	1,855,000	245,000	〃
	小計				45,986,000	22,250,000	22,041,000	1,695,000	
	合計				341,844,000	158,140,000	166,714,000	16,990,000	

県単独小農道整備事業

実施年度	工種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						県補助金	村費	地元負担金	
59	小農道舗装	横山	美川村	W = 1.5 m L = 449	5,600,000 ^円	2,240,000 ^円	2,800,000 ^円	560,000 ^円	高岡建設(株) 高岡 稔
〃	〃	東川	〃	W = 1.2~1.95 L = 349	4,300,000	1,720,000	2,150,000	430,000	(株)中岡組 代 中岡 隆
〃	〃	長瀬	〃	W = 1.6 L = 89	1,800,000	720,000	900,000	180,000	(株)中岡組 代 中岡 隆
〃	〃	ザトバタ	〃	W = 1.95 L = 58	770,000	308,000	385,000	77,000	伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎
〃	〃	中通	〃	W = 1.95 L = 91	1,050,000	420,000	525,000	105,000	(株)美川建設 代 西山公彦
〃	〃	御山	〃	W = 1.95 L = 201	3,485,000	1,394,000	1,743,000	348,000	伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎

	小計				17,005,000	6,802,000	8,503,000	1,700,000	
60	小農道舗装	日浦	〃	W = 1.2~1.95 L = 275	3,570,000	1,428,000	1,785,000	357,000	(有) 中岡組 代 中岡隆
〃	〃	宮前	〃	W = 1.2 L = 184	2,210,000	884,000	1,105,000	221,000	〃
〃	〃	中村	〃	W = 1.95 L = 124	1,720,000	688,000	860,000	172,000	アマノ建設(有) 代 天野輝雄
	小計				7,500,000	3,000,000	3,750,000	750,000	
61	小農道舗装	七鳥	〃	W = L = 127	3,000,000	1,200,000	1,500,000	300,000	(有) 中岡組 代 中岡隆
〃	〃	寺の前	〃	W = L = 107	2,000,000	800,000	1,000,000	200,000	アマノ建設(有) 代 天野輝雄
〃	〃	大川	〃	W = L = 150	1,500,000	600,000	750,000	150,000	〃
	小計				6,500,000	2,600,000	3,250,000	650,000	
62	小農道舗装	カジヤシキ	〃	W = 1.5 L = 300	2,000,000	800,000	1,060,000	140,000	(株) 美川建設 代 西山公彦
〃	〃	豊久	〃	W = 1.2~1.5 L = 318	2,000,000	800,000	1,060,000	140,000	西岡建設 西岡広明
	小計				4,000,000	1,600,000	2,120,000	280,000	
63	小農道舗装	豊久	〃	W = 1.2 L = 285	2,100,000	840,000	1,113,000	147,000	(有) 高山建設 代 高山猛
〃	〃	釣井	〃	W = 1.2 L = 303.4	1,900,000	760,000	1,007,000	133,000	アマノ建設(有) 代 天野輝雄

	小計				4,000,000	1,600,000	2,120,000	280,000	
元	小農道舗装	仕出	〃	W = 1.2 L = 255	1,500,000	600,000	795,000	105,000	(有) 中岡組 代 中岡 組 隆
〃	〃	筒城	〃	W = 1.9 L = 141.8	1,500,000	600,000	795,000	105,000	〃
〃	〃	田渡野瀬	〃	W = 1.8 L = 232.8	2,000,000	800,000	1,060,000	140,000	(株) 美川建設 代 西山公彦
〃	〃	豊久上	〃	W = 1.2~1.5 L = 192.8	1,600,000	640,000	848,000	112,000	(有) 高山建設 代 高山 猛
	小計				円 6,600,000	円 2,640,000	円 3,498,000	円 462,000	
2	小農道舗装	下の谷	〃	W = 1.2~1.95 L = 151.3	1,000,000	400,000	540,000	60,000	高岡建設(有) 代 高岡 稔
〃	〃	豊久上	〃	W = 1.2~1.8 L = 288	2,500,000	1,000,000	1,350,000	150,000	(有) 高山建設 代 高山 猛
〃	〃	下中	〃	W = 1.2~1.9 L = 213.2	1,500,000	600,000	810,000	90,000	(株) 美川建設 代 西山公彦
〃	〃	田渡野瀬	〃	W = 1.5~1.8 L = 293.5	2,500,000	1,000,000	1,350,000	150,000	〃
	小計				7,500,000	3,000,000	4,050,000	450,000	
3	小農道舗装	中通	〃	W = 1.5 L = 191.4	2,950,000	1,475,000	1,298,000	177,000	(有) 高山建設 代 高山 猛
〃	〃	本組上	〃	W = 1.8 L = 129.5	2,050,000	1,025,000	902,000	123,000	伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎

〃	〃	置 俵	〃	W = 1.3 L = 432.5	2,500,000	1,250,000	1,100,000	150,000	アマノ建設(有) 代 天野輝雄
	小 計				7,500,000	3,750,000	3,300,000	450,000	
4	小農道舗装	置 俵	〃	W = 1.2 L = 221	1,400,000	700,000	616,000	84,000	アマノ建設(有) 代 天野輝雄
〃	〃	釣 井	〃	W = 1.2~1.4 L = 162.5	1,500,000	750,000	660,000	90,000	〃
〃	〃	室 崎	〃	W = 1.2~1.4 L = 191.9	1,500,000	750,000	660,000	90,000	(有) 高山建設 高山 猛
〃	〃	荒 瀬	〃	W = 1.4~1.5 L = 193.6	1,500,000	750,000	660,000	90,000	(株) 美川建設 代 西山公彦
	小 計				5,900,000	2,950,000	2,596,000	354,000	
5	小農道舗装	荒 瀬	〃	W = 1.2~1.5 L = 129.3	1,500,000	750,000	660,000	90,000	(株) 美川建設 代 西山公彦
〃	〃	八 幅	〃	W = 1.2 L = 117.5	1,500,000	750,000	660,000	90,000	(有) 高山建設 代 高山 猛
〃	〃	ウ ネ	〃	W = 1.2~1.8 L = 182	1,900,000	950,000	836,000	114,000	高代岡建設(有) 代 高岡 稔
〃	〃	ナガノジ	〃	W = 1.2~1.95 L = 161.5	2,000,000	1,000,000	880,000	120,000	伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎
〃	〃	タニモト	〃	W = 1.2~1.95 L = 37.2	1,000,000	500,000	440,000	60,000	(有) 高山建設 代 高山 猛
	小 計				7,900,000	3,950,000	3,476,000	474,000	
	合 計				74,405,000	31,892,000	36,663,000	5,850,000	

村単土地改良事業

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
59	農道舗装	大 川	美川村	W = 4.0 ^m L = 5	120,000 ^円	117,000 ^円	3,000 ^円	金 亀 建 設 (株) 代 西 山 正 志	
〃	〃	藤 社 中	〃		80,000	78,000	2,000	〃	
〃	小農道舗装	中 通	〃		86,000	78,000	8,000	(株) 美 川 建 設 代 西 山 広 元	
62	農道舗装 修繕	置俵・黒田	〃	L = 122	589,000	589,000	0	協 和 道 路 (株) 代 東 進	
63	農道整備	仕 出	〃	副碑建立 1.0式	340,000	0	340,000	金 亀 建 設 (株) 代 西 山 正 志	
〃	〃	〃	〃	修景 1.0式	680,000	580,000	100,000	ア マ ノ 建 設 (有) 代 天 野 輝 雄	
元	〃	〃	〃	水路 L = 18.6 取付道 L = 40	391,400	391,400	0	(有) 中 岡 組 代 中 岡 隆	
〃	〃	沢 渡	〃	残土処理 1.0式	550,020	550,020	0	(株) 美 川 建 設 代 西 山 公 彦	
〃	道路災害	堤	〃	転石破碎 1.0式	133,900	133,900	0	伊 豫 建 設 (株) 代 平 柳 幸 次 郎	
2	農道舗装 修繕	沢 渡	〃	W = 4.0 L = 247.5	1,442,000	1,442,000	0	協 和 道 路 (株) 代 東 進	
〃	水 路	古 味	〃	L = 187.9	2,711,000	0	2,711,000	近 藤 建 設 工 業 (株) 代 藤 本 幹 翁	

〃	農道修繕	筒城下	〃	防火水槽 1.0式	185,400	180,400	5,000	高岡建設(有) 代高岡稔
3	水路災害	仕出	〃	転石破碎 1.0式	37,080	34,080	3,000	(有)中岡組 代中岡隆
〃	〃	本組下	〃	〃	175,100	175,100	0	伊豫建設(株) 代平柳幸次郎
〃	農道災害	置俵	〃	L = 16	484,100	484,100	0	高岡建設(有) 代高岡稔
4	農道修繕	沢渡橋	〃	W = 2.25 L = 76	3,296,000	3,198,000	98,000	山本(実)工務 店山本実男
〃	水路	古味	〃	L = 178.4	3,270,000		3,270,000	近藤建設工業(株) 代藤本幹翁
〃	道路災害	仕出	〃	水路 L = 32.9	453,200	453,200	0	
〃	〃	〃	〃	舗装 L = 18	92,700	92,700	0	協和道路(株) 代東進
5	農道整備	イノヤンキ	〃	標識 2基	77,250	77,250	0	高岡建設(有) 代高岡稔
〃	農道修繕	仕出・大川	〃	舗装 246㎡	603,000	603,000	0	協和道路(株) 代東進
	合計				15,797,150	9,257,150	6,540,000	

農村総合整備モデル事業

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
59	集落道整備	蕨 打	美川村	W = 3.5 ^m L = 208	22,997,700	16,052,850	6,116,850	828,000	(有)高山建設 代高山 猛
〃	〃	大谷中	〃	W = 4.0 L = 249	22,523,000	15,721,500	5,901,500	900,000	伊豫建設(株) 代平柳幸次郎
〃	〃	木 地	〃	W = 3.0 L = 128	8,787,000	6,133,500	2,319,500	334,000	(有)美川建設 西山広元
〃	集落道舗装	藤社中	〃	W = 4.0 L = 475	10,403,000	7,261,500	2,829,500	312,000	金亀建設(株) 代西山正志
〃	〃	藤社・大谷	〃	W = 3.0 L = 185	3,181,500	2,220,750	876,750	84,000	〃
〃	農業集落 排水施設 整備	梨の下	〃	L = 119 (トラフ 600×600)	2,807,800	1,959,900	847,900	0	西岡建設 西岡広明
〃	測量設計	水 押	〃	W = 3.5 L = 650	2,020,000	1,410,000	610,000	0	(有)橋本測量設計 橋本 忠志
	小 計				72,720,000	50,760,000	19,502,000	2,458,000	
60	集落道整備	蕨 打	〃	W = 3.5 L = 201	30,300,000	21,150,000	7,938,000	1,212,000	(有)高山建設 代高山 猛
〃	集落道舗装	木 地	〃	W = 3.0 L = 128	2,302,800	1,607,400	626,400	69,000	金亀建設(株) 代西山正志
〃	農道整備	水 押	〃	W = 3.5 L = 47.4	6,181,200	4,314,600	1,619,600	247,000	(有)中岡組 代中岡 隆

〃	農村集落多目的共同利用施設整備	東古味	〃	1 棟	162㎡	21,816,000	10,908,000	6,685,000	4,223,000	山本(実)工務店 山本実男
	小計					60,600,000	37,980,000	16,869,000	5,751,000	
61	集落道整備	蕨打	美川村	W = L =	3.5 273	30,300,000	21,150,000	7,938,000	1,212,000	(尙代) 高山建設 高山猛
〃	集落道舗装	大谷中	〃	W = L =	4.0 377.5	10,100,000	7,050,000	2,747,000	303,000	金亀建設(尙代) 西山正志
〃	農道整備	水押	〃	W = L =	3.5 82.6	10,100,000	7,050,000	2,646,000	404,000	(尙代) 中岡組 中岡隆
	小計					50,500,000	35,250,000	13,331,000	1,919,000	
62	農道整備	水押 (国債)	〃	W = L =	3.5 245.5	30,300,000	21,150,000	7,938,000	1,212,000	(尙代) 中岡組 中岡隆
〃	〃	水押	〃	W = L =	3.5 47.4	9,177,870	6,406,335	2,404,535	367,000	〃
〃	集落道整備	蕨打	〃	W = L =	3.5 163.4	17,170,000	11,985,000	4,499,000	686,000	(尙代) 高山建設 高山猛
〃	〃	仕出	〃	W = L =	3.0 38.7	4,636,910	3,236,655	1,238,255	162,000	(尙代) 中岡組 中岡隆
〃	〃	仕出 (NTT)	〃	W = L =	3.0 145.6	15,150,000	10,575,000	3,969,000	606,000	〃
〃	集落道舗装	天神	〃	W = L =	3.5 218.7	3,686,500	2,573,250	1,015,250	98,000	金亀建設(尙代) 西山正志
〃	農業集落排水施設整備	東川	〃	L =	284.5	2,676,500	1,868,250	537,250	271,000	高岡建設(尙代) 高岡稔

	小計				82,797,780	57,794,490	21,601,290	3,402,000	
63	農道整備	水押 (国債)	美川村	W = 3.5 L = 274.5	30,300,000	21,150,000	7,938,000	1,212,000	(有)中岡組 代中岡隆
〃	集落道整備	大谷中	〃	W = 4.0 L = 218.2	30,401,000	21,220,500	7,964,500	1,216,000	伊豫建設(株) 代平柳幸次郎
〃	集落道舗装	蘇打	〃	W = 3.5 L = 845	14,746,000	10,293,000	4,011,000	442,000	金亀建設(株) 代西山正志
〃	〃	仕出	〃	W = 3.0 L = 184.3	2,828,000	1,974,000	770,000	84,000	〃
〃	集落防災安全施設整備	馬門	〃	防火水槽 V = 40m ³ 級	7,575,000	5,287,500	1,151,500	1,136,000	近藤建設工業(株) 代近藤旭
	小計				85,850,000	59,925,000	21,835,000	4,090,000	
元	集落道整備	大谷中	〃	W = 4.0 L = 272.2	33,330,000	23,265,000	8,732,000	1,333,000	伊豫建設(株) 代平柳幸次郎
〃	〃	本組中	〃	W = 3.5 L = 271.5	15,453,000	10,786,500	4,048,500	618,000	(有)高山建設 代高山猛
〃	農道整備	沢渡中	〃	W = 3.5 L = 76.3	10,605,000	7,402,500	2,778,500	424,000	(株)美川建設 代西山公彦
〃	農道舗装	水押	〃	W = 3.5 L = 650	11,312,000	7,896,000	3,077,000	339,000	協和道路(株) 代東進
	小計				70,700,000	49,350,000	18,636,000	2,714,000	
2	農道整備	内田 (国債)	〃	W = 3.5 L = 497.5	30,300,000	21,150,000	8,241,000	909,000	(有)高山建設 代高山猛

〃	〃	沢渡中	〃	W = 3.5 L = 116.3	22,220,000	15,510,000	6,044,000	666,000	(株)美川建設 代 西山公彦
〃	集落道舗装	大谷中	〃	W = 4.0 L = 541.3	10,605,000	7,402,500	2,884,500	318,000	金亀建設(株) 代 西山正志
〃	集落道整備	本組中	〃	W = 3.5 L = 269.1	15,150,000	10,575,000	4,121,000	454,000	(有)高山建設 代 高山猛
〃	〃	筒城下	〃	W = 3.5 L = 86	9,595,000	6,697,500	2,610,500	287,000	高岡建設(有) 代 高岡稔
	小計				87,870,000	61,335,000	23,901,000	2,634,000	
3	集落道整備	本組中	〃	W = 3.5 L = 174.1	20,200,000	14,100,000	5,494,000	606,000	(有)高山建設 代 高山猛
〃	〃	赤土	〃	W = 3.5 L = 163.4	37,925,500	26,472,750	10,125,750	1,327,000	(株)美川建設 代 西山公彦
〃	集落道舗装	筒城下	〃	W = 3.5 L = 86	1,464,500	1,022,250	399,250	43,000	協和道路(株) 代 東進
〃	農道舗装	沢渡中 (国債)	〃	W = 3.5 L = 93	1,414,000	987,000	385,000	42,000	〃
〃	〃	沢渡中	〃	W = 3.5 L = 95.9	2,777,500	1,938,750	755,750	83,000	〃
〃	〃	内田	〃	W = 3.5 L = 495.9	8,686,000	6,063,000	2,363,000	260,000	金亀建設(株) 代 西山正志
〃	〃	井出口	〃	W = 3.0 L = 600.3	13,382,500	9,341,250	3,640,250	401,000	協和道路(株) 代 東進
	小計				85,850,000	59,925,000	23,163,000	2,762,000	

4	農道整備	沢渡中 (国債)	美川村	W = 3.5 L = 138.5	20,200,000	14,100,000	5,393,000	707,000	㈱美川建設 代西山公彦
〃	〃	沢渡中	〃	W = 3.5 L = 32.4	18,180,000	12,690,000	4,854,000	636,000	〃
〃	集落道整備	赤土	〃	W = 3.5 L = 219.1	46,662,000	32,571,000	12,458,000	1,633,000	露口建設㈱ 代露口育夫
〃	〃	下土居	〃	W = 3.5 L = 26.7	30,300,000	21,150,000	8,090,000	1,060,000	㈲高山建設 代高山猛
〃	集落道舗装	本組中	〃	W = 3.5 L = 692.4	10,908,000	7,614,000	2,967,000	327,000	金亀建設㈱ 代西山正志
	小計				126,250,000	88,125,000	33,762,000	4,363,000	
5	農道整備	沢渡中	〃	W = 3.5 L = 98.1	21,210,000	14,805,000	5,769,000	636,000	㈱美川建設 代西山公彦
〃	集落道整備	下土居	〃	W = 3.5 L = 69.9	38,380,000	26,790,000	10,439,000	1,151,000	㈲高山建設 代高山猛
〃	〃	赤土	〃	W = 3.5 L =	44,036,000	30,738,000	11,977,000	1,321,000	露口建設㈱ 代露口育夫
	小計				103,626,000	72,333,000	28,185,000	3,108,000	
	合計				826,763,780	572,777,490	220,755,290	33,201,000	

耕地地すべり防止対策事業

実施年度	工 種	地 区 名	事業主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
59	床固工・承水路	本組第2	愛媛県	n = 2 L = 200.5	m 円	円	円	円	天 野 建 設 天 野 輝 雄
〃	排水ボーリング	〃	〃	n = 10 L = 249	25,440,000	25,440,000			(株)キンキ地質センター 代 阿部 治郎
〃	測量設計	〃	〃	n = 2 L = 300					(株)共蓉調査設計事務所 代 大野雅治郎
〃	排水路	大川上組	〃	L = 86.4	11,660,000	11,660,000			西 岡 建 設 西 岡 広 明
〃	排水ボーリング	〃	〃	n = 3 L = 90					愛媛地質調査(株) 清 水 量 子
〃	排水路	筒 城	〃	L = 116.2					高 岡 建 設 (有) 代 高岡 稔
〃	調査ボーリング	〃	〃	n = 2 L = 38	10,600,000	10,600,000			基礎地盤コンサル(株) 代 森 博
〃	測量設計	〃	〃	L = 801					小笠原工務所 代 小笠原敏夫
	小 計				47,700,000	47,700,000			
60	床 固・ 排水路・ 承水路	本組第2	〃	n = 1 L = 426.4	19,080,000	19,080,000			伊 豫 建 設 (株) 代 平柳幸次郎

〃	測量設計	〃	〃	L = 380	}				小笠原工務所 代 小笠原敏夫
〃	排水路	大川上組	〃	L = 92	}	12,720,000	12,720,000		西岡建設 西岡 広 明
〃	測量設計	大川上組	〃	L = 290	}				南海測量設計(株) 代 福本 靖
〃	排水路	筒 城	〃	L = 77.3	}	10,600,000	10,600,000		高岡建設(有) 代 高岡 稔
〃	排水ボー リング	〃	〃	n = 10 L = 310	}				日本基礎技術(株) 代 田中 久義
〃	調査ボー リング	蕨 川	〃	n = 4 L = 75	}	10,600,000	10,600,000		(株) ナイバ 代 馬場 幸秋
〃	測量設計	〃	〃	L = 410	}				橋本測量設計 橋本 忠志
〃	施設補修	ヤナギソ	〃	L = 250.7	}	6,360,000	6,360,000		西岡建設 西岡 広 明
〃	測量設計	〃	〃	L = 330	}				土地改良連合会 代 矢野 弁介
	小 計					59,360,000	59,360,000		
61	床 固	本組第2	〃	n = 1		11,660,000	11,660,000		伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎
〃	排水路	大川上組	〃	L = 85.9	}	10,600,000	10,600,000		西岡建設 西岡 広 明
〃	測量設計	〃	〃	L = 165	}				南海測量設計(株) 代 福本 靖

	排水路	筒城	〃	L = 88	}	9,540,000	9,540,000			(有) 中岡組 代 中岡 隆	
	排水ボー リング	〃	〃	n = 6 L = 185						日特建設(株) 代 島山 利昭	
	排水路	菘川	〃	L = 69.8	}	10,600,000	10,600,000			高岡建設(有) 代 高岡 稔	
	排水ボー リング	〃	〃	n = 7 L = 210						(株) ナイバ 代 馬場 幸秋	
	小計					42,400,000	42,400,000				
62	排水路	本組第2	〃	n = 3 L = 269	}					伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎	
	排水ボー リング	〃	〃	n = 7 L = 210			22,260,000	22,260,000			松さくコンサル タント(株) 代 神野 繹
	〃	〃	〃	n = 12 L = 349							(株)東建ジオテッ ク 代 山崎陽三郎
	排水路	大川上組	〃	n = 1 L = 163.8	}	15,900,000	15,900,000			西岡建設 西岡 広 明	
	排水ボー リング	〃	〃	n = 7 L = 237							松山地下開発(株) 代 山本 修
	排水路	筒城	〃	n = 2 L = 192.7	}					(有) 中岡組 代 中岡 隆	
	排水ボー リング	〃	〃	n = 4 L = 120			18,020,000	18,020,000			基礎地盤コンサル ル(株) 代 森 博

〃	〃	〃	〃	n = 11 L = 340	}					(株)ソイルエンジニアリング 代 河内 俊男
〃	排水路	菘 川	〃	n = 1 L = 103.8	}	9,540,000	9,540,000			高岡建設(有) 代 高岡 稔
〃	排水ボーリング	〃	〃	n = 3 L = 90	}					(株)ダイヤコンサルタント 代 白隈 四郎
	小 計					65,720,000	65,720,000			
63	排水路	本組第2	〃	n = 1 L = 189.1	}					伊 豫 建設(株) 代 平柳幸次郎
〃	排水ボーリング	〃	〃	n = 14 L = 340	}	13,780,000	13,780,000			川崎地質(株) 代 江崎 勝
〃	測量設計	〃	〃	L = 215.1	}					(株)サンコー設計 代 檜垣 一郎
〃	排水路	大川上組	〃	n = 1 L = 74.1	}	11,660,000	11,660,000			(有)高山建設 代 高山 猛
〃	排水ボーリング	〃	〃	n = 8 L = 240	}					松さくコンサルタント(株) 代 神野 繹
〃	排水路	筒 城	〃	n = 2 L = 172.4	}	12,720,000	12,720,000			高岡建設(有) 代 高岡 稔
〃	排水ボーリング	〃	〃	n = 11 L = 330	}					(株)荒谷建設コンサルタント 代 荒谷 寿一
〃	排水路	菘 川	〃	n = 1 L = 83.6	}	10,600,000	10,600,000			高岡建設(有) 代 高岡 稔

〃	排水ボー リング	〃	〃	n = 10 L = 296	}				(株)雄新地質コン サルタント 代 大政 善三
〃	地質地下 水調査	ヤナギン 2期	〃	1.0式	}	10,600,000	10,600,000		松さくコンサル タント(株) 代 神野 繹
	小 計				}	59,360,000	59,360,000		
元	排水路・ 床固	本組第2	愛媛県	n = 2 L = 122	}	17,444,000	17,444,000		伊 豫 建 設 (株) 代 平柳幸次郎
〃	測量設計	〃	〃	1.0式	}				(株)アースコンサル タント 代 二神 久
〃	承水路・ 排水路	大川上組	〃	n = 2 L = 244	}				(有) 高 山 建 設 代 高山 猛
〃	排水ボー リング	〃	〃	n = 9 L = 285	}	13,078,000	13,078,000		(株) ナ イ バ 代 村尾 恒義
〃	測量設計	〃	〃	1.0式	}				松さくコンサル タント(株) 代 神野 繹
〃	排 水 路	筒 城	〃	n = 1 L = 189	}	13,082,000	13,082,000		(有) 中 岡 組 代 中岡 隆
〃	測量設計	〃	〃	1.0式	}				(株)住化土建設計 代 星川 敬
〃	排 水 路	蓑 川	〃	n = 1 L = 141.3	}				高 岡 建 設 (有) 代 高岡 稔
〃	排水ボー	〃	〃	n = 8	}	13,082,000	13,082,000		(株) 日 さ く

	リング			L = 230					代 橋本 清毅
〃	測量設計	〃	〃	1.0式					(株)サンコー設計 代 檜垣 一郎
〃	床固工	ヤナギン 2期	〃	n = 1	15,267,000	15,267,000			(有)高山建設 代 高山 猛
〃	測量設計	〃	〃	1.0式					松さくコンサル タント(株) 代 神野 繹
	小計				71,953,000	71,953,000			
2	床固工	本組第2	愛媛県	n = 2	15,900,000	15,900,000			伊 豫 建 設 (株) 代 平柳幸次郎
〃	測量設計	〃	〃	1.0式					(株)アースコンサル タント 代 二神 久士
〃	承水路・ 排水路	大川上組	〃	n = 2 L = 227					(有)高山建設 代 高山 猛
〃	排水ボー リング	〃	〃	n = 3 L = 90	12,720,000	12,720,000			(株)東建ジオテッ ク 代 山崎陽三郎
〃	測量設計	〃	〃	1.0式					南海測量設計(株) 代 福本 靖
〃	承水路・ 排水路	筒 城	〃	n = 2 L = 164.8	10,600,000	10,600,000			(有)中岡組 代 中岡 隆
〃	測量設計	〃	〃	1.0式					(株)エイトコンサル タント 代 小谷 誼

〃	排水路	菘川	〃	n = 1 L = 229.6	} 9,540,000	9,540,000			高岡建設(有) 代 高岡 稔
〃	測量設計	〃	〃	1.0式					(株)サンコー設計 代 檜垣 一郎
〃	排水路・ 床固工	ヤナギン 2期	〃	n = 2 L = 112.5	} 12,720,000	12,720,000			(有)高山建設 代 高山 猛
〃	観測委託	〃	〃	1.0式					松さくコンサル タント(株) 代 神野 繹
	小計				61,480,000	61,480,000			
3	床固工	本組第2	愛媛県	n = 1	}				伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎
〃	排水ボー リング	〃	〃	n = 27 L = 790	} 24,380,000	24,380,000			松さくコンサル タント(株) 代 神野 繹
〃	測量設計	〃	〃	1.0式					(株)アースコンサル タント 代 二神 久士
〃	排水路	大川上組	〃	n = 1 L = 74.1	} 10,600,000	10,600,000			(有)高山建設 代 高山 猛
〃	排水ボー リング	〃	〃	n = 8 L = 240	}				東邦地下工機(株) 代 岡本 幸憲
〃	承水路・ 排水路	筒城	〃	n = 2 L = 165.9	5,300,000	5,300,000			(有)中岡組 代 中岡 隆
〃	排水路	菘川	〃	n = 1 L = 144.4	}				高岡建設(有) 代 高岡 稔

〃	排水ボー リング	〃	〃	n = L = 3 120	10,600,000	10,600,000			大成技建(株) 代 管 建 忠志
〃	測量設計	〃	〃	1.0式					(株)サンコー設計 代 檜垣 一郎
〃	排水路	ヤナギソ 2期	〃	n = L = 1 39.8					(有)高山建設 代 高山 猛
〃	排水ボー リング	〃	〃	n = L = 5 200	10,600,000	10,600,000			松さくコンサル タント(株) 代 神野 繹
〃	測量設計	〃	〃	1.0式					〃
	小 計				61,480,000	61,480,000			
4	床 固 工	本組第2	愛媛県	n = L = 1	33,920,000	33,920,000			伊 豫 建 設 (株) 代 平柳幸次郎
〃	排水路	大川上組	〃	n = L = 1 107.8	10,600,000	10,600,000			(有)高山建設 代 高山 猛
〃	排水路	筒 城	〃	n = L = 1 112.5	10,600,000	10,600,000			(有)中岡組 代 中岡 隆
〃	承水路	養 川	〃	n = L = 1 166	12,720,000	12,720,000			高岡建設(有) 代 高岡 稔
〃	排水ボー リング	〃	〃	n = L = 11 400					日本基礎技術(株) 代 田中 則光
〃	排水路	ヤナギソ 2期	〃	n = L = 1 94.7	12,720,000	12,720,000			(有)高山建設 代 高山 猛
	小 計				80,560,000	80,560,000			
5	承水路	本組第2	〃	n = L = 1 372	15,898,000	15,898,000			伊 豫 建 設 (株) 代 平柳幸次郎

〃	排水路	大川上組	〃	n = 1 L = 146	16,942,000	16,942,000			(有)高山建設 代 高山 猛
〃	承水路	菱川	〃	n = 1 L = 243.5					高岡建設(有) 代 高岡 稔
〃	排水ボー リング	〃	〃	n = 6 L = 210	16,958,000	16,958,000			(株)住化土建設計 代 星川 敬
〃	〃	〃	〃	n = 7 L = 275					応用地質(株) 代 大矢 晁
〃	排水路・ 床固工	筒城	〃	n = 2 L = 90.3	12,719,000	12,719,000			(有)中岡組 代 中岡 隆
〃	排水路	ヤナギソ 2期	〃	n = 1 L = 124.5	14,839,000	14,839,000			(有)高山建設 代 高山 猛
	小計				77,356,000	77,356,000			
	合計				627,369,000	627,369,000			

農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
2	農道整備	日野浦地区	愛媛県	W = 5.0 L = 105	73,776,000	61,132,000	12,644,000		伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎
〃	測量設計	〃	〃	W = 5.0 L = 350					(株)ライト設計コ ンサルタント 代 松本 清行

3	農道整備	〃	〃	W = 5.0 L = 330.4	127,200,000	105,400,000	21,800,000		伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎			
4	〃	〃	〃	W = 5.0 L = 255.4	}	}	}	}	〃			
〃	測量設計	〃	〃	1.0式					106,000,000	87,833,000	18,167,000	(株)ライト設計コ ンサルタント 代 松本 清行
〃	調査測量 設計	〃	〃	1.0式								(株)荒谷建設コ ンサルタント 代 荒谷 壽一
5	調査測量 設計	沢渡地区	〃	W = 5.0 L = 102.0	42,400,000	35,133,000	7,267,000		(株)エイトコンサル タント 代 小谷 誼			
〃	農道整備	日野浦地区	〃	W = 5.0 L = 266.7	}	}	}	}	伊豫建設(株) 代 平柳幸次郎			
〃	用地測量	〃	〃	1.0式					116,600,000	96,616,000	19,984,000	(株)ライト設計コ ンサルタント 代 松本 清行
〃	調査ボー リング	〃	〃	1.0式								(株)荒谷建設コ ンサルタント 代 荒谷 壽一
	合 計				465,976,000	386,114,000	79,862,000					

県営仕出過疎基幹農道整備事業

実施年度	工 種	地区名	事業主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
59	農道舗装	仕 出	愛媛県	W = 5.0 L = 527	21,230,000	21,230,000			金 亀 建 設 (株) 代 西山 正志
〃	農道整備	仕出2期	〃	山留水路工 1.0式	12,428,000	12,428,000			(有) 中 岡 組 代 中岡 組隆
〃	〃	〃	〃	W = 5.0 L = 378.7	40,651,000	40,651,000			(有) 美 川 建 設 代 西山 広 元
60	〃	〃	〃	W = 5.0 L = 236.9	34,931,000	34,931,000			〃
61	〃	〃	〃	W = 5.0 L = 329.3	34,985,000	34,985,000			(有) 中 岡 組 代 中岡 組隆
62	農道舗装	〃	〃	W = 5.0 L = 1,452.7	37,067,000	37,067,000			金 亀 建 設 (株) 代 西山 正志
63	〃	〃	〃	W = 5.0 L = 635.8	18,036,000	18,036,000			〃
	合 計				199,328,000	199,328,000			

農地農業用施設災害復旧事業

実施年度	工 種	地区名	事業主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
59	畦 畔	宮 の 成	美川村	L = 12	1,647,000	1,370,304	112,696	164,000	高 岡 建 設 (有)

										代 高岡 稔
〃	道 路	宮 地	〃	L = 10	844,000	792,516	484	51,000		伊 豫 建 設 (株) 代 平柳幸次郎
62	〃	置 俵	〃	W = 4.0 L = 67	30,606,000	30,514,182	91,818	0		松さくコンサル タント (株) 代 神野 輝
	小 計				33,097,000	32,677,002	204,998	215,000		
元	道 路	大 川	〃	W = 4.0 L = 17	4,508,000	4,476,444	31,556	0		(株) 美川 建 設 代 西山 公彦
〃	〃	梶 家	〃	W = 1.5 L = 7	381,000	378,333	667	2,000		(有) 高 山 建 設 代 高山 猛
〃	〃	仕 出	〃	W = 5.0 L = 16	667,000	662,331	4,669	0		(有) 中 岡 組 代 中岡 隆
〃	〃	置 俵	〃	W = 4.0 L = 24	9,708,000	9,640,044	67,956	0		高 岡 建 設 (有) 代 高岡 稔
〃	〃	石 元	〃	W = 1.6 L = 5	465,000	461,745	255	3,000		伊 豫 建 設 (株) 代 平柳幸次郎
〃	畦 畔	大 川	〃	L = 12	774,000	726,012	988	47,000		(有) 高 山 建 設 代 高山 猛
〃	〃	長 瀬	〃	L = 12	816,000	765,408	592	50,000		(有) 中 岡 組 代 中岡 隆
〃	〃	沢 渡	〃	L = 7	243,000	227,934	66	15,000		(株) 美川 建 設 代 西山 公彦
〃	水 路	〃	〃	L = 7	741,000	735,813	187	5,000		(株) 美川 建 設 代 西山 公彦
										アマノ 建 設 (有)

〃	頭首工	とちず	〃	L =	25.7	15,066,000	14,960,538	462	105,000	代 天野 輝雄
	小 計					33,369,000	33,034,602	107,398	227,000	
2	畦 畔	上 沖	〃	L =	7	1,241,000	1,080,911	112,089	48,000	(備) 中 岡 組 代 中岡 隆
〃	〃	中 通	〃	L =	12	1,665,000	1,450,215	150,785	64,000	(株) 美 川 建 設 代 西山 公彦
〃	〃	梨 の 下	〃	L =	10	932,000	811,772	84,228	36,000	(備) 高 山 建 設 代 高山 猛
〃	〃	大 川	〃	L =	7	508,000	488,188	812	19,000	アマノ建 設(備) 代 天野 輝雄
〃	〃	堤	〃	L =	19	1,272,000	1,222,392	608	49,000	伊 豫 建 設(株) 代 平柳 幸次郎
〃	〃	大 谷	〃	L =	17	1,103,000	1,047,490	510	55,000	〃
〃	〃	東 川	〃	L =	63	4,111,000	3,950,671	329	160,000	高 岡 建 設(備) 代 高岡 稔
〃	〃	竹 谷	〃	L =	5	424,000	407,464	536	16,000	(備) 中 岡 組 代 中岡 隆
〃	〃	柳 の 谷	〃	L =	16	953,000	915,833	167	37,000	(備) 高 山 建 設 代 高山 猛
〃	〃	七 鳥	〃	L =	8	78,000	74,958	42	3,000	(備) 中 岡 組 代 中岡 隆
〃	水 路	東 川	〃	L =	10	556,000	551,552	448	4,000	高 岡 建 設(備) 代 高岡 稔
〃	〃	柳 の 谷	〃	L =	6	425,000	421,600	400	3,000	(備) 高 山 建 設 代 高山 猛

〃	〃	七 鳥	〃	L = 8	345,000	342,240	760	2,000	(有) 中 岡 組 代 中岡 隆
〃	〃	沢 渡	〃	L = 4.7	572,000	557,128	10,872	4,000	(有) 美 川 建 設 代 西山 公彦
〃	道 路	沢 渡	〃	W = 1.8 L = 2.3	360,000	350,640	7,360	2,000	〃
〃	頭 首 工	三 主	〃	L = 4	3,428,000	3,400,576	424	27,000	(有) 高 山 建 設 代 高山 猛
	小 計				17,973,000	17,073,630	370,370	529,000	〃
3	道 路	置 俣	〃	W = 4.0 L = 34	9,443,000	9,197,482	245,518	0	松さくコンサル タント(株) 代 神野 繹
〃	〃	トロメキ	〃	W = 1.2 L = 12	2,331,000	2,310,021	979	20,000	(有) 高 山 建 設 代 高山 猛
〃	畦 畔	イノ谷	〃	L = 4.5	360,000	344,880	120	15,000	(有) 中 岡 組 代 中岡 隆
〃	〃	七 鳥	〃	L = 5	582,000	557,556	444	24,000	〃
〃	〃	トロメキ	〃	L = 11	776,000	743,408	592	32,000	(有) 高 山 建 設 代 高山 猛
〃	〃	ジデン	〃	L = 27.5	1,983,000	1,869,058	942	113,000	高代 岡 建 設 (有) 高岡 稔
	小 計				15,475,000	15,022,405	248,595	204,000	
4	道 路	仕 出	〃	W = 5.0 L = 24	5,537,000	5,481,630	55,370	0	(有) 中 岡 組 代 中岡 隆

〃	〃	下組	〃	W = 3.5 L = 26	5,315,000	5,261,850	53,150	0	(有) 高山建設 代 高山 建設 猛
〃	〃	下の谷	〃	W = 1.2 L = 6	615,000	608,850	150	6,000	高代岡建設(株) 代 高岡 建設 稔
〃	〃	仕出	〃	W = 5.0 L = 11	932,000	922,680	9,320	0	(有) 中岡組 代 中岡 組 隆
〃	水路改修	黒藤川下	〃	L = 19	15,355,000	15,201,450	550	153,000	アマノ建設(有) 代 天野 輝雄
〃	畦畔	水押	〃	L = 8	519,000	496,164	836	22,000	高代岡建設(有) 代 高岡 建設 稔
〃	〃	東川	〃	L = 4	339,000	324,084	916	14,000	〃
〃	〃	小椋	〃	L = 6	827,000	790,612	388	36,000	〃
〃	〃	成の池	〃	L = 24	1,761,000	1,683,516	484	77,000	(有) 中岡組 代 中岡 組 隆
〃	〃	養川	〃	L = 4	529,000	505,724	276	23,000	高代岡建設(有) 代 高岡 建設 稔
〃	〃	上沖	〃	L = 8.5	965,000	922,540	460	42,000	(有) 中岡組 代 中岡 組 隆
〃	〃	橋本	〃	L = 4	391,000	373,796	204	17,000	高代岡建設(有) 代 高岡 建設 稔
〃	〃	滝渡瀬	〃	L = 10.5	2,079,000	1,987,524	476	91,000	(有) 中岡組 代 中岡 組 隆
	小計				35,164,000	34,560,420	122,580	481,000	
5	道路置俵		〃	W = 4.0 L = 71	3,713,000	3,649,879	63,121	0	協和道路(株) 代 東 道路 進

〃	〃	菘川	〃	W = L =	3.5 9	2,149,000	2,112,467	36,533	0	高代岡建設(有) 代高岡稔
〃	〃	田渡野瀬	〃	W = L =	1.6 8	1,379,000	1,355,557	443	23,000	(株)美川建設 代西山公彦
〃	〃	本組西 (A工区)	〃	W = L =	3.0 15	1,848,000	1,816,584	31,416	0	伊豫建設(株) 代平柳幸次郎
〃	〃	本組西 (B工区)	〃	W = L =	3.0 17	3,342,000	3,285,186	56,814	0	〃
〃	〃	堤	〃	W = L =	1.2 6	636,000	625,188	812	10,000	アマノ建設(有) 代天野萬久
〃	〃	荒瀬	〃	W = L =	1.2 5	529,000	520,007	993	8,000	(株)美川建設 代西山公彦
〃	水路	黒藤川	〃	L =	6	1,166,000	1,146,178	822	19,000	〃
〃	〃	馬の谷	〃	L =	15	894,000	878,802	198	15,000	(有)高山建設 代高山猛
〃	〃	上本組	〃	L =	29	1,963,000	1,929,629	371	33,000	(株)美川建設 代西山公彦
〃	〃	本組上	〃	L =	14	848,000	833,584	416	14,000	伊豫建設(株) 代平柳幸次郎
〃	〃	堤	〃	L =	20	2,546,000	2,502,718	282	43,000	(有)高山建設 代高山猛
〃	〃	中通	〃	L =	6	795,000	781,485	515	13,000	〃
〃	畦畔	安部	〃	L =	6	508,000	480,060	940	27,000	高代岡建設(有) 代高岡稔

〃	〃	下の谷	〃	L =	4	477,000	450,765	215	26,000	〃
〃	〃	水野	〃	L =	7	848,000	755,055	46,945	46,000	(有) 高山建設 代 高山 猛
〃	〃	中久保	〃	L =	12	1,060,000	1,001,700	300	58,000	高岡建設 (有) 代 高岡 稔
〃	〃	山崎	〃	L =	11	848,000	801,360	640	46,000	(有) 中岡組 代 中岡 隆
〃	〃	東川	〃	L =	5	582,000	549,990	10	32,000	高岡建設 (有) 代 高岡 稔
〃	〃	大上	〃	L =	6	424,000	400,680	320	23,000	〃
〃	〃	山崎	〃	L =	5	477,000	450,765	235	26,000	〃
〃	〃	木岡	〃	L =	5	582,000	549,990	10	32,000	〃
〃	〃	本組西	〃	L =	15	379,000	358,155	845	20,000	伊豫建設 (株) 代 平柳幸次郎
〃	〃	佐藤	〃	L =	6	424,000	400,680	320	23,000	高岡建設 (有) 代 高岡 稔
〃	〃	松崎	〃	L =	7	540,000	510,300	700	29,000	(有) 中岡組 代 中岡 隆
〃	〃	沢渡下	〃	L =	7	529,000	411,075	88,925	29,000	(株) 美川建設 代 西山 公彦
〃	〃	沢渡上	〃	L =	5	370,000	349,650	350	20,000	〃

〃	〃	城山	〃	L =	14	1,803,000	1,703,835	165	99,000	(有) 高山建設 代 高山 猛
〃	〃	滝内	〃	L =	9	424,000	400,680	320	23,000	〃
〃	〃	田中	〃	L =	7	477,000	450,765	235	26,000	〃
〃	〃	大南	〃	L =	5	370,000	349,650	350	20,000	(有) 美川建設 代 西山 公彦
〃	〃	西口	〃	L =	10	1,060,000	1,001,700	300	58,000	〃
〃	〃	馬の谷	〃	L =	27	908,000	858,060	940	49,000	(有) 高山建設 代 高山 猛
〃	〃	新宅	〃	L =	13	2,005,000	1,894,725	275	110,000	アマノ建設(有) 代 天野 萬久
〃	〃	中野	〃	L =	49	1,414,000	1,336,230	770	77,000	伊豫建設(有) 代 平柳 幸次郎
〃	〃	松岡	〃	L =	6	44,290	41,854	436	2,000	高岡建設(有) 代 高岡 稔
〃	〃	成ノ池	〃	L =	52	4,434,000	4,029,480	161,520	243,000	(有) 中岡組 代 中岡 隆
〃	〃	林 (A工区)	〃	L =	11	134,000	126,630	370	7,000	(有) 高山建設 代 高山 猛
〃	〃	林 (B工区)	〃	L =	14	1,074,000	1,014,930	70	59,000	(有) 高山建設 代 高山 猛
〃	〃	梅木	〃	L =	7	689,000	601,020	50,980	37,000	(有) 美川建設 代 西山 公彦

〃	〃	下 中	〃	L =	31	2,440,000	2,305,800	200	134,000	(有) 高山 建設 猛
〃	〃	古 谷	〃	L =	5	180,000	170,100	900	9,000	(有) 高山 建設 猛
〃	〃	山 中	〃	L =	7	1,241,000	1,172,745	255	68,000	伊 豫 建設 (株) 代 平柳 幸次郎
〃	道 路	中 野	〃	L =	41	7,497,000	7,369,551	449	127,000	〃
〃	〃	林	〃	L =	11	1,296,000	1,273,968	32	22,000	(有) 高山 建設 猛
〃	〃	古 谷	〃	L =	5	390,000	383,370	630	6,000	〃
〃	水 路	松 岡	〃	L =	6	622,000	611,426	574	10,000	高 岡 建設 (有) 代 高岡 稔
〃	〃	林	〃	L =	5	304,000	298,832	168	5,000	(有) 高山 建設 猛
	小 計					58,662,290	56,302,840	553,450	1,806,000	
	合 計					193,740,290	188,670,899	1,607,391	3,462,000	

第五節 特産品開発

一 美川ふるさと市



昭和六三年度に、村農家生活改善グループを中心とした、村内の各種関係団体・機関等で、ふるさと市実行委員会を組織し、

美川ふるさと市

愛媛県からの補助を受け、村も助成して、村内で生産された新鮮な野菜、村内の農産物等の素材を活用した、手づくり加工品の販売とおして、都市と農村、消費者と生産者の交流とと

もに、村の活性化を図ることを目的として、美川ふるさと市がスタートした。

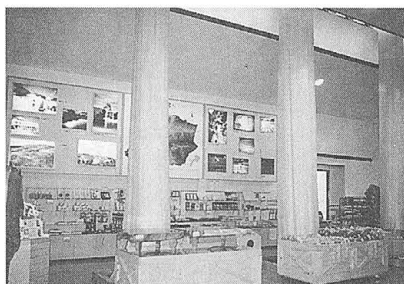
平成三年度までは、農村環境改善センター前の駐車場を主な会場として、夏から秋にかけての行楽シーズン中の日曜日に、四〜七回程度のふるさと市を開設していた。しかし、時期によると交通量が少なく、比較的交通量の多い国道沿いへの会場の変更、また、加工品の充実に伴い、既存の施設では手狭になってきたため、加工専用施設の建設を望む声が生じ、強くなってきた。

平成四年八月に、専用の加工室を備えた農村活性センターみかわが完成し、あわせて、ふるさと市専用の移動屋台と販売台を整備し、ふるさと市の充実に努めた。

施設の充実に伴い、平成四年度からは、ふるさと市の開設日もそれまでと比較して倍以上と増え、安定した顧客もつき、村の年中行事として定着してきた。

一 農村活性センターみかわ

農村活性センターみかわの建設の発端は、当初、ふるさと創生資金の一億円の活用方法を検討する中で、商工



地元杉の大木を配した販売コーナー



郷土料理を提供する食堂

会から物産館建設の陳情書が提出され、村議会で採択されスタートした。村も直ちに検討委員会を発足させ、幾度かの検討会や先進地視察を重ねて構想を写真にまとめた。

その後、県において中・南予の中山間地域の農林業を目的としたアグリトピア構想推進事業が創設され、同事業に採択された後、同構想の「活力とふれあいの里づくり推進事業」の一環として、農林業はもとより、村全体の活性化の拠点施設となる事を目指して、

建築に取り掛かった。

工事は平成三年一月に着工し、美川の「村木」である「スギ」の丸太三本をシンボルとして取り入れ、工事費一億二一〇〇万円、備品類約一七〇〇万円をかけ、平成四年七月竣工をみた。加工室の加工機器については、県単独事業のふるさと資源活用モデル事業で、五〇〇万円をかけ整備した。

同センターの管理・運営については、久万農協・森林組合・商工会・村の出資により設立された、株式会社みかわがあたり、平成四年八月にオープンした。

杉の大木三本を配置した販売コーナーでは、村内、郡内の特産品を展示販売し、食堂では、アユ・ウナギ・アマゴの川魚料理を中心に提供している。

また、加工室では、ふるさと市を中心に、地域内で生産される農産物を加工し、付加価値のついた特産品づくりの場として活用されている。

第六節 第三セクター

一 株式会社みかわ

平成四年六月に、村・農協・森林組合・商工会の四団体の出資により、資本金一五〇〇万円で第三セクターの株式会社みかわが設立された。会社設立の当面の目的は、同年八月オープンした農村活性センターみかわの管理運営業務が主なものであったが、将来は、今以上の高齢化、過疎化が進行し、担い手不足が予想されるため、

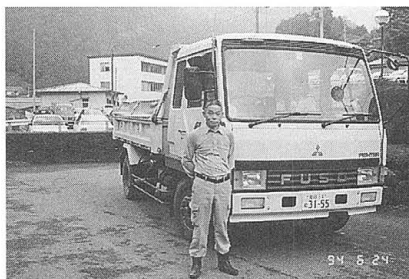
(一)農林水産物の生産・加工及び販売業務、(二)農林水産物の育成研究・開発に関する業務、(三)スキー場における貸スキー・リフト・駐車場・売店・キャンプ場・レストランの経営、(四)遊園地及びレジャー施設の経営、(五)スポーツ施設・宿泊施設の経営、(六)畜産事業、(七)村道・農林道の新設・補修・設計監理及び請負業務、(八)給食業務、(九)育林業、(一〇)木材素材生産搬出に関する業務、(一一)農作業の請負・作業路・排水路の維持管理・農用地の保全に関する工事、(一二)し尿・ゴミ収集事業及び請負業務、(一三)前各号に付帯・

関連する業務、以上のように、会社設立当初に想定される業務目的が盛り込まれた。平成四年度は、農村活性センターみかわの直営業務のみであったが、平成五年四月から、村内の砂利道の維持補修事業を村から委託し行った。平成五年度中に、種々の研究を重ね、条件整備をしたらうえて、平成六年四月からは、し尿・ゴミ収集業務、白銀荘管理運営業務、学校給食調理、運搬業務を、新たな業務として村から会社に委託し、それまで、村の臨時的雇用であった職員を、一斉に会社に採用し、身分の安定、労働条件の改善を図った。

株式会社みかわ役員名簿

役員名	氏名	充職	任期
代表取締役	木下 久敬	美川村長	平成四・六・二～現在
取締役	西森 勸	久万農協組合 長理事	平成四・六・二～現在
取締役	村上 清章	美川村森林組 合長理事	平成四・六・二～現在
取締役	天野 輝雄	美川村商工会	平成四・六・二～六・一・三
取締役	大野 利一	美川村商工会	平成六・四・七～現在
取締役	篠崎 義雄	長美川村議会議	平成四・六・二～五・四・六
取締役	谷原 一郎	長美川村議会議	平成五・四・七～現在
取締役	西岡 勇美	美川村議会議 建委員長 産建	平成四・六・二～五・四・六
取締役	倉橋 豊	副委員長 産建	平成五・四・七～現在
監査役	山本 熙	美川村監査委	平成四・六・二～現在

第三セクター職員



道路維持補修業務職員



衛生業務職員



農村活性センターみかわ職員



給食センター職員



白銀荘職員



大川嶺牧場牧夫

監査役	藤坂 友一	員 美川村監査委	平成四・六・二 現在
専任 取締役	一ノ宮照昌		
取 締 役	大原 忠明 土居 修		平成五・四・一 現在
			平成六・四・一 現在

第七節 農業協同組合

一 久万農業協同組合となつて

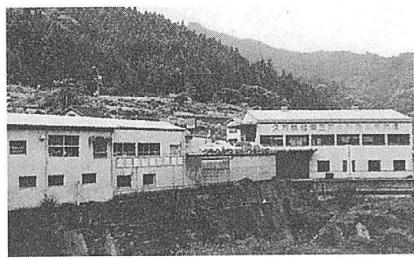
合併により、新生久万農協となり、本村には、仕七川地区に、茶業センター、醸造工場を包括し「美川支所」、弘形・黒藤川・沢渡地区を管轄する「御三戸支所」の、二つの事業所がおかれ、事業運営に当たっている。

四八年一〇月には、御三戸支所の事務所倉庫が手狭なため、増改築の起工式が行われ、翌年三月に完成した。

美川支所事務所は、仕七川地区を長く見守って来た事務所を取り壊し、Aコープ店舗を併設したモダンな事務所が、平成二年一一月に完成。特に、Aコープ店舗は、生鮮食品の購買で、地区住民に親しまれている。平成四年の農産加工施設の完成により、美川支所は一新した。



野菜集荷場 昭和55年3月完成



事務所・店舗 昭和49年6月増築



農産加工施設 平成4年3月完成



支所事務所・Aコープ店 平成2年11月完成

二 組織

久万農業協同組合では、業務の円滑な進行と、運営体制確立のため、農協運営協力組織として、総代会・経済委員会・青壮年部会・婦人部会・共済協力委員会・共済友の会・年金友の会等の部会を、また、生産者部会組織として、稲作部会・和牛改良部会・畜産部会・乳雄肥育牛部会・ミニトマト部会・養蚕部会・くり部会・とまと部会・茶部会・大根部会・たばこ部会・三椏部会・キャベツ部会・ピーマン部会・しいたけ部会等を結成し、農政運動、生産活動の拠点として、多数の会員が加入し、活発な活動が続けられている。

三 事業

合併後、今日までの各部門毎の経過は次のとおりである。

(一) 金融事業

金融事業では、貯金は年々着実な伸びを示しているが、貸付金は徐々に資金需要の低下をきたし、伸びがなんでいる。六〇年度にはいり、金融の自由化が叫ばれ、貯金金利の低下と、ますます激しさを増す資金需要の低下で、貸付事業が伸びず収益の減少傾向が続いている。

(二) 共済事業

共済事業は、組合員の生活の保障拡充を重点に、共済推進協力員加入者組織として、共済友の会を結成し、多発化傾向の農業災害、成人病等の入院等に対する生活保障を充実させるため、積極的に加入促進がはかられた。

共済の種類も、保障のニーズに対応して、多様化、高額化、保障内容の充実が図られ、生命共済では、二倍、三倍、五倍、一〇倍、一五倍へと保障が高額化するとともに、入院等の内容充実と、高齢化に対応するための終身共済が生まれた。

公的年金の受給不安の中から、年金共済、子供の養育費や学資を目的とした子供共済、自然災害や火災から資産を保障する建物更生共済、急速な自動車の普及の中

で、事故の保障充実がはかられた自動車共済等、商品も内容豊富となり、組合員の保障高揚が図られている。

美川村においても、四九年に一戸当たりの保障額が二五五万円であったものが、六〇年には三〇〇万円となり、平成五年度末では、四〇〇〇万近い保障の積上げとなった。

(三) 購買事業

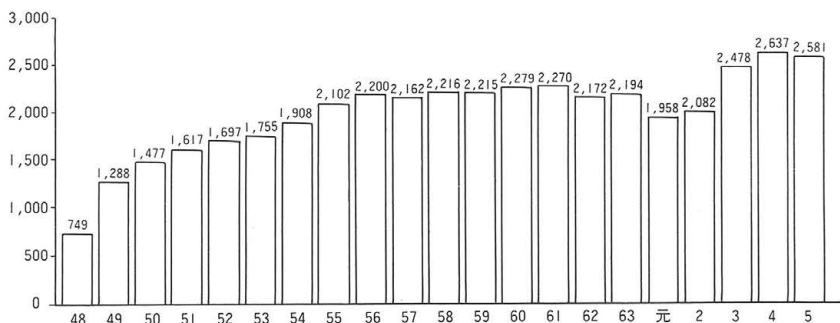
生活購買事業は、多様化する消費者ニーズに対応するために、イベントによる展示会、カタログによる販売等、工夫を重ねて販売拡大に努めたが、昭和四九年一月、久万にオープンしたAコープ本店を始め、畑野川店、日野元店、直瀬店、美川店が次々とオープンし、生鮮食品を中心に、生活に密着した店舗として、好評を得ている。

更に、平成二年七月に本店を移転、衣料を含めた店舗として、フロアーを広げ、売上げ拡大をはかっているが、一般生活購買事業は、景気の低迷と、購買意欲の冷えこみで、売上げは徐々に減少傾向をたどっている。

電器事業は、もとAコープ店を改修し、平成三年度よ

購買売上高年次別推移

(単位 百万円)



り店舗販売を開始し、イベントを行う等、販売拡大を図っている。

(四) 販売事業

合併初年度は、米・茶・養蚕を主体に、美川村での取扱い高一億五二〇〇万円であったが、トマト栽培・キャベツ・レタス・菌茸・ホウレン草等が導入、栽培され、御三戸支所に、五四年度に、野菜集荷場が建設され、久万農協の生産販売関連施設も、菅生に、野菜集荷場・米穀低温貯蔵庫・トマト選果場・野菜低温貯蔵施設等が、四か町村の助成の元で順次整備された。

なかでも、美川地区では、葉タバコの廃作に伴い、ピーマン栽培が大々的に取り組まれ、平成五年度には、一億六〇八〇万円の売上げとなり、美川村全体の販売高は、二億六七二二万円と、大幅な伸びを見る事が出来た。久万農協全体の、平成五年度取扱い高は二三億九七六万円であった。

(五) 製造事業

製造事業は、醤油・味噌の一貫生産販売を行ってお

り、醤油も、昔ながらの自然醸造であり、組合員の家族を通して、遠くは、東京・大阪方面まで送られている。

また、麴に塩を加えただけの状態で販売をしている味噌は、消費者が、自分で手を加えながら、味噌に出来ることから人気が高く、醤油ともども、地区外へも多く販売されている。平成四年に、工場を一新し、設備を新しくして、販売高の増加をめざしている。

(六) 茶業事業

茶業は、茶業センターを七鳥茶工場に置き、面河工場との併用で、面河村・美川村・柳谷村で、それぞれ生産出荷される生葉を加工し、中予地区各Aコープ店舗及び三越、伊予鉄そごう等へ出荷販売している。

茶の生産は、晩霜被害を受ける事が多く、摘採間際で収穫皆無となることもあり、各町村の補助を受けながら、防霜対策を構じつつ、人気の高い久万山の茶を守り育て、販路拡大に努めている。

(七) 利用事業

利用事業は、水稻・野菜の育苗、米の集出荷施設、野

菜の集出荷施設であり、稲の省力栽培の発端として、機械植が始まり、機械植え用の水稻苗の供給を行うため、四九年七月に久万町明神に育苗センターが設立され、続いて、生脱穀に伴うライスセンター、野菜の集荷場、農産物の貯蔵施設、トマトの選果場、野菜冷蔵施設、野菜育苗施設、ピーマン選果施設等が、次々と設立整備され、高齢化とともに、水稻苗、ライスセンターの利用は、年々増加し、限界をしのぐまでになっている。

また、トマト・ピーマン等の苗の供給も、品種の統一と優良苗配布のため、全戸共販分については、農協より供給しており、平成五年度に導入設置した、野菜プラグ苗の播種、発芽育苗施設は、今後の優良種苗供給に、大きな期待がかかっている。

いずれの事業も、国・県はもとより、地元四か町村の大きな助成を受け、久万農協営農振興の拠点として、施設の充実を図っている。

(イ) その他の事業

その他の諸事業として、倉庫事業は、各地区にあった米穀倉庫は、米の生産調整等で出荷数量が減り、また、

平成5年度各種利用事業実績

1	水	38,939	千円
2	野	27,137	
3	と	52,872	
4	ピ	30,365	
5	培	17,834	
6	ラ	14,135	
7	野	5,549	
8	品	3,746	
9	そ	6,105	
	合	196,682	千円

に、出生率も低下し、それに伴って冠婚業務が減り、葬祭へのウエイトが高くなって来た。近年では、冠婚業務の取扱件数は年間数件のみとなっている。

四 部門別営農活動(指導事業)

(一) 水 稲

稲作は、生産調整の実施から、作付面積の減少傾向をたどっているが、従来の稲作方法から、植付も機械化さ

自主米の取扱い拡大に伴い、保管量減少により、年々減益状態が続いている。

冠婚葬祭事業は、合併後、農協会館落成と同時に開始された。当初は結婚も多く、年間四五件を越える実績を示していたが、若者の定任が減少するととも

第2編 産業経済

れ、同時に刈取りや乾燥方法も機械化された。久万町明神に育苗センターが設立され、播種発芽したものを美川へ持ち帰り、硬化・緑化作業を経て、各農家へ配布される。育苗を農協へ委託する農家が、田植機の台数とともに増加している。

しかし、昭和五三年に、第二次水田利用再編対策が実施され、転作面積も、全国で一・二パーセントに達し、農家の米作意欲も減退する一方であり、久万農協においても、本所に、農業振興流通開発室を設置し、激変する農業情勢に対応する対策を構じていった。

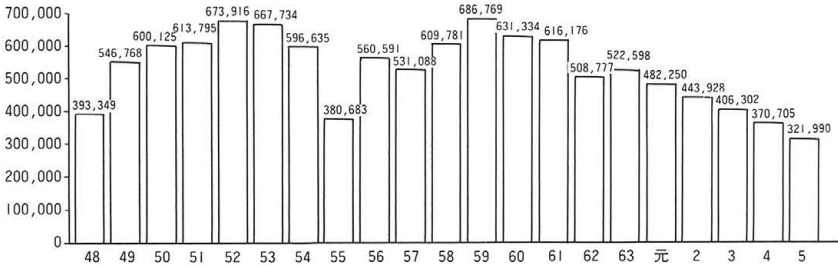
五七年に食管法が改正され、自主流通米の増大と、市場性の導入に伴い、久万農協として「うまい米」の銘柄確立と、早期米の産地化をはかるべく対策を構じていった。五九年に、水編対策第三期事業として、他用米制度が導入となり、他用途米の集荷をせざるを得なくなった。稲作については、その後も、六一年に水田農業確立対策と、続いて生産調整が行われ、農業諸施策も、山間地に対しての対策とはならず、繰り返して襲来する台風、冷夏、長雨、更には、猪による被害、高齢化による廃作田の増加等で、農協としても、復田、増産の運動を行って

平成五年度支所別販売実績 (単位 袋、千円)

支 所	計 画		実 績		計画対比 (%)	
	数 量	販 売 高	数 量	販 売 高	数 量	販 売 高
明 神	12,800	104,960	7,912	85,666	62	82
久 万	4,480	36,736	2,658	28,909	59	79
父二峰	4,600	37,720	3,611	38,359	79	102
畑野川	7,800	63,960	4,852	49,632	62	78
直 瀬	9,200	75,440	5,572	62,046	61	82
面 河	2,800	22,960	1,254	12,889	45	56
美 川	2,000	16,400	907	9,280	45	57
御三戸	6,000	49,200	3,148	32,877	52	67
柳 谷	700	5,740	231	2,332	33	41
合 計	50,380	413,116	30,145	321,990	60	78

米販売高年次別推移

(単位 千円)



久万農業協同組合

はいるが歯止めをかけることは、難しい状況である。

(二) タバコ

タバコの耕作は、一時期、収益が安定しており、生産者にとっては、優良作物の一つであった。

以前は、収穫期が九月までかかる品種であったため、台風の影響を受け、満度に取り込むことが不可能で

あったが、品種の改良により、八月中旬までに収穫期が短縮され、益稈量も増大した。

昭和五〇年代には、美川村においても、四〇名前後の耕作者で、一億円前後の収益をあげていた。

しかし、愛煙家の減少と、禁煙運動の激化に合わせて、作付の減反奨励が行われ、専売公社の民営化と相まって、価格の低迷する中で、離作農家が続出した。

昭和六〇年代に入り、生産者の販売額は、極度に減少し、平成六年の耕作者は、わずか四名のみとなった。

(三) 養 蚕

養蚕は、婦人の労力で行えることで、合併当初、美川村にも二〇〇戸を上まわる養蚕農家があった。

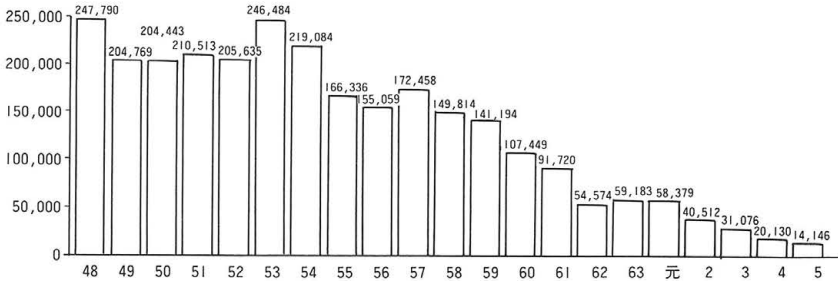
しかし、化繊の出現と、洋装への転化の中で、価格も低迷傾向を続け、合せて高齢化の中で年々減少し、平成五年には、美川村全体で九戸までに減少してしまった。

桑園の多くは植林化され、農地はますます面積をせばめている。

第2編 産業経済

養蚕販売高年次別推移

(単位 千円)



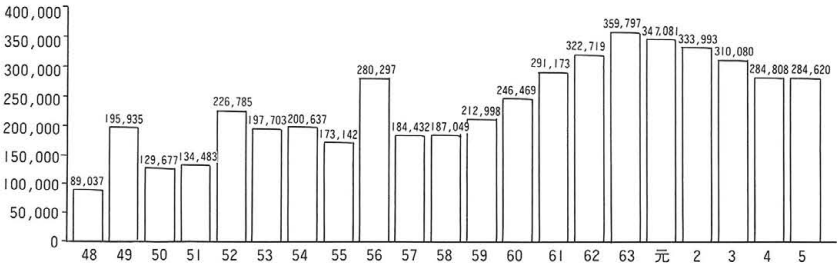
(四) 畜産

畜産事業従事者は、合併当初、美川村にも二〇〇戸余りいて、三二〇頭余りの牛を飼育していたが、飼料等の高騰は、畜産事業に大きなダメージを与えた。

五三年に、素牛不足、素牛高を解消するため、畜産事業団が行う子牛生産奨励事業で、一一頭、県肉用子牛価格安定事業に一九〇頭が加入、県肉用牛経営規模拡大促進事業で、美川・面河・柳谷三

肉畜販売高年次別推移

(単位 千円)



村で、生産素牛の三〇頭を導入し、子牛生産に励むこととなった。

繁殖素牛も、町村の協力を得て、年次的に導入を続けるとともに、農協も、経済連の協力を得て、枝肉競進会、子牛品評会を開催し、農畜産物の輸入枠拡大阻止運動とともに、畜産専門技術員を設置する等、畜産振興対策に取り組んだ。

五〇年代後半から、円高傾向の中で、飼料価格が下がり、枝肉単価がもち

美川村キャベツ販売高推移表

年 度	取 量	金 額
55	32 ^t	1,834 千円
56	39	1,538
57	91	7,492
58	75	5,573
59	90	5,624
60	92	9,667
61	71	3,398
62	92	6,748
63	112	11,974
元	125	9,460
2	102	10,780
3	89	8,350
4	53	3,461
5	38	7,223

直したため、順次実績が上昇した。子牛単価も上ったため、六二年には、久万農協でも、販売額が三億円を上回った。畜産事業も、高齢化の影響を含めて、自由化による価格低迷により、飼育農家、頭数ともに、減少傾向にある。

(五) キャベツ

キャベツは、美川村においては、五五年ごろから本格的に出荷され始めた。特に、二籠地区のキャベツは、色が良いということ、高知市場で好評を博し、夏秋キャベツとして、出荷販売を続けているが、生産者の高齢化

と、重量野菜であるため、廃作者が続き、平成五年度では八名となっている。

生産拠点の二籠には、平成四年度事業で、野菜集荷場が建設され、今後の取組みに期待がかかっている。

キャベツは、久万高原キャベツとして、昭和五七年二月に国の指定産地を受け、久万農協管内で増産されて来たが、平成元年から、減少傾向にある。

美川村においては、台風被害の防止のため、村単事業でベタ掛け資材として、防風網補助を六年度より行うこととなり、今後、効果が大きく期待されている。

(六) トマト

⑧トマトは、関西市場では、現在確固たる地位を築いているが、美川村においても、合併を期に、四八年当初二名で一〇アール、五〇年には一四名、価格等のこともあり、五三年には四名に減少。五九年からは三名の耕作者で現在に至っている。

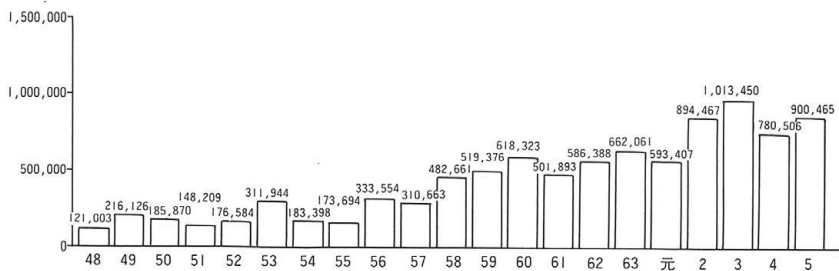
久万農協では、稲作転換作目として注目、四五年から本格的に栽培に取り組むことを計画し、一二ヘクタールを目標に推進を行い、トマト部会が結成された。

第2編 産業経済

トマト支所別販売実績 (単位 トン、千円)

支 所	計 画		実 績		計画対比 (%)	
	数 量	販 売 高	数 量	販 売 高	数 量	販 売 高
本 所	16	5,000	25	7,773	156	155
明 神	851	255,300	694	301,220	82	118
久 万	288	86,400	186	80,948	65	94
父二峰	342	102,630	273	121,158	80	118
畑野川	231	69,300	193	84,642	84	122
直 瀬	672	201,630	582	247,590	87	123
面 河	137	41,040	104	43,162	76	105
美 川	27	8,100	23	10,054	85	124
御三戸	14	4,050	9	3,917	64	97
合 計	2,578	773,450	2,089	900,465	81	116
				前年対比%	82	115

トマト販売高年次別推移 (単位 千円)



早くも、四八年には、阪神市場で一位のランク付け確保が出来たが、五一年からは異常気象により、連作障害や軟腐病で、販売金額の減少をたどった。

五二年からは、雨除けハウス栽培の導入により、収穫量の安定が確立したことで、五三年六月に国の指定産地となった。

五六年には、トマトの重量選果施設を建設し、栽培面積の拡大、出荷の規格統一化が図られたた

め、年々売上げの伸長がみられ、平成三年度には、売上高一〇億円を突破し、四年二月に一〇億円突破記念大会を開催した。

その後も、四か町村の助成を得ながら、施設の充実をはかり、生産が続けられている。

(七) ピーマン

農業者の高齢化、婦女子化により、だんだん重量野菜から、軽量野菜への転化の中、美川村では、タバコ耕作者の転作作目としてピーマンが取り入れられた。

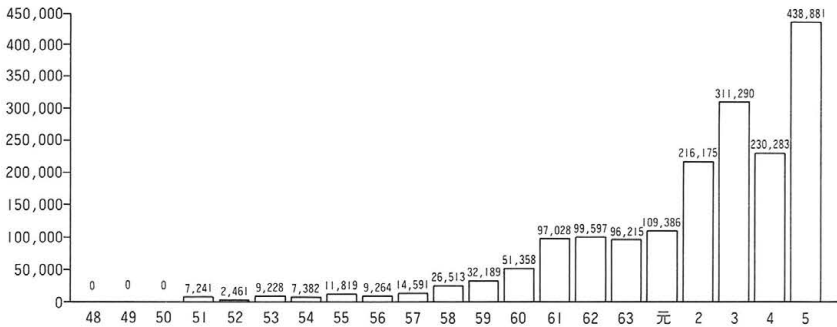
わずかずつ出荷されていたピーマンは、昭和五八年より、作付面積が拡大され、市場からも、久万地方のピーマンは、緑の濃さと日持ちの良さが受けて好評を得、価格的にも安定販売が出来ることから、徐々に増反していった。

六一年には、自動選果機が導入され、従来の手詰め作業では限度があった栽培面積は倍増した。

また、県の事業により、雨除施設の導入、平成三年には、四か町村の助成を得て、重量選果機の増設等により、高価格にささえられて、三億円の売上げを達成し

ピーマン販売高年次別推移

(単位 千円)



た。平成四年二月には、三億円突破記念大会が実施された。

美川村においても、平成五年度に、果菜類の異常高値にささえられ、待望していた一億円を六〇〇〇万円も上回る売上げを達成し、一億円突破記念大会を行った。

平成五年度から、美川村単独の施設農業補助事業により、雨除け施設が普及し、新規栽培者も増え、美

美川村ピーマン販売高年次別推移

年度	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	元年	2年	3年	4年	5年
収量	8.5 ^t	16.6	14	16	50	71	84	113	145	200	296	232
金額	2,395 ^{千円}	3,852	2,457	2,950	11,114	16,330	23,992	35,487	57,867	79,968	71,897	160,801

川の主体農産物となって来た。平成二年八月二七日、久万高原ピーマンは、国の指定産地となった。

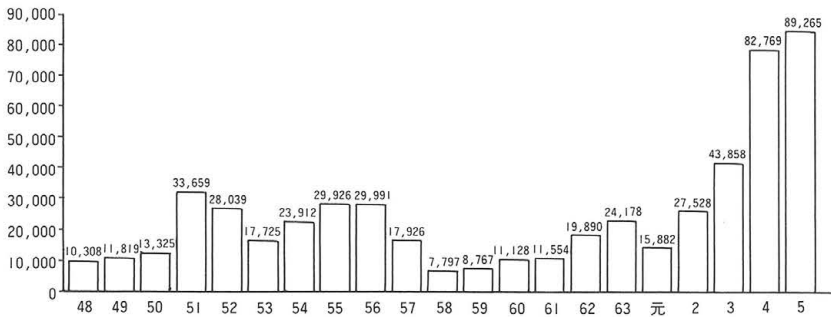
(ハ) 菌 茸

生しいたげの販売は、従来、原木しいたげが潜在的に出荷販売されて来たが、近年菌床栽培が注目を受け、また、原木ではむずかしかった発生操作を容易に行えることから、美川村有枝地区で、原木しいたげを出荷していた人たちが、平成三年度より、独自にブロッコ製造から行えるよう施設を整え、現在は六名で、村単の施設補助事業等の導入により、栽培ハウスを設置し、栽培に取り組んでいる。

久万農協も、父二峰に、ブロッ

菌茸類販売高年次別推移

(単位 千円)



ク製造施設を整備した。平成四年度には、販売高も、八二〇万円と倍増し、一億円を目標に、生産拡大を図っている。

(九) その他

花卉 近年、花栽培が注目をあびて来たが、数年前から、美川村では二名の栽培者で、平成四年から、トルコギキョウの栽培に取り組み、五年度から、

村単施設補助事業の助成を受けて、施設を導入し、更に一名が加わり、六年度から、新規に一名、現在三名で栽培が行われており、高冷地において適作のトルコギキョウを、産地化する動きが始まった。

みつまた みつまたは、古くから、美川村の特産として栽培されて来たが、植林化と高齢化で耕作者が減り、現在では、美川村での印刷局納入量は、年間四〇〇〇キロ程度となっている。

価格は、三七・五キロ当り七五、〇〇〇円の取扱価格となっているが、市販の値動きは、高い時で八〇、〇〇〇円を超えていたともいわれるが、繊維業界の不況から、現在の民間需要は落ち込んでいると思われる。

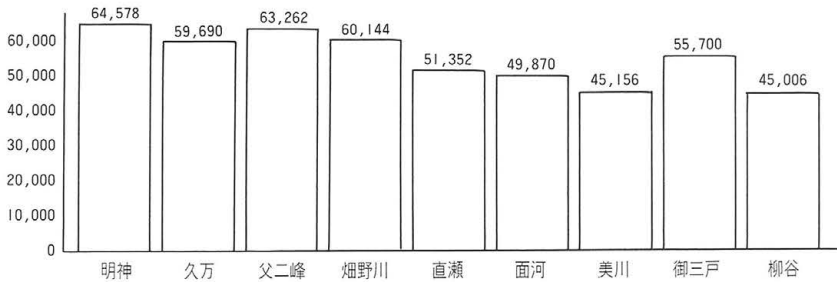
五 今後の動向

久万農業協同組合も、平成四年七月で、二〇周年を迎え、県や関係四か町村の支援と協力で施設を整え、経済活動を続けている。

農産物の自由化要求、金融の自由化等により、全国的に農協経営も、資本・経営体質強化が求められている。

支所別出資金の状況

(単位 千円)

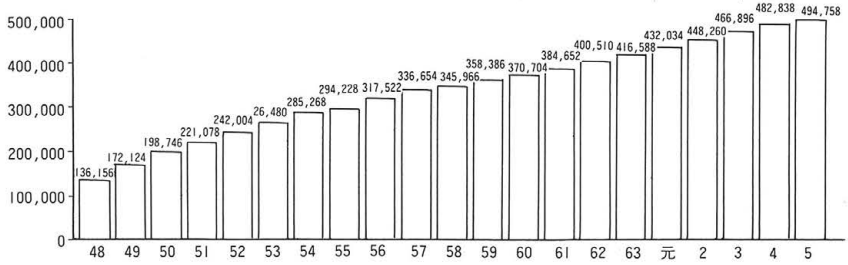


更に、広域での合併が進んでおり、久万農協も、近い将来、近隣農協との合併が行われることが予想される。

今後の農業・農協をとりまく諸情勢は、政治・経済・国際化の進展するなかで、変化への対応をせまられることとなるが、地域農業の振興は、今後ますます、行政と農協が連携をとりあって、基盤の確立を図っていく必要がある。

第2編 産業経済

出資金の年次別推移 (単位 千円)



第三章 林 業

第一節 林業の概要

一 山林所有の概況

本村の森林面積及び蓄積は、別表に示すとおりであり、人工林について一〇年前と比較すると、公有林では、村有林（区荒予備組合・学有林等を含む）が、面積で一八四ヘクタール、蓄積で六四、〇〇〇立方メートルの増加をしている。私有林では、個人所有が面積は四一九ヘクタールも減っているが、蓄積は成長により五六三、〇〇〇立方メートル増加している。また、最近の動きとして、バブルの影響からか、会社所有林が二六六ヘクタールも増加しているのが目を引く。

また、民有林を年齢別に見ると、公有林では、五〜六年齢が四三ヘクタール減少し、七〜八年齢が一〜一ヘクタール増加している。私有林でも同様に一〜六年齢はそ

保有形態別森林面積及び蓄積

（単位 面積 ha、蓄積 千m³）

区分 保有形態別	立 木 地						無 立 木 地		竹 林		合 計		人 工 林 率
	人 工 林		天 然 林		計		伐 跡 地	未 立 木 地	面 積	面 積	面 積	林 率	
	面 積	蓄 積	面 積	蓄 積	面 積	蓄 積	面 積	面 積	面 積	面 積			
国 有 林	948	128	27	3	975	131	—	42	0	0	1,017	93%	
公 有 林	県 有 林	263	59	31	3	294	62	—	11	0	6	311	84
	村 有 林	378	99	33	4	411	103	—	22	0	0	433	87
	財産区有林	0	0	—	—	0	0	—	—	35	—	35	—
	小 計	641	158	64	7	705	165	—	33	35	6	779	82
私 有 林	個 人 社 会 社 所 有 林	8,178	1,794	967	89	9,145	1,883	1	221	0	0	9,367	87
	寺 社 所 有 林	640	156	71	7	711	162	—	44	0	0	755	85
	そ の 他	86	22	7	0	93	22	—	—	—	—	93	92
	小 計	8,904	1,972	1,045	96	9,948	2,069	1	265	0	0	10,214	87
合 計	10,493	2,258	1,136	106	11,629	2,364	1	340	35	6	12,010	87	

営林署及び地域森林計画の資料による。

原数を四捨五入したため、集計値が縦横一致しないものもある。

民有林の齡級別面積

(単位 ha)

全級別		1～2 齡級	3～4 齡級	5～6 齡級	7～8 齡級	9～10 齡級	11～12 齡級	13～14 齡級	15齡級 以上	合計	備考
保有形態別	公有林	8	19	67	149	44	20	22	47	378	人工林のうち スギ 79.6%
	(県有林を除く) 天然林	—	—	2	6	15	3	3	6	33	
	計	8	19	69	155	59	23	25	53	411	
私有林	人工林	101	435	2,248	4,235	1,326	368	126	64	8,903	ヒノキ 20.1%
	天然林	9	55	126	412	217	160	47	19	1,045	
	計	110	490	2,374	4,647	1,543	528	173	83	9,948	
合計	人工林	109	454	2,315	4,384	1,370	388	148	111	9,279	
	天然林	9	55	128	418	232	163	50	25	1,080	
	計	118	509	2,443	4,802	1,602	551	198	136	10,359	

地域森林計画の資料による。

れぞれに大きく減少しているが、七〇齡級が大幅に増加している。このことは、近年、皆伐がほとんどなくなったために若齡級が減り、本村の森林の高齡級化が進み、成熟期を迎えようとしていることを示している。

二 流域林業活性化事業

林野庁は、来るべき「国産材時代」に対応するため、「流域管理システム」といって、川の流域を単位に、民有林と国有林が、川上（生産者）と川下（製材業者）が連携して、効率的な森林整備や生産コストの低減、木材の安定供給体制の整備などを行う制度を打ち出した。

平成三年度から、全国一五八流域がこのシステムを導入推進しており、平成五年度一三流域、六年度には九流域が同システムのモデル（先導的）流域に指定され、システム確立のためのあらゆる推進がなされている。

上浮穴郡五か町村も、いち早くこのシステムの導入を図り、「中予山岳流域」として地域指定を受け、推進を図っている。

久万町の河野修町長が、流域林業活性化センターの会

長に就任するとともに、郡内の行政、森林組合、木材業者など関係者が一堂に会し、愛媛大学農学部泉英二教授や県の積極的な指導のもと、四年度には、次の六分科会でたびたび精力的に会合を開き、現状分析から当面する課題の検討を重ねた。

- (1) 森林施業の共同化・木材安定供給体制整備問題
 - (2) 林業技術者・労働者の養成確保及び基金設立問題
 - (3) 林業機械化・基盤整備問題
 - (4) 大規模木材流通・加工体制整備問題
 - (5) 森林組合再編問題
 - (6) 民有林・国有林協力的体制整備問題
- 五年度には、以上の六部会を整理統合して、次の三つのプロジェクト・チームを結成し、柳谷・美川・面河村の村長がそれぞれの部会長を務め、町村議長を交えての研究を重ねた。

- (1) 森林施業共同化・機械化プロジェクト・チーム
 - (2) 第三セクター設立プロジェクト・チーム
 - (3) 大規模流通加工基地プロジェクト・チーム
- また、六年一月から、正式に流域林業活性化センターの事務局を設置し、前小田町森林組合長の上野三四男が

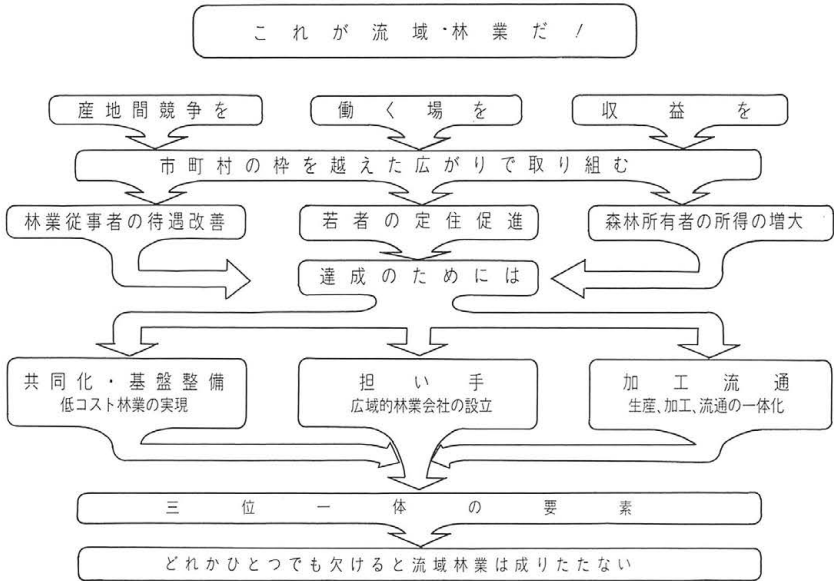
就任するとともに、四月から二名の専従職員を配置し、より精力的に条件整備への諸準備を行うこととなった。

六年度においても、前述の三プロジェクト・チームを統括する総合企画班会議を設置するとともに、各プロジェクト・チームに一〇三の調査・企画・研究班を設置して、より具体的な研究を進める一方、森林施業共同化については、五か町村が、五年度において、各一か所選定したモデル団地について、地元説明会や現地調査を行うとともに、森林施業協定の締結に向けて準備を行っている。

また、大規模流通加工基地や第三セクターの林業担い手会社の本社予定地として、久万町内で用地買収を先行的に行っている。

一方、流域林業活性化センターが事業主体となって、産地形成型林業構造改善事業の指定を受け、ソフト事業を進めるとともに、六年度中に約三〇億円の計画を樹立し、久万・小田・面河の三町村が六年度に、美川・柳谷村が七年度に、それぞれ総合型林業構造改善事業を計画樹立を予定し、具体的な動きを始めている。

しかし、五か町村の森林組合がそれぞれ操業している



製材工場や民間の同業者、更には、林家の理解を得ることとはいうに及ばず、一〇〇億円とも一五〇億円ともいわれている事業費や担い手会社の経営費など、財源確保の見通しが立つまでは、理事者や議会もゴーサインを出すことはできないだろう。

ともかく、ここ五〜一〇年間で上浮穴郡及び美川村の林業にとって、最大の正念場になることは、ほぼ間違いないなろう。

第二節 森林組合

一 組合の歩み

林材業界は、暗く長い不況から脱出し得ず、その現状はますます厳しく、他産業との格差は開く一方である。

本村においても、経済高度成長の中で、森林の成熟に必死で守り育てて来た林材価格が、生産費の高騰等で停滞し、その状態は、バブル崩壊後も変わらない。

昭和六〇年以降も、雪や台風、水の被害等、多大な損害を受けているが、林業は再生可能な貴重な資源であ

り、持続的発展が今後の課題でもある。

このような情勢の中で、村当局の林業に対する熱意や援助のもと、公共・非公共を問わず、林道の開設、村単による林内作業路の開設費補助、組合事業主体の県単林道、林内作業路の整備等、林家にとっては多大な恩恵に浴している。

また、原木生産から加工流通販売への一体制の観点から、村より多大な補助を得、林家所得の向上と村内雇用にスローガンに、加工場の設置が完成し、現在五年目を迎え、必死で利益の向上に努めている。

一方、組合員の所有山林について、優良材・大径材生産を図るため、国の諸制度を利用し、除間伐・抜切・択伐・造林保育等を推進し、林業振興に努力している。

しかしながら、木材価格は、昭和四五年の立方メートル

美川村森林組合役員一覧表

組合長 理事	職名	昭和癸年二月六日	昭和六年二月七日	職名	昭和六年二月六日	平成元年二月七日	職名	平成元年二月六日	平成四年三月七日	職名	平成四年三月六日	副組合長 理事	氏名	氏名	氏名	氏名
	氏名	村上清章			村上清章			村上清章			村上清章		村上清章	村上清章	村上清章	現在に至る

ル当たり一万九八〇〇円から、平成四年は、二万三二〇〇円となりながら、実質では三三パーセントの下落となっている。

このことは、過疎化に伴う林業従事者の減少と諸経費の高騰、外材輸入の増大等、国際競争力の弱さも指摘されている。

外材輸入がいつまで続くか、地球環境の問題、熱帯雨林の保護等、規制の強化があり、あらゆる視点から国産材の将来を思う時、木の文化・緑と水の供給等、公益的機能面から、山村の維持発展は重要である。森林組合は、森林を守り育て、活力ある村づくりを目指し、原木の安定供給と森林整備に、関係者の協力を得ながら、使命達成に努力を傾注しているところである。

第三節 組合の事業

一 造 林

美川村の造林は、昭和五九年以降一〇年間に、年平均七万本強の植林が行われたのみで、以前と比較して植林面積は激減した。このことは、ほとんど皆伐がなく、過疎化や高齢化、そして植林地の減少によると見られる。

美川村の森林は、現在人工林九五四五ヘクタールで、林齢構成も六齢級以上が七四一一ヘクタールとなり、しだいに森林の手入れがなされ成熟林へと変貌して来た。五九年より、下刈り事業にも補助金が交付されることになったが、美川村も人口減は食い止められず、森林所有者の不在村化、若年労働力の流失、林業従事者の高齢化、円高による外材の輸入等、木材価格の低下は、育林意欲の減退をもたらした。

森林生産構造整備事業・森林整備促進特別緊急対策事業が導入され、昭和六三年までの集団間伐から自由間伐となり、保育除間伐が主体をなしてきたが、森林の荒廢

林も多く、森林の造成維持を図る上で憂慮すべき課題もある。

県の総合林政計画で、生活を潤す緑の育成（緑づくり）・活力ある森林の造成（山づくり）・地域を活かす担い手の養成（人づくり）・豊かな山村生活の確保（村づくり）・地域産材の安定供給（銚柄づくり）が施策の柱として打ち出された。

山行苗の推移

年 度	苗 本 数	補 助 金
昭和	33 千本	1,441 千円
60	66	2,788
61	78	3,436
62	53	2,253
63	75	3,850
平成	77	3,733
元	104	4,022
2	63	3,703
3	92	5,329
4	65	3,962
5		

この理念は、すべての山村に当てはまるもので、これからは、村民の理解と協力を得ながら、主体性を生かし、組合も村行政と一体となって、地域資源の維持造成と保育造林に配慮していききたい。

年度別造林事業

(単位 ha、円)

種別 年度	植 栽	下 刈	除 伐	間 伐	枝 打		間 伐 実 施 事 業		
					面 積	補助金額	面 積	県補助金	村補助金
昭和59	11.14	78.13	27.28	47.84			130	7,137,000	2,250,404
60	11.72	76.46	41.22				172	9,442,800	2,548,104
61	10.50	67.18	55.77				250	13,725,000	2,379,006
62	5.66	63.64	54.75				300	16,470,000	3,961,850
63	13.80	62.36	12.08				300	16,470,000	3,549,500
平成元	11.03	92.40	81.87	12.52	2.28	149,509	300	16,950,000	3,652,213
2	20.03	79.30	84.17	26.68	1.93	126,002	220	12,430,000	2,856,000
3	8.42	88.53	22.14	9.73	2.89	203,070	100	5,650,000	771,000
4	16.05	102.54	54.81	97.65	21.71	1,625,051	50	2,825,000	249,100
5	9.30	106.05	10.14	268.33	3.01 34.24	506,787 2,759,039	30	2,163,000	351,500
合 計	117.65	816.59	444.23	462.75					

二 木 材

森林資源の維持造成は、近い将来到来するであろう国産材時代を、現実のものとするために必要であると同時に、外材に対抗できる価格形成を持つことである。そのためには、林業基盤整備の充実が必要で、森林生産構造整備・林業生産基盤整備の事業推進が、低コスト林業の確立を促すことになる。

組合にとつて、共販・林産事業は、最も重要な部門である。この一〇年間の取扱量は、年平均約一六〇〇〇立方メートルの販売量である。このことは、組合員の協力はもとより、村当局の熱意による林道・作業道の開設、あるいは、組合事業による県単・村単の林道、林内作業路の開設、搬出機械の導入による搬出費のコスト引き下げと、除間伐に対する各種補助金の適用等が相互に関連し、しだいに林家の意欲を促したものと思われる。

また、この一〇年間の成長量も大きなウェイトを示しているが、これは、円高による外材の値上げに伴い、国産材の価格上昇も大きな魅力となつていくことが大きく

影響している。

山林を造成することは、汗と涙で育て上げたものであり、その間伐材を低コストで搬出すると同時に、販売面において価格の上昇が得られる方法を取ることが最大の使命である。現今の価格形成は、市場の入札以外に方法がないことを考え、市場施設の充実を図り、原木の積・選別等を協議しながら、組合員のニーズに对应しているところである。

販売の適正価格は、林家の原木生産と安定供給に連動しており、そのことが美川村林業の振興につながり、美川材の声価を高め、ブランド化の推進にもなることを思えば、販売面について、より一層の努力をし、今以上の販売量となることを願うものである。

間伐緊急対策事業に引き続き、平成四年度より森林整備促進特別対策事業の指定を受け、植林・下刈り・除間伐一四二三ヘクタールを計画し、実施中である。

三 販売事業

昭和五九年以後一〇年間の販売実績は、次のとおりで

販売事業の推移

(単位 m³)

ある。

しいたけ生産は、この一〇年間大きな変化を来たし、

四 しいたけ・木炭

年 度	取 扱 実 績	販 売	林 産	国有林請負外
昭和59	12,236	6,373	1,663	4,200
60	13,083	6,843	2,965	3,275
61	15,521	8,205	5,096	2,220
62	17,978	10,499	4,547	2,932
63	18,168	11,753	3,399	3,016
平成元	19,793	15,715	2,206	1,872
2	17,941	14,856	1,471	1,614
3	15,682	12,484	2,759	439
4	16,430	12,774	2,753	903
5	17,561	11,128	4,997	1,436
合 計	164,393	110,630	31,856	21,907

乾しいたけ

年を追うごとに、生産量は減少の一途をたどっている。複合経営の一環として、増産に力を入れ、大きな収入源であったが、天候の変化・後継者不足・老齢化に追い打ちをかけるような価格の低迷で、生産費を割り込むことがたびたびあり、その上、円高による海外輸出が進まず、特に、中国産の安いしいたけが順次増加輸入され、

年 度	椎 茸 生 産 量	組 合 取 扱 量	売 上 金 額
	kg	kg	千円
昭和59	12,140	10,118	40,830
60	5,980	4,988	18,675
61	9,540	7,951	23,049
62	8,030	6,986	25,001
63	5,450	4,744	14,505
平成元	7,840	6,824	26,921
2	5,020	4,372	13,672
3	4,140	3,605	12,884
4	2,610	2,273	8,787
5	1,790	1,564	4,112

価格が伸び悩んだことが大きな原因で、そのため、生産者数も約半数以下の減少を見るに至った。

しかしながら、しいたけ原木については、村の配慮により、クヌギ苗植林については特別な補助があり、現在も続行中である。間もなく、しいたけの原木として、順次利用できる状況となっているが、生産増は暗中模索で決め手が無い情勢である。今後は、出来る限りの方法を考え、尽力していきたい。

木炭については、経済的ゆとりが出来ると同時に、需要が増加し、木炭の良さも見直されて、この一〇間しだいに増産されるようになった。平成五年度には、当村においても、四〇〇〇キログラム以上の生産が行われるようになり、この傾向は当分続くものと思われる。

第2編 産業経済

国産材加工施設事業実績

1 事業費 ¥250,904,000円

2 事業内訳

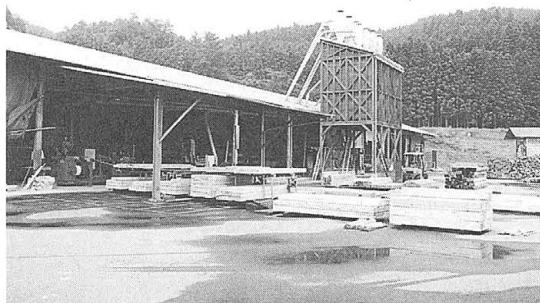
区 分	面 積	金 額
敷地造成工事	9,687 ㎡	37,790,000 円
貯木造場	6,914	22,026,000
作業棟・製品倉庫	1,508	77,044,000
リングバーカー建物	72.59	6,040,000
製材用機械施設	一 式	97,830,000
トラック・リフト・その他	3 台	10,174,000
合 計		250,904,000

事業費の内訳 負担区分	国庫補助金	124,242千円
	村補助金	101,572千円
	森林組合負担金	25,090千円

3 加工事業

(単位 ㎡、千円)

年 度	製 品	チ ッ プ	オ ガ	計	金 額
平成 2	2,176	795	523	3,456	114,738
3	2,440	775	644	3,859	108,558
4	2,723	766	721	4,210	114,627
5	4,040	1,107	987	6,134	176,824
計	11,379	3,443	2,875	17,659	514,747



国産材加工施設

昭和六三年度、山村林業構造改善事業の指定を受け、

昭和三十六年度・平成元年度で、国産材加工施設を設置し、木材の付加価値を高め、併せて、林家所得の増大と雇用の確保を図り、地域林業の活性化を図るための事業を実施した。

五 加工事業

六 林道及び作業路

県単独林道及び県・村単独作業路を開設し、林産物の搬出並びに造林・保育事業に寄与した。

林道及び作業路明細

(単位 m、千円)

県 単 独 林 道 整 備 事 業					県 ・ 村 単 作 業 路			内 村 単 作 業 路	
路 線 名	開 設 年 度	完 了 継 続	開 設 延 長	事 業 費	年 度	延 長	事 業 費	延 長	補 助 金 額
横 滝 線	59～61	完 了	508.0	26,000	59	18,722	4,000	18,722	2,000
水 口 線	59	〃	221.0	8,000	60	50,669	10,100	16,132	2,000
ウルシ谷線	59～3	〃	1,942.7	61,000	61	30,820	7,200	13,762	2,000
三 階 線	59～62	〃	709.0	30,000	62	33,449	6,500	14,185	1,500
石見ヶ谷線	61～4	〃	1,525.6	51,000	63	41,353	9,500	20,007	2,500
懇 津 山 線	62～5	継 続	1,531.9	45,000	元	75,577	17,000	34,606	4,000
イノタニ線	63～5	〃	494.0	21,000	2	49,334	12,000	14,193	2,000
ササミネ線	63～5	完 了	3,045.1	52,600	3	49,014	12,000	14,590	2,000
タキヤマ線	4～5	継 続	179.4	14,000	4	54,785	15,000	20,416	2,500
池ヶ成線	5～	〃	114.0	8,000	5	54,567	15,000	18,902	2,500
合 計			10,270.7	316,600	計	458,290	108,300		

七 金融事業

制度資金の貸付がなくなって年次償還だけとなり、一部農林中金資金の貸付があった。

資金貸付償還明細

(単位 千円)

年 度	期 首 在 高	当 期 貸 付 高	当 期 償 還 高	期 末 残 高
昭和 59	584,241	11,000	46,922	548,519
60	548,519	1,500	32,709	517,310
61	517,310	3,280	54,194	466,396
62	466,396	0	82,941	383,455
63	383,455	0	58,304	325,151
平成 元	325,151	0	54,266	270,885
2	270,885	0	51,003	219,882
3	219,882	5,500	35,595	189,787
4	189,787	0	40,471	149,316
5	149,316	14,000	44,786	118,530

第四節 村と共同の事業

一 林 道

林道開設は、地域内の集落、森林生産現場から市場を結ぶことによって、林業労働力を有効に活用しつつ、機動性、生産性の向上など大きな役割を果たしている。

この事業は、森林組合の重要な事業であり、幹線的な林道は、前述のとおり、県と村がそれぞれ事業主体となって開設し、支線的な林道開設を森林組合が主に開設している。

このほか、特に木材生産のコストを引き下げるために力を注いでいるのが、林内作業道の開設である（通称ジャガー道）。

この事業は、昭和五八年に村の補助を得て間伐材搬出用に開設が始まったもので、昭和六〇年には県の補助制度もでき、村内全域において本格的に開設が進み、平成五年度末には、開設延長四六七、九二九メートルに及んでいる。

運搬車も林家戸数六九六戸のうち二七〇台を保有するまでになり、今後も作業道の開設は必要であり、開設延長も伸びると思われる。なお、今後の問題点として、管理面で水切りや補修等が完全に行われないと、災害の原因となることが懸念される。

林道、作業道の実績は別表のとおりである。

二 治山治水事業

特に、平成四年、平成五年は、梅雨前線豪雨、台風の上陸により災害の多い年であった。

本事業は森林を保護し、更に、水源のかん養と国土の保全を図るための事業で、毎年県が事業主体となり実施している。この事業には、予防治山事業と復旧治山事業とがある。

この事業は地元負担の必要がなく、国費と県費とで実施されている。また、別に県単独治山事業があつて、県費補助金五〇パーセントで、村が事業主体となって実施する事業もあり、これらの事業内訳は別表のとおりである。

三 林地地すべり防止対策事業

この林地地すべり防止対策事業については、国は林野庁、県は松山地方局久万出張所林業課が窓口となり、町村長の申請に基づき、地すべり地域の指定を行い、専門的調査のもと事業が実施されるもので、事業費について

は全額、国、県費で賄われている。

五九年以降に、新しく指定を致して工事が実施されている地区は、平成四年四月に置俵地区、平成五年一二月にタキヤマ地区が指定地になった。

美川村での地すべり指定地と、昭和五九年から実施された防止対策事業は別表のとおりである。

森林組合開設林道

実施年度	工 種	地区名	事業主体	事業量	総事業費	事業費内訳			請負業者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
昭和59	県単林道	横 滝	森林組合	L = 211.5 W = 3	10,000,000	5,000,000	4,300,000	700,000	高岡建設 高岡建設
〃	〃	ウルシ谷	〃	L = 187 W = 3	8,000,000	4,000,000	3,440,000	560,000	中岡組 中岡組
〃	〃	水 口	〃	L = 220.7 W = 3	8,000,000	4,000,000	3,440,000	560,000	アマノ建設 天野輝雄
〃	〃	三 階	〃	L = 140 W = 3	8,000,000	4,000,000	3,440,000	560,000	伊豫建設 平柳幸次郎
60	〃	横 滝	〃	L = 134.7 W = 3	8,000,000	4,000,000	3,440,000	560,000	高岡建設 高岡建設
〃	〃	ウルシ谷	〃	L = 217.3 W = 3	8,000,000	4,000,000	3,440,000	560,000	中岡組 中岡組

〃	〃	三階	〃	$L = 180.4$ $W = 3$	10,000,000	5,000,000	4,300,000	700,000	伊平 豫柳 建設 幸次郎
61	〃	横滝	〃	$L = 110.3$ $W = 3$	8,000,000	4,000,000	3,440,000	560,000	高高 岡岡 建設 稔 稔
〃	〃	ウルシ谷	〃	$L = 229.3$ $W = 3$	8,000,000	4,000,000	3,440,000	560,000	中中 岡岡 組 隆 隆
〃	〃	三階	〃	$L = 199$ $W = 3$	8,000,000	4,000,000	3,440,000	560,000	伊平 豫柳 建設 幸次郎
〃	〃	石見ヶ谷	〃	$L = 360$ $W = 3$	7,000,000	3,500,000	3,010,000	490,000	西西 岡岡 建設 広 明
62	〃	三階	〃	$L = 190.7$ $W = 3$	12,000,000	6,000,000	5,400,000	600,000	伊平 豫柳 建設 幸次郎
〃	〃	ウルシ谷	〃	$L = 234$ $W = 3$	8,000,000	4,000,000	3,600,000	400,000	中中 岡岡 組 隆 隆
〃	〃	石見ヶ谷	〃	$L = 323.6$ $W = 3$	7,000,000	3,500,000	3,150,000	350,000	アマノ 建輝 建設 天 野 雄
〃	〃	惣津山	〃	$L = 389.3$ $W = 3$	7,000,000	3,500,000	3,150,000	350,000	高高 山山 建設 山 猛
63	〃	ウルシ谷	〃	$L = 281$ $W = 3$	7,000,000	3,500,000	3,150,000	350,000	高高 山山 建設 山 猛
〃	〃	石見ヶ谷	〃	$L = 331.6$ $W = 3$	6,000,000	3,000,000	2,700,000	300,000	高高 山山 建設 山 猛
〃	〃	惣津山	〃	$L = 376$ $W = 3$	6,000,000	3,000,000	2,700,000	300,000	高高 山山 建設 山 猛
〃	〃	イノノタニ	〃	$L = 160$ $W = 3$	6,000,000	3,000,000	2,700,000	300,000	中中 岡岡 組 隆 隆

平成 元	〃	ウルシ谷	〃	L = W =	243.7 3	6,000,000	3,000,000	2,700,000	300,000	高 山 建 設 高 山 山 設 猛
〃	〃	石見ヶ谷	〃	L = W =	212.2 3	6,000,000	3,000,000	2,700,000	300,000	同 上
〃	〃	惣津山	〃	L = W =	232 3	6,000,000	3,000,000	2,700,000	300,000	同 上
〃	〃	イノノタニ	〃	L = W =	153 3	6,000,000	3,000,000	2,700,000	300,000	中 岡 組 中 岡 隆
2	〃	ウルシ谷	〃	L = W =	276.7 3	8,000,000	4,000,000	3,680,000	320,000	高 山 建 設 高 山 山 設 猛
〃	〃	石見ヶ谷	〃	L = W =	133.2 3	7,000,000	3,500,000	3,220,000	280,000	同 上
〃	〃	惣津山	〃	L = W =	172.7 3	5,000,000	2,500,000	2,300,000	200,000	高 山 建 設 高 山 山 設 猛
〃	〃	イノノタニ	〃	L = W =	172.7 3	3,000,000	1,500,000	1,380,000	120,000	中 岡 組 中 岡 隆
3	〃	ウルシ谷	〃	L = W =	274 3	8,000,000	4,000,000	3,680,000	320,000	高 山 建 設 高 山 山 設 猛
〃	〃	石見ヶ谷	〃	L = W =	60 3	10,000,000	5,000,000	4,600,000	400,000	同 上
〃	〃	惣津山	〃	L = W =	191.7 3	5,000,000	2,500,000	2,300,000	200,000	同 上
4	〃	タキヤマ	〃	L = W =	155.9 3	6,000,000	3,000,000	2,760,000	240,000	中 岡 組 中 岡 隆
〃	〃	石見ヶ谷	〃	L = W =	104.4 3	8,000,000	4,000,000	3,680,000	320,000	高 山 建 設 高 山 山 設 猛

〃	〃	惣津山	〃	L = 124.8 W = 3	8,000,000	4,000,000	3,680,000	320,000	同上
〃	〃 (作業林道)	ササミネ	〃	L = 529.9 W = 3	10,000,000	5,000,000	4,600,000	350,000	露露 口 建 設 口 口 育 夫
5	県単林道	タキヤマ	〃	L = 24.5 W = 3	8,000,000	4,000,000	3,720,000	280,000	露露 口 建 設 口 口 育 夫
〃	〃	惣津山	〃	L = 48.8 W = 3	8,000,000	4,000,000	3,720,000	280,000	高高 山 建 設 高 山 設 猛
〃	〃	池ヶ成	〃	L = 114 W = 3	8,000,000	4,000,000	3,720,000	280,000	伊平 豫 建 設 柳 幸 次 郎
〃	〃	イノノタニ	〃	L = 52.7 W = 3	6,000,000	3,000,000	2,790,000	210,000	中岡 岡 組 中 岡 隆
〃	〃 (作業林道)	ササミネ	〃	L = 455.2 W = 3	12,000,000	6,000,000	5,580,000	420,000	露露 口 建 設 口 口 育 夫

第2編 産業経済

作業道（ジャガー道）開設年次別実績

美川村森林組合

年度	開設延長		合計	開設事業費
	県補助分	村単独分		
昭58	0 ^m	9,639 ^m	9,639 ^m	2,000 ^{千円}
59	0	18,722	18,722	4,000
60	34,537	16,132	50,669	10,100
61	17,058	13,762	30,820	7,200
62	19,264	14,185	33,449	6,500
63	21,346	20,007	41,353	9,500
平成元	40,971	34,606	75,577	16,000
2	35,141	14,193	49,334	12,000
3	34,424	14,590	49,014	12,000
4	34,369	20,416	54,785	15,000
5	35,665	18,902	54,567	15,000
計	272,775	195,154	467,929	109,300

林野庁指定地すべり地区

地区名	指定年月日	指定面積	告示番号	備考
東川 トウナバタ	S37. 9.20	29.7 ^{ha}	農林省告示 1229	
〃 シモムカエ	〃	26.3	〃	
〃 アサヒウラ	〃	22.6	〃	
〃 ウバガタニ	〃	22.0	〃	
中黒名 フチガウエ	〃	21.1	〃	
置俵	〃	93.1	〃	H 4.4.4 追加指定62.6ha
中村 アオツエ	S38.12.21	50.3	1621	
東川 オオカミダキ	〃	25.0	〃	
横山	S48. 3.24	120.0	710	
七鳥 タキヤマ	H 5.12.15	6.96	1503	
計 10 地区		395.06		

県営 治山事業施行状況

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
昭和 59	復旧治山	置 俵	愛媛県	ha 0.2	円 15,512,000	円 15,512,000	円 0	円 0	(株)高山建設 高山組
〃	〃	中 村	〃	0.4	14,172,000	14,172,000	0	0	(株)中岡組 中岡隆
〃	〃	藤 社	〃	0.1	21,107,000	21,107,000	0	0	(株)高山建設 高山組
〃	〃	東川中畑	〃	0.16	8,634,000	8,634,000	0	0	(株)中岡組 中岡隆
〃	重要水源山 地整備治山	よらきれ	〃	0.65	51,481,000	51,481,000	0	0	(株)美川建設 美川元
60	復旧治山	藤 社	〃	0.5	24,670,000	24,670,000	0	0	(株)高山建設 高山組
〃	〃	大川馬ノ谷	〃	0.4	25,490,000	25,490,000	0	0	露 口 建設(株) 露 口 久
〃	〃	上黒岩 遺跡前	〃	0.2	10,190,000	10,190,000	0	0	(株)美川建設 美川元
〃	重要水源山 地整備治山	よらきれ	〃	0.7	24,320,000	24,320,000	0	0	〃 〃 〃 〃
〃	〃	〃 〃	〃	0.7	39,777,000	39,777,000	0	0	アマノ建設(株) 天野輝雄
〃	緊急治山	日野浦 センチ谷	〃	0.4	32,773,000	32,773,000	0	0	伊 豫 建設(株) 平 柳 幸次郎

〃	県単治山	大川	美川村	L = 0.02	15 m	2,100,000	1,400,000	437,500	262,500	西岡建設 西岡広明
61	復旧治山	日野浦 センチ谷	愛媛県		0.4	27,852,000	27,852,000	0	0	伊豫建設(株) 平柳幸次郎
〃	〃	大川馬ノ谷	〃		0.01	15,433,000	15,433,000	0	0	西岡建設 西岡広明
〃	〃	大谷	〃		0.1	22,680,000	22,680,000	0	0	(株)高山建設 高山猛
〃	予防治山	東川西谷	〃		0.1	16,161,000	16,161,000	0	0	(株)中岡組 中岡隆
〃	重要水源山 地整備治山	よらきれ カジキマキ 谷	〃		0.05	24,098,000	24,098,000	0	0	アマノ建設(株) 天野輝雄
〃	〃	〃 うつぎょう 向	〃		0.5	43,445,000	43,445,000	0	0	(株)美川建設 西山広元
62	復旧治山	大谷	〃		0.1	17,523,000	17,523,000	0	0	(株)高山建設 高山猛
〃	〃	藤社	〃		0.5	19,240,000	19,240,000	0	0	伊豫建設(株) 平柳幸次郎
〃	予防治山	東川西谷	〃		0.03	13,435,000	13,435,000	0	0	(株)中岡組 中岡隆
〃	水源地域 緊急整備	よらきれ	〃		0.05	23,172,000	23,172,000	0	0	アマノ建設(株) 天野輝雄
〃	〃	よらきれ	〃		0.05	27,189,000	27,189,000	0	0	(株)美川建設 西山公彦

63	復旧治山	仕出	〃	床固工 水路工	41.8m ³ 58m	10,123,000	10,123,000	0	0	(有)中岡組隆
〃	水源地域 緊急整備	よらきれ	〃	谷止工	372m ³	16,176,000	16,176,000	0	0	(株)美川建設 西山公設彦
〃	〃	〃	〃	谷止工	1,066m ³	34,377,000	34,377,000	0	0	アマノ建設(株) 天野輝雄
〃	〃	水押	〃	谷止工 〃	256m ³ 21t	23,472,000	23,472,000	0	0	(有)中岡組隆
〃	〃	〃	〃	谷止工	263m ³	11,765,000	11,765,000	0	0	高岡建設(有) 高岡稔
平成 元	復旧治山	よらきれ	〃	谷止工	453m ³	16,727,000	16,727,000	0	0	アマノ建設(株) 天野輝雄
〃	緊急〃	横山	〃	法枠工	940m ²	26,671,000	26,671,000	0	0	高岡建設(有) 高岡稔
〃	〃	〃	〃	杭打工	11本 200m	46,041,000	46,041,000	0	0	国土防犯(株) 尾崎克幸
〃	水源地域 緊急整備	水押	〃	谷止工	562m ³	24,823,000	24,823,000	0	0	(有)中岡組隆
〃	〃	〃	〃	谷止工	187m ³	8,137,000	8,137,000	0	0	高岡建設(有) 高岡稔
〃	〃	〃	〃	作業道L = W =	848m 3m	30,282,000	30,282,000	0	0	高岡建設(有) 高岡稔
2	水源地域 緊急整備	水押	〃	谷止工	313m ³	13,493,000	13,493,000	0	0	(有)中岡組隆
〃	〃	〃	〃	作業道L = W =	592m 3m	36,493,000	36,493,000	0	0	大久保建設(株) 大久保正一

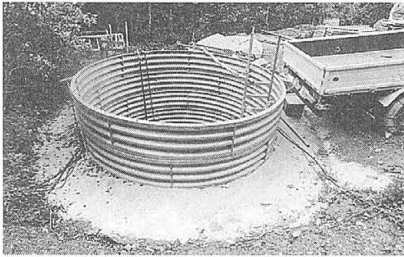
〃	緊急治山	大川下中	〃	谷止工 床固工	127㎡ 112㎡	30,281,000	30,281,000	0	0	(倫)高山建設 高山建設
〃	県単治山	日野浦	美川村	L = 土留工	16.4 m	2,000,000	1,000,000	800,000	200,000	(株)美川建設 美川建設
〃	〃	東川	〃	L = 土留工	12.3 m	2,000,000	1,000,000	800,000	200,000	高岡建設(倫) 高岡建設
3	復旧治山	御三戸	愛媛県	アンカー工	15孔	18,627,000	18,627,000	0	0	国土防犯(株) 野辺忠光
〃	〃	栄重	〃	落石防止柵	23 m	9,742,000	9,742,000	0	0	(株)美川建設 美川建設
〃	水源地域 緊急整備	水押	〃	作業道 L = W =	600 m 3 m	29,043,000	29,043,000	0	0	大久保建設(株) 大久保正一
〃	県単治山	七鳥	美川村	L = 土留工	38 m	6,000,000	3,000,000	2,400,000	600,000	(株)美川建設 美川建設
4	子防治山	栄重	愛媛県	土留工 水路	40.7 m 25 m	22,591,000	22,591,000	0	0	(株)美川建設 美川建設
〃	緊急治山	七鳥	〃	谷止工	364㎡	24,368,000	24,368,000	0	0	(倫)中岡組 中岡組
〃	水源地域 緊急整備	水押	〃	森林整備	26ha	36,421,000	36,421,000	0	0	県越森伊連平 越智伊連平
〃	県単治山	御三戸	美川村	L = 土留工	27.5 m	8,000,000	4,000,000	3,200,000	800,000	(株)美川建設 美川建設
〃	〃	大川	〃	L = 土留工	18 m	5,000,000	2,500,000	2,500,000	200,000	(倫)高山建設 高山建設
〃	〃	有枝	〃	土留工 L =	11.3 m	5,400,000	2,700,000	2,700,000	0	伊豫建設(株) 平柳幸次郎

5	復旧治山	下 中	愛媛県	谷止工 流路工	533 22 m ³	30,024,500	30,024,500	0	0	(有)高山建設 代高山 設猛
〃	予防治山	大川影浦	〃	土留工 水路工	116 32 m ³	29,392,100	29,392,100	0	0	(株)美川建設 代西山公 設彦
〃	〃 〃	仕 出	〃	床固工 流路工	45 82 m ³	16,745,700	16,745,700	0	0	(有)中岡組 代中岡 組隆
5～ 6	緊急治山	上黒岩 セバガタニ	〃	谷止工	1,111 m ³	53,163,500	53,163,500	0	0	(株)美川建設 代西山公 設彦

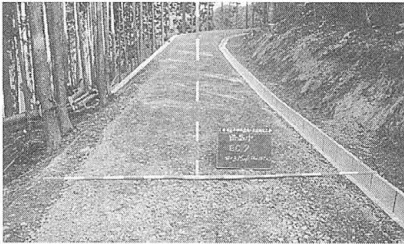
地すべり防止対策事業施行状況

実施 年度	工 種	地 区 名	事業 主体	事 業 量	総事業費	事 業 費 内 訳			請 負 業 者
						国県補助金	村 費	地元負担金	
昭和 59	地すべり 防 止	東 川 アオツエ	愛媛県	0.2ha	円 21,912,000	円 21,912,000	円 0	円 0	高岡建設(有) 代高岡 設稔
60	〃	〃 〃	〃	0.4ha	円 22,255,000	円 22,255,000	円 0	円 0	〃 〃
61	〃	〃 〃	〃	0.25ha	円 18,944,000	円 18,944,000	円 0	円 0	〃 〃
平成 元	〃 〃 (修繕)	〃 〃 シモムカエ	〃	重直壁他 91 m ³	円 5,871,000	円 5,871,000	円 0	円 0	(有)中岡組 代中岡 組隆
2	〃 〃	横 山	〃	法粹工 1,019 m ²	円 22,815,000	円 22,815,000	円 0	円 0	高岡建設(有) 代高岡 設稔
3	〃 〃	置 俵	〃	床固工 156 m ³	円 14,626,000	円 14,626,000	円 0	円 0	アマノ建設(有) 代天野輝雄

第2編 産業経済



置俵 地区地すべり防止対策事業



県単林道 池ヶ成線 (森林組合)



地区復旧治山事業



作業道 (ジャガー道) の開設 (森林組合)

4	4	4	床固工 流路工	49m ³ 73m	14,781,000	14,781,000	0	0	国士辺防忠災機 野田中則光
4~5	4	4	杭打工 集水井工	40本 12m	97,408,100	97,408,100	0	0	国士辺防忠災機 野田中則光
5	5	5	置俵	集水井工 リソング 430m	59,813,100	59,813,100	0	0	日本基礎技術機 田中則光
〃	〃	〃	タキヤマ	集水ポーリソング 140m	6,715,600	6,715,600	0	0	国士辺防忠災機 野田中則光

第五節 林業振興事業

一 森林整備計画

美川村の森林整備計画は、昭和六〇年五月一日、市町村森林整備計画策定等事業の指定を受け、これに基づき種々の事業を実施しているが、その基本構想は次のとおりである。

(一) 間伐、保育その他森林の整備に関する基本的な事項

森林施業については、美川村森林組合を中心に進められているが、森林組合は、高性能林業機械等を保有しておらず、また、林家の経営規模も小さく、林業従事者の後継者不足、高齢者・村外者の増加により、間伐・保育等の施業は十分とはいえない状態である。

森林施業コストの低減を図るため、林道・作業道等の開設に努め、高密度路網を整備するとともに、高性能林業機械等の導入についても検討し、作業能率の向上に努め

る。

また、森林施業を組織的・計画的に行うため、経営規模が零細で林地が分散していることをふまえ、森林組合への施業委託や信託等を促進し、団地共同森林施業を推進する。更に、森林組合等事業体就労者の安全衛生の確保、社会保険の加入等、福祉の向上及び就労の安全を図るなど、労働環境や労働条件の改善を推進する。

(二) 森林施業の共同化の推進に関する事項

本村の林家は、六九六戸で、そのほとんどが農家兼業林家である。

森林所有規模五ヘクタール未満の林家が、全体の六〇パーセント、一〇ヘクタール未満の林家が、全体の八二パーセントを占め、極めて零細な上に林地が分散していることから、施業の共同化を促進する必要がある。

林業の零細、分散的な所有形態を克服しつつ、森林の培養と森林生産力の増進を図っていくため、今後もさらに村と森林組合が連携し、団地共同森林施業を強力に推進していく。そのため、受け皿となる森林組合の組織・経営基盤の充実を図り、地域林業形成の実践的・中核的

担い手として育成強化する。

(三) 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項

林業従事者の高齢化、後継者不足、及び木材並びにしいたけ価格の長期低落等により、生産活動が低迷している林業の活性化を図るため、地域林業の中核的担い手として、森林組合の育成強化に努める。また、次代を担う林業後継者の育成を図る一方、林業に従事している人に対して各種技術研修会・講演会等を積極的に行う。

更に、林業従事者の技術の向上、社会保障制度・退職金共済制度・労働安全衛生・機械化等を促進し、林業従事者の福祉の向上と後継者の確保を図る。

(四) 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項

林業の機械化は、当村においては、村全体が急傾斜地でもあり、また、高性能林業機械が活用できる道路網の整備が遅れており、導入は図られていない。

しかし、林業労働者の高齢化、後継者不足等により、労働生産性の向上が必要であり、労務の軽減からも機械

化が重要なものとなってくるため、現行の手持ち機械を中心とした作業体系から、当村の地形に適した作業機械の導入を図る。また、森林組合を中心に、オペレーターの養成を図りながら、高性能林業機械の作業体制のシステム化を図る。

(五) 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項

本村における林道は、平成五年末現在で、四五路線、延長一〇一・四キロメートル、林道密度はヘクタール当たり九・一八メートルとなっており、整備は順次進んでいる。保育・間伐林分の多い当村においては、今後とも、林道と施業対象地を有機的に連結し、集約的な施業を確保するための作業路の整備を促進する。特に、所有規模の小さい森林が多く、保育・間伐・搬出を一体的かつ計画的に行える地域にあっては、森林所有者が共同して行うなど、効率的な路網の整備拡充に努めるものとする。

(六) 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に

関する事項

当村の素材は、森林組合、素材生産業者、林家で生産され、その大部分が素材のまま他町村に運ばれていた。

しかし、平成二年度に完成した国産材加工施設で、本村の約三〇パーセントの原木を加工し、製品として出荷している。

今後は、乾燥機及びモルダーを導入し、より一層製品の付加価値を高めるべく、計画を進めている。

しいたけ生産については、本村には、しいたけ生産組合を結成しているが、高齢化、後継者不足が深刻な問題となっていることから、生産基盤の整備、経営の合理化、協業化を推進し、生産向上を図る。

二 新林業構造改善事業

本村では、現在までに第一次・第二次林業構造改善事業、林業構造改善関連整備緊急対策事業、新林業構造改善促進対策実験事業を実施し、生産基盤の整備、協業の推進等を図り、地域林業を振興してきた。

更に、昭和六一年度に、山村林業構造改善事業の指定を受け、昭和六三年度から平成四年度の五か年間で、総額五二九二万三〇〇〇円で実施した。その内容は、次のとおりである。

(一) 国産材加工施設整備事業（六三～元年度）

主幹産業である林業の活性化を図るため、本事業により、敷地造成、作業棟、倉庫、管理棟、貯木場舗装、機械施設等の国産材加工施設を設置し、付加価値を高めることよって、林家の所得の増大と林業従事者の雇用の安全確保を図ることに努めた。

(二) 組織化活動事業（元～四年度）

協議会を開催したり、啓発普及活動として年二回の「林構だより」を村内に配布した。

(三) 森林施業・経営指標団地整備事業（二～四年度）

間伐施業指標団地を田渡野瀬・丸山の二団地に設定し、合理的な林業経営をモデル化し、地域林業の普及に努めた。

(四) 林道開設事業(二〇四年度)

森林施業の適正化と生産コストの低減を図るため、内分線一八七四・一メートルと井出口線八八八・一メートルを開設した。



ホイールローダ

(五) 基盤整備用機械施設整備事業(二〇四年度)
林道の維持管理は、それまで受益者に委ねており、毎

年最低二回の補修を行っていたが、長期化する林業不況、過疎化等のため、人力による補修は年々困難性が高まっている。このような状況を踏まえ、平成二年度にグリーダー一台、平成四年度にホイールローダ一台を導入して、全村を対象に林道の効力と構造物の機能を確保維持することに努めた。

(六) 生産環境施設整備事業(三〇四年度)

林業生産活動・林業従事者の定住化を図るため、林道藤社支線一四八九・六メートルを舗装整備した。

新林業構造改善事業

実施 年度	事業区分		事業 種 目	事業 主 体 名	施工 箇所名	工種又は 施設区分	構造規格 又は規模	事業量		総事業費
	大区 分	小区 分								
63	林業経営近代化施設整備事業	加工施設整備事業	国産材加工施設整備事業	美川村 森林組合	美川村 仕出	作業用建物	木造平屋建	1棟	917㎡	47,357千円
						製品保管倉庫	〃	1棟	495㎡	19,621
						管理棟	〃	1棟	96㎡	10,066
						チェンソー	30KW×6P	1台		3,126
						貯木場整備新設		1か所	9,687㎡	37,790
						クロスカッター	37KW	1台		750
						横切機	1.5KW	1台		640
						自動研磨機	1.5KW	1台		650
事業費合計									120,000	
	地域林業組織化推進事業	組織化促進事業	組織化活動事業	美川村 森林組合		啓発普及活動		2回		200
						協議会開催		3回		30
	林業経営近代化施設整備事業	加工施設整備事業	国産材加工施設整備事業	美川村 森林組合	美川村 仕出	製材施設				
						帯鋸盤		4台		41,830
						鋸仕上げ機		1台		1,500
						集じん装置		1台		2,300
						焼却炉	KW—7型	1基		5,700
						剥皮施設建物	木造平屋建	1棟	31.89㎡	4,040
リングパーカー	7.5KW	1台		13,850						

元						貯木場舗装		1か所	6,914㎡	20,589
						全自動耳摺機	自動選別機付	1台		7,300
						結束機	手動式	1台		300
						コンプレッサー	エアドライヤー付	1台		380
						搬送装置	1～21番	1台		10,650
						自動背割機	研磨カビ止装置付	1台		2,500
						加工機械据付工事		1件		1,154
						電気工事		1件		5,200
						サイレンー式	TD-71	1台		60
						防犯灯	20W	1か所		14
						法面保護土	種子吹付	1か所	7,889㎡	1,437
						フォークリフト	1.5t5FD25	2台		4,400
						トラック	5.5tGD3HJA	1台		5,700
						機械保管倉庫	木造平屋建	1棟	48㎡	2,000
事業費合計										131,134
2	地域林業組織化推進事業	組織化推進事業	組織化活動事業	森林組合		啓発普及活動		5回		50
						団地運営協議会		2回		20
		森林施業経営指標団地整備事業	森林施業経営指標団地整備事業	森林組合	田渡野瀬	育林間伐		6.7ha	1,918	
				丸山	〃		9.51ha	1,062		
	林業生産基盤整備事業	林道開設事業	美川村	内分線	林道開設	W = 3.0m	1路線	628.5m	41,726	
			井出口線	〃	〃	〃	444.3m	35,000		

	林業経営近代化施設整備事業	生産施設整備事業	基盤整備用機械施設整備事業	美川村		グレーダ	GD355-1A 100PS	1台		9,700
	事業費合計									89,476
3	地域林業組織化推進事業	組織化推進事業	組織化活動事業	森林組合		啓発普及活動		2回		150
		森林施業経営指標団地整備事業	森林施業経営指標団地整備事業	森林組合	田渡野瀬	育林間伐			5.5ha	1,000
					丸山	〃			13.3ha	2,000
	林業生産基盤整備事業		林道開設事業	美川村	内分線	林道開設	W = 3.0m	1路線	614.0m	43,000
					井出口線	〃	〃	〃	274.7m	28,672
	林業者定住促進事業	林業環境整備事業	生産環境施設整備事業	美川村	藤社支線	林道舗装	W = 4.0m	〃	513.8m	12,000
	事業費合計									86,822
4	地域林業組織化推進事業	組織化推進事業	組織化活動事業	森林組合		啓発普及活動		2回		150
		森林施業経営指標団地整備事業	森林施業経営指標団地整備事業	森林組合	田渡野瀬	育林間伐			5.6ha	855
					丸山	〃			1.6ha	161
	林業生産基盤整備事業		林道開設事業	美川村	内分線	林道開設	W = 3.0m	1路線	631.6m	48,000
					井出口線	〃	〃	〃	169.1m	27,000
	林業経営近代化施設整備事業	生産施設整備事業	基盤整備用機械施設整備事業	美川村		ホイローダ	WS300A II 37PS	1台		5,371
林業者定住促進事業	林業環境整備事業	生産環境施設整備事業	美川村	藤社支線	林道舗装	W = 4.0m	1路線	975.8m	20,254	
	事業費合計									101,791
	総計									529,223

三 間伐促進強化対策事業

本村における森林面積一万二二〇一ヘクタールのうち、民有林面積は一万一〇三九ヘクタールであり、民有林の樹林地一万六七三ヘクタールのうち、人工林が九五七六ヘクタールを占め、人工林率は八九・七パーセントと高い比率になっている。

この人工林のほとんどが、戦後の積極的な拡大造林によるものであり、現在においては、着々とその森林資源を蓄積している。

しかし、この人工林の多くは、いまだに保育間伐等の森林施業を必要とする三〇年生以下の若齢林（七一パーセント）であるため、今後も育成途上にある森林に対して、間伐等を中心に適正な森林施業管理を行うことにより、森林資源の充実、質的向上を目指して、健全な森林を造成することが大きな課題である。

このような諸情勢に対処して、地域の実態に即した集団的な間伐を、組織的かつ計画的に促進することを目指して、更に平成二年度から平成六年度までの五か年間に

わたり、間伐促進強化対策事業を実施することとし、要綱が制定された。

これに伴い、本村においても、五か年間で八二〇ヘクタール実施計画を樹立し、次の事業に取り組んでいる。

昭和六〇〇六二年度は間伐促進総合対策事業として、間伐実施事業七二二ヘクタールの他、間伐基盤整備事業で、作業道一路線一二五メートルを開設した。

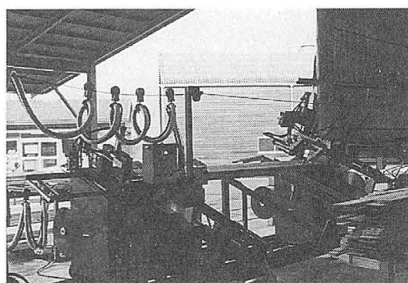
また、昭和六三年〇平成元年度には、森林地域活性化緊急対策事業により、間伐実施事業六〇〇ヘクタール、作業道一路線二〇六〇メートルを開設した。

(一) 間伐実施事業

この事業は、原則として、森林整備計画の対象とする森林の区域で、集団的な間伐を計画的に実施すべき緊急間伐対象森林が概ね五ヘクタール以上で、林齢が四〇六齢級の人工林を一団地として設置し、本村においては、平成二年〇平成六年度の五年間に八二〇ヘクタールを実施する計画である。

間伐促進強化対策事業

実施年度	工 種	地 区 名	事業主体	事業量	総事業費
60	間伐促進総合対策事業	上谷団地他12	森林組合	172ha	16,363,077 ^円
61	〃	長瀬下団地他16	〃	250ha	25,488,728
62	〃	クルスノ峠団地他23	〃	300ha	30,639,385
	間伐基盤整備事業 作業道イワタケ線	大 川	〃	1,255m	16,000,000
63	森林地域活性化緊急 対策事業	仕七川1他9	〃	300ha	30,412,414
	間伐作業道等整備事業 作業道ササミネ線	黒 藤 川	〃	720m	10,000,000
元	森林地域活性化緊急 対策事業	仕七川1他9	〃	300ha	30,613,818
	間伐作業道等整備事業 作業道ササミネ線	黒 藤 川	〃	1,340m	20,600,000
2	間伐促進強化対策事業	仕七川1他9	〃	220ha	21,454,990
3	〃	仕七川1他4	〃	100ha	9,978,000
4	〃	仕七川1他5	〃	50ha	5,262,000
5	〃	仕七川1他2	〃	30ha	3,957,000
	流通施設等整備事業	仕 出	〃	1台	5,974,000



全自動木材結束機



間伐実施事業

(二) 流通施設等整備事業

昭和六三年〜平成元年度にかけて、林業構造改善事業で導入した国産材加工施設の充実を図るため、本事業において、全自動木材結束機一台を導入した。

このことにより、個人労力も軽減され、なおかつ人員削減ができ、全体の生産性の増大が促進されている。

また、自動結束のため、作業員の労働安全性及び省力化の面でも大きな威力を発揮している。

四 森林整備促進特別緊急対策事業

本村では、柳谷村・面河村とともに「森林整備促進特別緊急対策事業」の指定を受け、平成四年度から平成八年度まで「上浮穴東緊急対策地域」として実施している。

この事業では、一施行地一〇アール以上が補助対象となり、団地の設定は不要である。

また、除・間伐は二回・三回目まで対象となり、大きな特徴として、六〇年生まで間伐補助が受けられるようになり、本村においても、今まで補助対象にならなかつ

た三〇年生以上の林分が補助対象となることから、長伐期施業の実現に必要な高齢級林分（七〜一二齡級）が対象となり、村の指向する優良大径材生産を目指し、間伐材の生産を中心とした、長伐期施業を行っていく上で、画期的な事業となっている。

五 スギカミキリ等被害防除緊急対策事業

この事業は、スギカミキリ等における被害のまん延の防止を図ることを目的とした事業である。

事業内容については、本数被害率が一〇パーセント以上、被害形態は、外樹皮の割れ・横筋・虫糞・脱出孔等が認められ、面積が〇・一ヘクタール以上の林分が対象であり、昭和六〇年度から実施しており、その状況は、別表のとおりである。

六 村単独事業

近年における林業を取りまく情勢は、過疎化・高齢化による林業労働力の確保難、林業生産基盤整備や林業機

スギカミキリ等被害防除緊急対策事業

(単位 円)

年度	か所数	面積	金額	県	村	その他
60	6	1.77ha (55) 385	900,000	300,000	300,000	300,000
61	5	1.50 (30) 245	750,000	250,000	250,000	250,000
62	—	— — —	—	—	—	—
63	8	2.80 (60) 510	1,368,000	456,000	456,000	456,000
元	5	2.01 (60) 516	855,000	285,000	285,000	285,000
2	5	2.61 (56) 502	855,000	285,000	285,000	285,000
3	3	1.05 (46) 423	513,000	171,000	171,000	171,000
4	3	2.00 (75) 452	513,000	171,000	171,000	171,000
5	3	1.26 (20) 364	420,000	140,000	140,000	140,000

※ 昭和62年度は、事業休止。

械化の遅れ、外材輸入の増加、非木質系資材との競合等、依然として厳しいものがある。

そこで、本村では林家の造林意欲の減退防止と林業の活性化を図るため、種々の補助事業を導入して、生産基盤などの整備向上に努めてきたが、単独事業としても、次に掲げる事業等を継続して実施し、林家の要望に少しでも応えるための努力をしている。

(一) 林内作業路補助金

この事業は、主として間伐材など伐倒木の搬出、造林用資材及び労務の搬入等、森林施業を容易にするために、車道と山林内を結ぶ幅員二メー

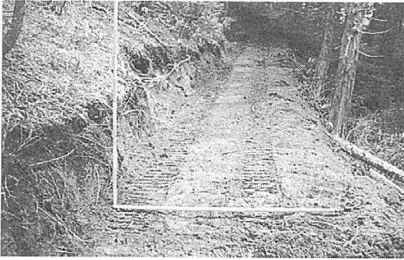
トル以内の簡易な林内作業路（通称「ジャガー道」）を開設するもので、昭和五八年度から継続して実施しており、この一〇年間に飛躍的に伸び、五年度までに森林一ヘクタール当たり、一七・七メートルに整備されている。

(二) クヌギ造林補助金

この事業は、本村におけるしいたけ生産低迷の現状をみると、この最大要因は原木不足によるものであり、将来における生産の安定と増産を図るための原木の確保の一方策として、クヌギの苗木補助を、昭和五九年度から実施しているが、平成元年度を境に、植林本数が急激に減少している。その状況は表のとおりである。

林内作業路開設事業

年度	村 単 独 事 業			県 単 独 事 業		
	延長	事業費	摘 要	延長	事業費	摘 要
58	9,639 m	2,000千円	m当たり 400円以内 の1/2の補 助	—	—	
59	18,722	4,000		—	—	
60	16,132	4,000		34,537 m	6,100千円	事業費1/2
61	13,762	4,000		17,058	3,200	
62	14,185	3,000		19,264	3,500	
63	20,007	5,000		21,346	4,500	
元	34,606	8,000	雪 害 対 策	40,971	9,000	
2	14,193	4,000		35,141	8,000	
3	14,590	4,000		34,424	8,000	
4	20,416	5,000		34,369	10,000	
5	18,902	5,000		35,665	10,000	



林内作業路（ジャガー道）

村単独クヌギ造林事業

年度	人数	本数	金額	補助金	補助率
昭和	人	本	円	円	
59	6	3,800	204,400	204,400	100%
60	17	15,480	561,630	561,630	100
61	15	12,468	536,124	536,124	100
62	18	16,240	697,870	697,870	100
63	20	15,600	639,300	450,000	70
平成					
元	10	5,100	219,300	153,300	70
2	8	3,850	165,550	115,885	70
3	8	3,250	124,450	87,115	70
4	7	4,000	198,800	139,160	70
5	5	450	22,500	0	—

※ 平成5年度は、補助対象以下である。

(三) 製材品コンクール

製材品コンクールは、毎年一月三日に行われる「みかわまつり」の協賛行事として開催されており、昭和六一・六二年度には、団体事務所森林組合下倉庫にて、林業資料とともに製材品の展示をしたのを皮切りに、昭和六三年度からは、場所を役場地下駐車場に移し「製材品コンクール」として審査を行い、入賞者の表彰を行っている。

この製材品コンクールは、村林研グループ協議会の会員を中心とし、製材品(柱もの)の展示を行い、保育の状況や成育の状況等を把握するとともに、会員相互の研究の場として進めている。受賞者は、別表のとおりである。

製材品コンクール受賞者名簿

	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度
金賞 スギ	猪上 俊彦	佐ヶ山 茂喜 上田 輝男	阪本 賢一	上田 輝男	漆田 伸幸	猪上 桂一郎
ヒノキ	栄代 良比古	梶家 修 正岡 剛	栄代 良比古	小倉 杉野	福田 峰晴	栄代 良比古
銀賞 スギ	小倉 杉野	堀口 秀幸	安宅 公広	瀧内 光雄	大南 進	吉田 石喜
ヒノキ	向井 純司	福田 力徳	梶家 修	福田 峰晴	上田 輝男	佐ヶ山 幹彦
スギ	漆田 伸幸	綱田 章				
〃		佐ヶ山 茂喜				
銅賞 スギ	石元 勲	土井 杉夫	小椋 英一	向井 純司	猪上 桂一郎	石元 勲
ヒノキ	山村キヨ子	西森 福夫	猪上 俊彦	猪上 俊彦	向井 純司	阪本 直茂
スギ	綱田 章	西森 福夫				
〃	藤本幸三郎					
ヒノキ		上田 輝男				
努力賞 スギ			福田 峰晴			
ヒノキ			山田 寿雄			
〃			亀崎 保			
〃			上田 輝男			

第四章 その他の産業

第一節 畜産業

最近の畜産業をめぐる情勢は、全般に需要の伸びが総じて鈍化しており、需給の不均衡、畜産物価格の低迷といった事態を招来している。また、経営動向については、規模拡大が着実に進展する一方で、零細飼養戸数は減少しており、更に、平成三年四月に、牛肉の輸入が自由化され、生産・流通面で様々な影響が現れている。

このような状況下、畜産物の安定供給と畜産経営の健全な発展を図っていくために、村が事業主体となって、愛媛県高齢者生きがい対策肉牛飼育事業を実施し、肥育の用に供する肉用牛を、概ね六〇歳以上の養畜者に無利子で三年間貸し付け、伊予牛の生産拡大を図り、高齢者の熟練した飼養技術の活用による優良肉牛の肥育飼育を促進するとともに、高齢者の福祉の向上を図る目的で平成五年度に実施した。

平成五年度実績

借入金	三〇〇万円（県より）	無利子
村費	一五二万二二三九円	
合計	四五二万二二三九円	
事業費		

貸付肉牛代 四五二万二二三九円

肉用肥育牛一三頭 八戸

第二節 水産業

面河川漁業協同組合 石鎚山に源を発する面河川と、久万町三坂峠を源流とする久万川とが、美川村御三戸で合流し、高知県境までの本流約五〇キロと、その他多くの支流を持つ面河川には、地域住民はもとより、松山市や高知県等からも多くの遊漁者が訪れ、漁業だけでなく、健全なスポーツ、レクリエーションの場ともなってきた。

昭和五〇年代には、平均一五〇〇キログラム程度放流を行っていたアユも、昭和六一年後、三〇〇〇キログラ



アマゴの放流

ムを超え、他の魚種別にみても年々放流数は増加している。
 しかし、一方では、河川工事が進む中、農業排水及び生活雑排水等の自然浄化作用がほとんど失われてきているのが現状であり、年と場所によっては数万尾放流したアユがほとんど生息しない状態もでてきている。
 今日まで、当組合としては、漁場環境を保全するため

面河川漁業協同組合歴代組合長

代	組合長氏名	就任年月日	退任年月日
初代	高岸勝繁	昭和11. 6. 30	昭和13. 7. 26
2代	久保雅晴	13. 7. 27	14. 6. 25
3代	土居勘太郎	14. 6. 26	15. 6. 6
4代	水元市松	15. 6. 7	16. 6. 11
5代	八幡文太郎	16. 6. 11	17. 6. 7
6代	久保内幸吉	17. 6. 8	19. 8. 15
7代	重見丈太郎	19. 8. 16	24. 8. 15
8代	永井元栄	24. 8. 16	31. 9. 30
	代理 平岡英男	31. 9. 30	32. 8. 13
9代	平岡英男	32. 8. 14	42. 5. 23
10代	高岸勝繁	42. 5. 24	56. 4. 16
11代	高木松太郎	56. 4. 16	57. 5. 11
12代	村上清章	57. 5. 11	60. 5. 11
13代	森岡惇一	60. 5. 11	

面河川漁業協同組合年次別魚族放流数

(単位 kg)

	あゆ	うなぎ	こい	ます	あまご	その他
昭和60	2,800	420	1,000	300	1,100	いだ 200
61	3,000	450	1,000	300	1,000	200
62	3,200	435	1,200	400	1,500	200
63	3,400	350	2,000	400	1,500	200
平成元	3,000	450	2,500	400	1,700	200
2	3,600	660	3,500	400	1,620	200
3	3,700	650	2,000	400	1,600	200
4	3,913	525	2,500	400	1,600	200
5	3,442	600	1,500	400	1,519	200

の啓発や、宣伝活動、漁場の清掃等を毎年積極的に行っており、各河川工事に対しては、極力汚濁排水を少なくする工法で、また、魚類の繁殖保護に悪い影響のある時期を避けての工事施工を要請し、河川の水質汚濁防止対策に努めている。

第五章 商工業

第一節 地域の活性化をめざした商工業の役割

人口が地域活性化の重要な要素となることは、これまでの各統計指標等によって明らかである。しかも、その人口が、長期的には減少するであろうことも、容易に予想できる。

したがって、現在の状態で推移すると、多くの事業者が打撃を受けることになりかねない。こうしたことを避けるため、地域商工業者に奮起と努力が望まれる。

ところで、人口が増減する要因には、出生率や死亡率の変化によって増減する自然増減と、転入・転出といった人口移動による社会的増減の二つがあると思われる。

このうち、人口の社会的増減のかわり、商工業者が担うべき課題を考えると、人口が増減する要因として経済的要因、文化的要因、地理的要因が考えられる。

経済的要因は、その地域に雇用の機会があり、働く場があるということである。これはつまり、所得機会があるということの意味する。

そこで、住民に職場とそれに伴う所得機会を提供するために、職場づくりを行わなければならない。言い換えれば、事業を活発にすることが、人口を増加させる大きな要因となる。その方策として、職場の環境整備や新しい産業起こしが考えられる。

次に、文化的要因として、文化を人の営みそのものの様式としてとらえると、そこには、生活に必要な物資やサービスをどのように手に入れ、いかに消費するかといった精神文化が生まれる。

消費文化を支えているのが商業である。つまり、商業は地域に人口が定着する大きな要因である。したがって、商業機能の地域における充実、人口の定着しない人口減に歯止めをかけるために、ぜひとも取り組まなければならない課題である。

商業機能の充実によって地域人口を増加させ、あるいは、少なくとも人口の減少に歯止めをかける要因となる、消費者の立場に立った商業機能の見直しが不可欠で

あるように思われる。

豊かな社会は、消費者に選択の自由と利便性を与えた。商業は、これら消費者の要求にマッチした商業機能の再生を図らなければならない。

更に、地理的要因としては、それぞれの地域の地理的条件はそれぞれ固有のものである。したがって、これらの条件については、それを売りものにしたたり、あるいは逆手にとった施策を打ち出すことによって、それを生かすことにもなる。

当村においても、田舎のもつさまざまな良いイメージ、スキー場・清流・御三戸嶽・岩屋寺・上黒岩遺跡等、地域の観光をアピールするには好条件ともいえる数々の名所がある。これらの地理的条件を生かし、村外の人々に対し、美川村について良いイメージを与えていくことも、人口の定着を促す一つの要因と考えられる。

第二節 商工会の歩み

平成四年八月に、アグリトピア事業により、農村活性化

センターみかわが建設された。商工会は、活性センターを村活性化の一拠点と考え、その運営に協力していく方針である。

更に、美川村の現状をみると、人口の減少、高齢化が進み、商工会組織においても同様の傾向がみられる。

したがって、今後、商工会の歩むべき方向は、商工会単独運営の考え方ではなく、行政と一体となり、地域の発展、活性化に積極的に取り組むことであり、そのことが、商工会の発展にもつながると考える。

業種別事業所数

業 種	平成5年度末
建設業	20
製造業	8
卸売業	2
小売業・飲食業	63
サービスの業	8
その他	21
合 計	122

第2編 産業経済

年度別主要事項の推移

年 度	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5
商 工 会 員 数	144	146	144	145	139	135	130	131	128	122

実 績

年 度	相 談 指 導		金 融 幹 旋		講 習 会 開 催		労 働 保 険 事 務 代 行	
	巡回指導	窓口指導	件数	金 額 (万円)	回数	人数	委 託 事業所数	対 象 従業員数
59	284	110	33	9,030	16	168	58	281
60	318	90	36	9,500	15	148	52	256
61	217	67	33	5,820	9	68	40	281
62	251	89	30	9,665	5	42	40	309
63	365	33	17	3,050	5	41	43	311
元	315	52	19	5,450	6	39	44	295
2	322	39	30	8,960	5	35	45	297
3	364	26	21	4,090	3	37	48	281
4	208	16	24	5,770	1	8	50	296
5	261	32	29	10,340	4	32	43	251

商工会財政状況

収 入 の 部 (単位 千円)							支 出 の 部 (単位 千円)				
科目 年度	会費	県 補助金	村 補助金	手数料	その他	計	経営改 善普及 事業費	一 般 事業費	管理費	次 期 繰越金	計
	59	228	8,618	700	1,292	1,604	12,442	9,562	610	1,364	906
60	222	8,687	700	1,610	1,215	12,434	9,781	650	1,343	660	12,434
61	227	9,177	700	1,721	1,003	12,828	10,024	705	1,360	739	12,828
62	224	9,213	1,000	1,715	885	13,037	10,305	631	1,477	624	13,037
63	316	9,647	1,072	2,006	791	13,832	10,906	785	1,674	467	13,832
元	231	10,411	1,000	2,141	691	14,474	11,704	796	1,672	302	14,474
2	224	11,023	1,000	2,150	507	14,904	12,253	689	1,619	343	14,904
3	226	11,505	1,000	2,124	509	15,364	12,862	722	1,563	217	15,364
4	225	11,832	4,200	2,155	360	18,772	13,243	3,016	2,348	165	18,772
5	780	9,314	1,500	2,328	314	14,236	10,428	1,365	2,134	309	14,236

役員一覽表

補 經 監 理 副 会 役													職 年 度						
助 指 " " " " " " " " " " " " " " 会																			
員 事 事 事 長 長																			
八石	一ノ宮	桜木	木山	小椋	村上	宮城	中家	古谷	岡崎	岡上	岡田	大野	竹内	土居	高木	篠崎	天野	昭和五九	
朱美	照昌	徳潔	重重	正一章	清ヨシ子	好喜	淳一郎	守雄	久貢	利男	賀留	義明	松太郎	義雄	輝雄				
八石	一ノ宮	桜木	山田	浜田	小椋	村上	宮城	中家	木山	桑村	高橋	岡田	篠崎	竹内	土居	大野	高木	天野	昭和六二
朱美	照昌	徳潔	重重	鶴喜	正一章	清ヨシ子	好喜	博史	隆雄	久義	賀留	義明	利一	松太郎	輝雄				
八石	一ノ宮	桜木	山田	浜田	山本	村上	宮城	高木	日浦	桑村	高橋	岡田	篠崎	竹内	土居	大野	中家	天野	平成元
朱美	照昌	徳潔	重重	鶴喜	実章	清ヨシ子	松太郎	義勝	隆雄	久義	賀留	義明	利一	好喜	輝雄				
八石	一ノ宮	平岡	木山	浜田	山本	村上	宮城	高木	日浦	桑村	村上	岡田	篠崎	竹内	土居	大野	中家	天野	平成三
朱美	照昌	哲郎	徳重	鶴喜	実章	清ヨシ子	松太郎	義勝	隆雄	正一	久義	賀留	昭平	利一	好喜	輝雄			
八石	伊藤	平岡	木山	浜田	山本	村上	宮城	高木	日浦	桑村	村上	岡田	篠崎	竹内	土居	大野	中家	天野	平成五
朱美	重紀	哲郎	徳重	鶴喜	実章	清ヨシ子	俊三	義勝	隆雄	正一	久義	賀留	昭平	利一	好喜	輝雄			
八石	伊藤	山口	木山	浜田	山本	村上	宮城	高木	日浦	桑村	村上	岡田	篠崎	竹内	土居	平岡	中家	大野	平成六
朱美	重紀	幸重	徳重	鶴喜	実章	清ヨシ子	俊三	義勝	隆雄	正一	久義	賀留	昭平	哲郎	好喜	利一			

青年部役員一覽表

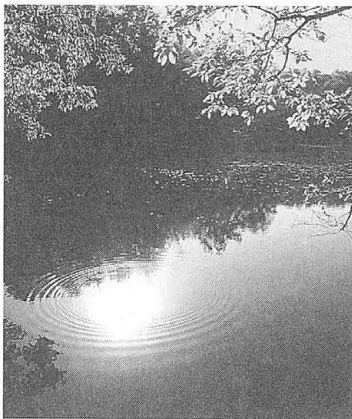
役職		年度	
部長	村上 菊三	昭和六三	〃
副部長	大堀 辰雄	平成二	〃
体育委員	倉橋 正	高岡 春彦	〃
社会奉仕委員	高木 俊三	村上 菊三	〃
觀光委員	中田 龍明	村上 菊三	〃
會計	高木 俊三	中田 龍明	〃
	桜木 哲男	中田 龍明	〃

婦人部役員一覽表

役職		年度	
部長	浜田 鶴喜	昭和六三	〃
副部長	山中ともえ	平成二	〃
常任委員	桑村 征子	山中ともえ	〃
〃	久保ユキ子	久保ユキ子	〃
〃	岡林 幸子	岡林 幸子	〃
〃	竹内みね子	竹内みね子	〃
〃	亀岡 清子	亀岡 清子	〃
〃	団上 絹子	団上 絹子	〃
〃	安宅 節子	宮城ヨン子	〃
〃	土岐 邦子	宮城ヨン子	〃
監査委員	宮城ヨン子	宮城ヨン子	〃

第三節 觀光

美川村の觀光地として、美川スキー場・御三戸遊園地・岩屋寺・上黒岩陰遺跡・赤蔵ヶ池などがあるが、過去一〇年間の開発で特に力を注いだ、美川スキー場と御三戸遊園地について述べる。



伝説の池「赤蔵ヶ池」

一 美川スキー場

昭和三五年に開設した美川スキー場は、昭和四〇年に待望の第一リフト（六一メートル）の他、第二リフト（三〇メートル）、第三リフト（三二メートル）を新設し、駐車場の整備などを行って来たが、ここ一〇年間は、昭和六二年からの全国的な暖冬雪不足に対する開発にすべてを注ぐことになった。

昭和六一年度 圧雪車購入

昭和六三年度 第五リフト（一二七メートル）新設

人工降雪機四台

（モミノ木コース）

ナイター設備（モミノ木コース）

平成二年度 憩いの森ステージ新設

平成三年度 ステージ周辺緑化

平成四年度 人工降雪機八台

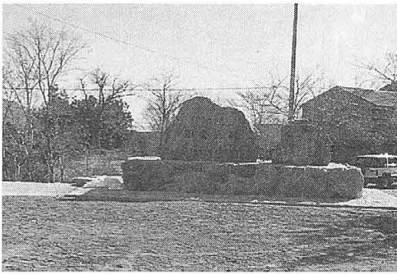
（スカイラインコース）

平成五年度 第一リフト架替え

人工降雪機配管（ロマンスコース）

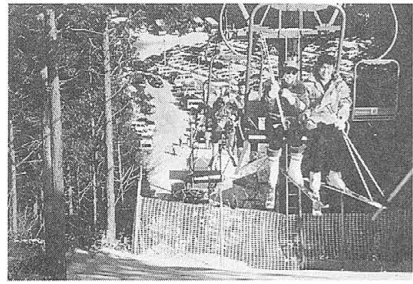
駐車場舗装（平成七年度まで継続）

以上のように、スキーヤーのニーズに対応した開発を



スキー場開設記念碑

記念碑を白銀荘前に建立し、スキー場の歴史の大きな節目を刻んでいる。



賑わう美川スキー場

行い、四国随一を誇るスキー場になり、自然雪不足にもかかわらず、年間三万人以上のスキーヤーが入場するスキー場になっている。

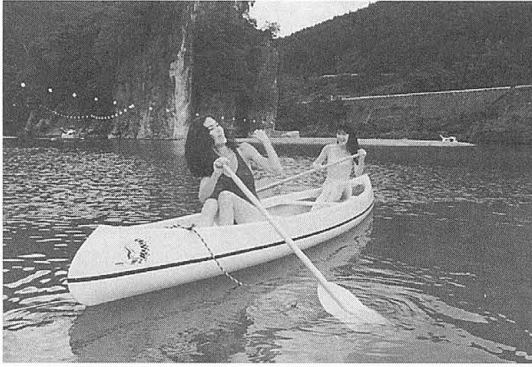
また、平成二年一月には、四国で初めて、三笠宮さまをお迎えして、高松宮杯第三二回西日本スキー競技大会を、京都以西二三府県の参加を受け、盛大に開催した。

また、昭和三五年にスキー場開設を手掛け、以来三〇年を経過した平成

元年に、開設を記念した

記念碑を白銀荘前に建立し、スキー場の歴史の大

きな節目を刻んでいる。



ふれあい河原御三戸遊園地

二 御三戸遊園地

美川の中心地で、面河川と久万川の合流点にあり、村の象徴となっている「御三戸嶽」の周辺で、この自然環境を利用して、キャンプ場と貸ボートをを行っている。昭和五九年に足漕ぎボート五隻、手漕ぎボートを五隻で

三 白銀荘



憩いと安らぎの館「白銀荘」

開設したが、現在では手漕ぎボート五隻と足漕ぎボート三隻とカヌー二隻で営業を行っている。また、八月下旬の土曜日と日曜日には「みかわ川まつり」と称して、水と光のフェスティバルを開催し、多くの人々の参加を得て、美川村のPRに大いに役立っている。

白銀荘は、昭和五九年度・六〇年度の二年間で、用地造成費、主体工事費、電気工事費、衛生工事費など、総工事費一億七六九〇万円をかけて、スキー場に次ぐ大川嶺総合開発の拠点として整備された。

しかし、昭和六二

年、六三年と続いた全国的な雪不足は、白銀荘の営業面へも悪影響を及ぼしたが、昭和六三年度に美川スキー場へ初めて導入され、逐次導入されている人工降雪機による造雪で、スキー場の営業日数が増加したことにより、これに比例し、営業収益も向上しつつある。

また、平成二年一月二日から三〇日にかけて実施された、西日本二三府県による『高松宮杯第三二回西日本スキー競技大会』では、美川村においてなられた三笠宮寛仁の宿泊所や晩餐会場として使用されるなど、大会拠点としても大きな役割を果たした。

近年、全国的な余暇時間の増加傾向により、春から秋にかけての入込み客数も増加しつつあるものの、年間を通じた営業活動の確保には苦慮しており、平成四年度からは、営業面を委託し、平成五年度からは、株式会社みかわへ管理運営委託を行っている。

今後は更に、年間を通じた営業活動を確保し、収益を向上させ、村内の雇用の場としても機能するため、周辺施設の整備が望まれる。

四 美しい村サミット

村名の頭に「美」のつく村は、茨城県の美和村、美浦村、長野県的美麻村、岐阜県的美並村、三重県的美杉村、美里村、和歌山県的美山村、岡山県的美甘村、徳島県的美郷村、そして愛媛県の我が美川村と、全国で一〇か村ある。

この一〇か村の首脳が連帯し相互に交流することによって、それぞれの村の活性化につなげようと、平成元年度から各村の村長、議長が一堂に会し、『全国美しい村サミット』が開催されている。

第一回は、平成元年八月に、一〇か村の村長、議長が初めて岐阜県美並村に集まり、『趣意書』に調印するとともに、姉妹縁組や今後の交流についての協議がなされ、今後この一〇か村を東・中・西の三ブロックに分け、持ち回りでサミットを開催することが決定された。

第二回は、平成二年六月に、茨城県に美浦村で開催され、『友好姉妹村提携盟約書』に調印がなされた。また、この会から交流の和を広げようと、姉妹村の商工会長も

全国美しい村住民憲章



わたしたち全国10ヶ村の美しい村の住民はその名のごとく、澄みわたる空、緑と清流、透明な湖に代表される美しい自然環境にはぐまれ、古い歴史をも文化を創造してきました。美しい村が互いに存存と競争の絆をさらに強め、真の豊かさを平和を要する道を歩んでいくのをめざし、ここに憲章を定めます。

- 「五」に美しい自然を守り、住みよい村をつくりましょう。
- 「五」に協力し活力ある村をつくりましょう。
- 「五」に心のふれあいをたいせつにし、平和な村をつくりましょう。
- 「五」に学び、豊かな村をつくりましょう。
- 「五」に交流を深め、新しい文化を創造しましょう。

平成3年8月18日



全国美しい村自治体連合会
岡山県 美甘村
徳島県 美郷村
茨城県 美浦村
茨城県 美和村
長野県 美麻村
岐阜県 美並村
三重県 美里村
三重県 美杉村
和歌山県 美山村
愛媛県 美川村

参加することとなり、さらに、美しい村一〇か村の郵便局長のサミットも同日程で開催され始めた。

第三回は当美川村で、平成三年一月一七日〜一八日にかけて開催され、『美しい村住民憲章』と『シンボルマーク』が制定された。

このサミットは、みかわ川まつりに合わせて開催されたが、夜の御三戸嶽を背景にした打ち上げ花火、美川縄文太鼓、そして、学校給食センター調理の昼食は、参加者の好評を

得て、盛大かつ成功裏に開催することができた。

以来、第四回が平成四年一月には和歌山県美山村で、第五回は、平成五年八月に、茨城県美和村で、第六回は平成六年七月に、岡山県美甘村で開催されている。

